

国士館史研究年報

楓

FUGEN

原

2024

第16号



学校法人 国士館

Kokushikan

国士館史研究年報

楓

FUGEN

原

2024

第16号



学校法人 国士館

Kokushikan

『楓原』^{ふうげん} 名称の由来

本誌の由来は、創刊号（平成22年3月）の巻頭言「『楓原』を繹^{たず}ねる（室長阿部昭稿）」を抜粋し次に示す。

百年史の編纂を進めるにあたり、調査・研究した成果を発表、蓄積するため、年ごとに「国士館史研究年報」を公刊することにした。年報には「楓原」^{ふうげん}の愛称を付す。「楓」は創立者柴田徳次郎が国士館教育の象徴として、校章や校旗の意匠に用いてきた。「原」は湧き出たばかりの泉を意味し、ものごとの起源を表す。すなわち「楓原」は国士館教育の淵源を意味する。

国士館生の

「よそおい」

制服を含む「よそおい」の変化は、社会の潮流、学校の特徴、そして学生の個性を示すものといえる。

国士館の学生・生徒は、大正期は着物に袴の和装姿で、戦前は金ボタン付き詰襟の制服を、戦後は蛇腹式詰襟の制服を身にまとい、大学においては1970年代まで制服を着用した。

その後、大学生の服装は自由となり、中学校・高等学校の生徒の制服は変更を加えて、現在に至る。

※本口絵は二〇二四年度創立記念展「国士館生のよそおい―大正から令和」を再構成したものである。



珠算授業での商業学校生徒（1940年頃）

草創期のよそおい

―和装姿の学生

1917（大正6）年11月、国士館は、現在の港区南青山にあった民家に創立した。弱冠26歳であった創立者柴田徳次郎（1890～1973）らは、西欧の科学智のみならず、日本の伝統文化を重視する教育理念を唱道した。1919年には世田谷の現在地に移転して、大講堂ほか教育の拠点を整え、高等部を開設した。少人数の全寮制であった高等部は、国の法令に基づく学校ではなく私塾であったこともあって、服装に関する定めはなく、学生は和装姿で厳格な生活をおくった。私塾時代の草創期には、日々の「実践」のなかから、心身を鍛えて知識を修得するという、国士館の理念・伝統の原型が形成された。



松陰神社での高等部学生（1922年）

戦前のよそおい

—制服の登場

国士館は、1925（大正14）年にはじめて「制服」を定めた。法令に基づく中学校創設を機に、金ボタン付き茶褐色の詰襟を制服として採用し、生徒は制帽・制服の「よそおい」で通学した。次いで1926年創設の商業学校で、1929（昭和4）年創設の専門学校でもそれぞれ制服を採用する。

高等教育機関である専門学校の制服は、金ボタン付きの黒色の詰襟とし、黒羅紗の角帽、黒の編上靴と定めた。ただし、全寮制であった専門学校に学生は、日常は和装で過ごしつつ、正装として制服を着用した。

戦時下の影響が色濃くなった1940年、いわゆる国民服令の公布により国民服が義務付けられる以降は、学内でも国民服と制服が入り混じることになった。



剣道遠征に向う制服・角帽姿の専門学校学生（1931年頃）

戦後のよそおい

「蛇腹」と呼ばれる制服

戦禍で校舎を失った国士館では、1953（昭和28）年の短期大学創設、1958年の大学創設という発展過程のなかで、金ボタン付き黒色の詰襟を男子学生の制服と定めた。次いで1960年、新たな制服を採用する。いわゆる「蛇腹」と呼ばれる、ホック掛けの黒色の詰襟、黒色のズボンの登場である。女子学生には、紺色のスー・スカート・ブラウス（青または白色）を制服と定めた。

男子の場合、蛇腹の右襟に校章を、左襟には学部徽章を付けるものとし、式典などの場では角帽の着用も必須であった。中学校・高等学校においても、同様に蛇腹式の制服を採用した。なお制服移行期の在學生は、金ボタン付き黒色の詰襟を蛇腹式に仕立て直して対応した。



10号館前での文学部学生と学生監（1969年）



制服姿で正門前を下校する学生 (1966年)



図書館で定期試験に備える学生 (1970年)

近年のよそおい

―服装の自由化と中高

1973（昭和48）年10月、学内改革の流れから大学での「制服」着用の義務が解かれ、服装の自由化が行われた。ただし、一部のクラブでは正装時の服装とするなど、個々の事情から1990年代までは蛇腹式の制服を着用する学生もみられた。流行に敏感な女子学生のなかには、80年代の「聖子ちゃんカット」やバブル景気時の「ワンレンボデイコン」など、先端のファッションを楽しむものもみられた。

一方、中学校・高等学校の生徒は、時代にあわせながら制服を着用し続ける。1987年に高等学校定時課程で、1990（平成2）年に中学校で、1991年に高等学校全日制課程でブレザー・スラックス・ネクタイを採用した。1994年の男女共学化の導入で、女子生徒の制服はブレザー・スカート・リボンタイと定めて現在に至る。



楓門祭を楽しむ学生（1995年）

巻頭言 国士館創立一一〇周年に向けて

国士館史資料室室長 長谷川 均

二〇二四（令和六）年一月一日に発生した「令和六年能登半島地震」により被災された皆様にお見舞い申し上げます。被災地の復興とともに、被災された皆様の生活が一日も早く平穏に復することを心より祈念申し上げます。

創立一〇七周年を迎えた国士館は、四月に「国士館キャンパス環境整備事業（基本構想）」を公表し、世田谷キャンパスの既存建物の大改修に向け第二步を踏み出しました。長期にわたる校地の再整備事業は、今後の具体化をみせる計画ですが、国登録有形文化財で教育の理念を表徴する国士館大講堂は、移設することなくキャンパスの中心とする構想になっています。また大学においては、従来の総合教育科目と外国語科目が「全学共通教育科目」として再編成され、そのコアとして新たに必修科目「国士館を学ぶ」が設けられました。自校教育と位置付けた同科目には、各学部専門領域の概論のほか国士館の歴史に関する内容も含まれ、該当教材は資料室が担当して初年度の開講を迎えました。

そのなかで資料室の活動は、昨年スタートさせた学外者対象の「大講堂見学ツアー」のほか、三年目の受け入れとなった博物館実習なども実施しました。今夏のパリ二〇二四オリンピック・パラリンピック競技大会を機として、多くのアスリート輩出に至る本学の取り組みをテーマとした企画展「武道からスポーツへ」を実習生の手により開催し、本学出身の選手七名の躍動に華を添えました。

二〇二七年に迎える国士館創立一一〇周年に向け、本学関連の資料の収集・整理を一層推進するとともに、歴史的資料の利用・公開に努めて参ります。引き続き資料室の取り組みに、一層のご支援をお願い申し上げます。

二〇二五年三月吉日

国士舘史研究年報

目次

巻頭言

国士舘創立一二〇周年に向けて……………長谷川 均 7

目次

論文

「制服」にみる国士舘と山田帽子店……………熊本 好宏 11

国士舘とブラジル日系社会の関係

―サンパウロ人文科学研究所の歴史と収蔵資料を中心に―……………清水 邦俊 35

国士館の思い出

「雑考」学帽・学生服をめぐる

— 山田帽子店の資料受贈を通して —

戸間 良次

59

参考

『国士館百年史 通史編』索引 事項編

国士館史資料室

135

令和6年事業報告

国士館史資料室の活動

国士館史資料室

136

1 調査・収集

(1) 主たる資料調査 (2) オール調査 (3) 主な寄贈資料

2 整理・保存

(1) 資料目録作成状況 (2) 資料電子化・保存処置

3 利用・公開

(1) 収蔵資料の公開（収蔵資料検索システム運用状況） (2) ホームページ

(3) 教育普及活動

4 室の構成

(1) 職員 (2) 施設の概要

5 活動日誌

関連規程

国士館史資料室規程

論文

「制服」にみる国士館と山田帽子店

熊本 好宏



【キーワード】服飾史、学校制服・学生服、蛇腹、学帽・制帽

はじめに

近代教育史研究における視点のひとつに、学生・生徒の服装がある。なかでも学校の「制服」は、貧富差に関わらず一体感を示すものであり、また社会の潮流や各学校の特徴を示すものでもある。

男子の制服の代表といえば、「学ラン」と呼ばれる詰襟の学生服が一般的であろう。その起源は明治初期に軍服をモデルにしたとされ、陸軍型と海軍型の二種から派生して現在に至る。近代における学校制服の端緒は、一八七九（明治一二）年に学習院で定めたホック留めの制服（海軍型）で、一八八六年に帝国大学で採用したボタ

ン留めの制服（陸軍型）であったとされる^①。いずれも学生・生徒側が私費で調達した最初の事例として、学校制服の成立起源とされている。また女子の制服は、一八九〇年代の袴姿や一九二〇年代に登場するセーラー服に代表されるが、各学校で多様な意匠を持つ制服が生まれて現在に至る。特に女性史の観点から論究され、総じて和装から洋装への変遷をテーマとした研究がある。戦後の学校制服については、まとまった研究も少なく^②、多くは各学校の沿革史によって個々に探究される。

国士館における制服は、男子の「蛇腹」と呼ばれる制服で知られる。戦後、一九七〇年代まで大学でも着用されたため、ひときわ目立つ存在であったことも一因にあ

る。戦後の大学・短期大学においては、そもそも制服を定めないことも多かった。慶應義塾大学では、戦後、学生

の服装は自由化され、次第に制服はみられなくなり一九六〇年代には「就職試験と卒業写真」で着用するのみであったとされる⁽⁴⁾。拓殖大学においては、制服に関する規定は戦後、制定されなかったとする⁽⁵⁾。また成蹊大学や学習院女子短期大学のように、制服は定めなが、服装の乱れを律する意味で標準服を設定する場合もあった⁽⁶⁾。

このような社会的な潮流にあつて、長年、大学でも制服を着用した点で、国士館における制服の変遷を考察することは意義あるものと考えられる。その制服変遷を略記すれば、戦前の制服は主に金ボタン付きの黒詰襟を、戦後も黒詰襟を継承したが、一九六〇（昭和三五）年に蛇腹の制服へ変更してその独自性を発出した。その間、制帽の製作は山田帽子店が請け負っている。

二〇二三（令和五年）年八月に閉店した山田帽子店は、老舗の専門店として有名で、また学帽の製作でも知られた存在であった。縁あって同年末には、国士館史資料室がその資料一式を受贈する機会を得た。資料は、国士館の学帽のほか各学校の帽章や制服の襟章・バッジである。

寄贈の経緯については仲介の労を頂いた昼間氏の論稿を参照りたい（本号掲載）。

さて本稿は、国士館が定めた制服の変遷を明らかにし、かつ山田帽子店との関わりを考察することにある。さらに山田帽子店資料の整理・分析を通じて、同店が学校制服に果たしてきた役割を考究することも念頭におく。

なお本稿では、帽子に付す帽章や制服に付す襟章などを総称して徽章類と記した。本文の記述はモノクロの写真資料に拠った場合も多いが、色に関する部分は文書史料などから総合的に判断して示した点を断っておく。

1. 国士館における「制服」の変遷

（1）戦前期の国士館「制服」

本節では、国士館の戦前期において設置された各学校の制服の制定・変遷を資料によって考察する。

国士館の創立は、一九一七（大正六）年一月のことである。現在の港区南青山の民家において私塾を開始した。当初、東京府下の大学生を集めて午後七時から二時間程度の授業を行うといった形式であったことから、学生の

服装は様々であった。一九一九年一月の世田谷への移転とともに開設した国士館高等部でも、服装については同様であった。昼間授業となった高等部は、朝八時から学科配当がなされて高等教育相応のカリキュラムが編成された。全寮制でもあったことから、学生の日常は袴姿であり授業時も同様であった。当然、規定された制服もなかったが、当時の「学生」を象徴する学帽を身に着ける者もいたことが写真資料から把握できる。^⑦

一九二五年四月、はじめて法令に基づいた国士館中学校が創設される。この時、国士館においてははじめて制服が定められた。その定めとして、中学校学則第三九条には「本校生徒ノ制服ハ之レヲ定ム」と規定した。^⑧

中学校制服の仕様は、学則などの史料中から確認できないものの、卒業アルバムの写真や一九四四(昭和一九)年卒業生寄贈の制服資料から判断すると、襟付き茶褐色(カーキ色)の上衣を制服として定めている。上衣のデザインは、前開きを楓葉に「国士」文字入りの金ボタン五個で留め、両袖口にも小さめの金ボタン二個を付けて、両胸にはやや斜めのボタン留めフラップ付のポケットが配される。上衣の襟には襟章が付けられる。写真をみる

と、襟に数字「5」や「V」などの襟章を付けた生徒を確認できる。両襟とも「5」を付ける生徒も多く断定は難しいが、左襟に学年章を、右襟に組章(クラス章)を付したものと考えられる。^⑨なお襟の左右表記は着用者からみた方向である。また通学時などに着用する学帽は、やや丸型で、帽章には楓葉に「中」の文字を刻した金具が付き、^⑩上衣と同系の茶褐色(カーキ色)であったと推測される。

但し、中学校創設初期の卒業アルバムなどの写真を縦覧すると、特徴的な丸襟の上衣を採用したことが判るものの、いわゆる黒詰襟の上衣を着用した生徒もみられる(写真1参照)。さらに、一九三五年三月の第八回卒業生から一九四〇年三月の第一三回卒業生の間は、丸襟の上衣ではなく黒詰襟を着用する生徒が大勢を占める。一九四一年三月の第一四回以降は、再び襟付き茶褐色の上衣を着用する者が多数となる。つまり中学校制服の仕様は、一九三〇年四月頃に、次いで一九四〇年四月頃に、それぞれ変更が加えられたと推定できる。^⑪国士館史資料室が所蔵する一九四四年卒業生の制服資料は、創設当初の丸襟でなく角襟状であり、その仕様変更を窺うことができる。

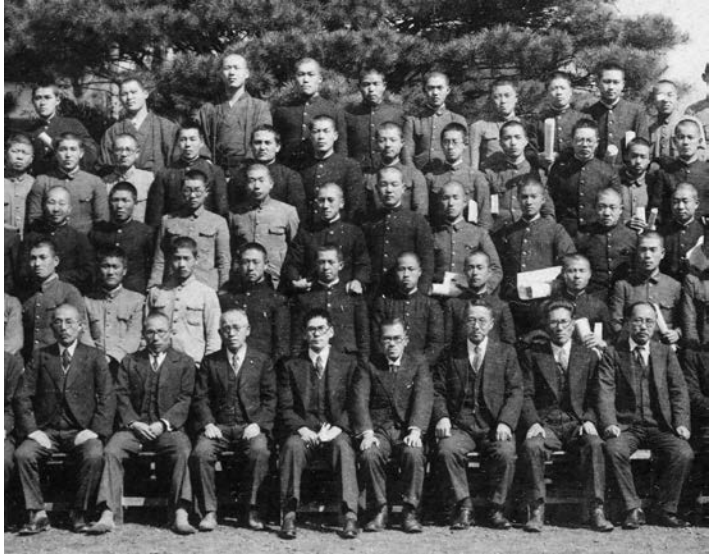


写真 1 中学校卒業記念（昭和 15 年 3 月）

このような制服仕様の変更は、生徒の経済的な事情、縫製業者の相違、定めとはいえ一定の許容が図られたなど、種々の理由が推測できるものの確定できない。一九四〇年頃の制服変更は、同年一月勅令の「国民服令」

の影響も考えられるとはいえ、一九四四年卒業生の制服資料は国民服の仕様とはやや相違しており、直接的に戦時体制下の影響に起因するとは考えにくい。変更の理由は明らかにできないが、中学校の制服は右記の変遷をたどっている。

次いで、一九二六年創設の国士館商業学校における制服について記す。商業学校は、世田谷周辺地域の六カ町村（世田谷町、駒沢町、松沢村、玉川村、目黒町、碑衾村）と国士館の協同運営で維持される特徴を持っており、地域の勤労青少年を主な対象とする学校であった。¹³⁾ 制服の定めは学則中に規定がなく、その他の文書史料からも確認できない。しかし卒業アルバムの写真を縦覧すると、黒色系の金ボタン付き詰襟を着用する生徒が多く、制服を定めていたようである。商業学校は、昼間は家業等に従事する周辺地域の生徒が学んだことから、経済的な負担軽減を図ることが重要であった。この事情から制服の規定をあえて明文化しなかったものと推測される。写真に色味の異なる上衣を確認できる点も、その定めは柔軟であったことが窺える（写真 2 参照）。¹⁴⁾ あわせて写真資料からは、やや丸型の学帽を定めていたことも確認でき



写真2 商業学校珠算部（昭和11年3月）

る。なお詰襟には襟章を付したようで、中学校と同様に学年章と組章（クラス章）を左右の襟に付けたものと考えられるものの、写真資料からは判別が難しい。

一九二九年に創設した国士館専門学校においては、制

服が定められた。一九三〇年三月の「入学者心得」には、「制服ハ黒詰襟、金釦」、「制帽ハ黒羅紗、角帽」、「靴ハ黒ノ編上靴」と明示されるように、創設当初から制服を規定した⁽¹⁵⁾。制服と制帽は、学内への「出張販売」で入手可能と記されるが、縫製業者・販売業者については明記の史料がなく不明である。黒詰襟の金ボタンには、中学校制服と同様に、楓葉に「国士」の文字を刻印したものであった⁽¹⁶⁾。襟章は通常左襟に付したようであるが、その意匠は写真資料より判読できない。また黒の角帽には、帽章として「国士館」文字を刻んだ金具が付された⁽¹⁷⁾。

専門学校学生の服装を卒業アルバムに縦覧すると、角帽着用の頻度の特徴がみられる。専門学校は全寮制を採っており、寄宿舎では着物で日常を過ごし、学校内では詰襟の制服を着用することが通例であった⁽¹⁸⁾。しかし学帽は、学生が着物姿で外出する場面でも、必ずといえるほど着用している写真を確認できる。専門学校の学生にとって学帽は、一見して「学生」身分を示すものであると同時に、一種の誇りとして着用したものであろうことは容易に想像できる。このような学帽の意義は同時代の学生意識の特徴であり、国士館に限るものではない点も

付記しておく。

(2) 戦後期の国士館「制服」

占領下にあった日本は、一九四八(昭和二三)年公布の教育基本法と学校教育法によって、新たな教育制度へ移行する。本節は新制移行後の国士館における制服の制定・変遷について考察する。

国士館は、一九四五年五月の戦災による校舎焼失や、一九四六年一月の至徳学園への法人名変更などを経て、戦後の復興期を迎えたが、その再建は一九五二年頃まで進展しなかった。この間、一九四七年に新制中学校を、一九四八年に至徳高等学校を設置して新制移行に対応したが、この時期の制服の詳細を確認することは難しい。国士館史資料室が所蔵する「至徳」刻字の金ボタンを確認できるほかは、同時期の写真資料もわずかである。物資不足の社会状況を鑑みると、生徒への経済的負担を回避するため、服装の規定は設けず個々の事情に一任したものと考えられる。但し、一九五〇年代に入ると学帽に詰襟姿の生徒写真を確認できることから、次第に制服着用が常用となったと推定できる。¹⁹⁾

一九五三年四月、校名復称とともに国士館短期大学を創設し、国文科と経済科(二部)を設置した。当初の学則等の史料には制服に関する規定を確認できないものの、写真資料から判断して国文科では制服を定めている。²⁰⁾ 創設当初は男子学生のみ在籍で、制服は金ボタンに黒詰襟の仕様であった。夜間開講の経済科(二部)は、主に社会人学生を対象とした点や経済的な負担軽減を図る理由から、制服を定めなかったと考えられる。²¹⁾ 創設二年後の一九五五年四月には、初の女子学生が国文科に入学するが、当初、女子の制服は規定していなかった。²²⁾ 女子学生制服の規定は一九五八年頃と考えるが、その考察は後述する。

次いで一九五八年四月、国士館大学が創設された。創設当初、制服に関する規定は学則等の史料から確認できない。しかし先の短期大学と同様に、男子学生には金ボタンに黒詰襟の制服が定められた。

ここで女子学生の制服をみておこう。一九六一年度には体育学部初の女子学生が入学し、三年次編入に一名が、新入生一八名が在籍した。²³⁾ この三年次編入の一名が卒業となった一九六三年三月の卒業アルバムをみると、

白ブラウスに濃色のジャケットを着用した姿を確認できる⁽²⁴⁾。また二年後の一九六五年三月の卒業アルバムの子学生⁽²⁵⁾の服装も同様である。この服装は、さらに後の一九六九年六月に明文化した「国士館大学女子服装規定」の図解とも、ほぼ一致する⁽²⁶⁾。ここから女子学生の制服制定は一九六一年度であるが、すでに短期大学国文科には一九五五年度から女子学生が在籍していた点を考慮すべきであろう。これらを鑑みると女子学生に対する制服の制定は、体育学部創設を機として一九五八年頃には導入されたものと推定する。

「女子服装規定」による仕様を記しておく、冬服（一〇月～五月）は、紺色のジャケット、紺色のスカート、白色または青系色の長袖ブラウス（一九六九年度から白色に順次統一）、濃紺色のネクタイを着用するものとした。夏服（六月～九月）は、グレーのスカート、白色または青系色の半袖ブラウス（一九六九年度から白色に順次統一）と定め、式典以外の場では長袖ブラウスやネクタイ着用を許容するものとした。

さて男子学生・生徒の制服は、一九六〇年度から、従来の黒詰襟に金ボタンの上衣から、いわゆる黒色の「蛇

腹」に変更された。蛇腹は、前開きをフラスナーとホックで留めるもので、ボタン留めと異なり留め具のみえない仕様で、広く旧海軍や学習院の制服としても知られる⁽²⁶⁾。一九六九年六月に明文化された「国士館大学男子服装規定」に制服の仕様を列記しておく、次の通りとなる⁽²⁷⁾。冬服（一〇月～五月）は、上衣に黒色の蛇腹、黒色のズボンを着用すると定めた。夏服（六月～九月）は、白の半袖シャツに、チャコールグレーのズボンとした。

ズボンは夏冬ともワンタックとし、冬は裾を折り返し、夏は折り返さないものとした。また学生・生徒等を判別するため、蛇腹の袖口にはモールが施された。中学校の制服にはモールがなく、高等学校は黒色の太モールが一本、大学・短期大学では太モール・細モールの計二本が施された。なお、学生指導にあたった学生監を中心に職員も制服を着用したことから、職員の蛇腹には太モール・細モール・太モールの順に計三本が、館長用には太モール一本と細い金色モール二本が施されている⁽²⁸⁾。また制帽は、角帽を採用して、「大学」と「国士」の文字を組みあわせた校章を帽章・耳章として付した（写真3参照）。制服は三越百貨店が、制帽は山田帽子店が販売先



写真3 国士館大学学帽（山田帽子店製作）

すると次の通りである。

（一九六〇年）二月二三日（土）

一、学園の制服を近く決定するから其迄新調を見合わせる事、従来の服には多少の修正を行う予定

二月二二日（月）

二、制服制帽の注文及改造に関し左の通り処置する

1. 高校、中学、新入生の注文

二月二二日 午前九時〜午後四時

となっている。

制服変更に至る

移行状況も記して

おこう。学内報の

性格を持つ「会報」

は、一九五九年一

月から『会報録』

として記録が開始

されており、同史

料から制服変更

に関する記述を抜粋

同月二六日

新館入口に三越及山田商店出張（筆者注「新館」

は短期大学校舎（後の三号館）を指す）

2. 大学新入生の注文

四月一〇日 後一時〜四時

同月一六日 前九時〜四時

3. 在校生の新調は右と同時に、但し仕上りは

新入生を優先とする

4. 改造は、帽子は山田帽子店、服は原中（松陰神

社前）

5. 支払、現金引替を原則とする、月賦に関しては

交渉中

二月二五日（木）

一、館長指示

1. 在校生及新入生の帽子と服の改造の期限を四月

二〇日迄とする、之が為、改造の細部を今明日中

に印刷配付するから、既に示した店の外、適宜改

造すること

四月五日（火）

一、服の改造は松陰神社前のテーラー・ドレスに於て

も高能率を以って実行している

制服の仕様変更には当然、在学生・生徒の制服も仕立て直しが必要である。このため二月一三日には学内へ向けて制服変更を周知し、二三日には既存制服の「改造」の方法等を具体的に指示している。曖昧な点もあるが読解すれば、新入生の制服新調は三越に依頼とし、制服改修は松陰神社前の原中洋服店で、帽子改修は山田帽子店で行うよう指示したものと判読できよう。また二月二五日に示したように、四月二〇日を目途に全学一斉の制服変更を見込んだものの、在学生・生徒の制服改修は困難であった様子も四月五日の記述からうかがえる。四月一日の「会報」には、「服の改造は天長節に間に合う如く実施し四月二五日には制服の検査を行う」とあり、全学参加であった四月二九日の天長節祝賀式典には、なんとか改修を完了させ、制服の一斉変更を図りたい意図も読みとれよう。

続いて、制服に付す襟章などの定めについて記す。一九六四年一〇月一五日付の「会報」によれば、同月を「服装環境整備月間」と位置づけて、職員に制服乱れのチェック

クを実施するよう指示した。この指示において、男子学生の右襟には「大学バッジ」を、左襟には「学部バッジ」を付すものとし、さらにクラブ章など他のバッジがある場合は大学バッジの右「外側」に付すよう、学生・生徒への周知・徹底を図っている。なお左右は着用者側を指しており、写真に制服をみた場合は左襟に大学章、右襟に学部章を目視することになる。この襟章の付し方は、一九六四年以前からの定めである旨も先の「会報」に記されるが、関連する規定や定め開始時期も史料からは明確でない。しかし、写真資料から判断すると金ボタンの制服でも襟章を確認できるため、一九五三年の短期大学創設時に、つまり制服の制定とともに襟章の定めも存在したと推定できる。また高等学校・中学校でも同様と推定できる。

この襟章の定めは男子冬服の場合であったが、その他に学内では名札を左胸ポケットに付すことも定められていた。³⁰男子夏服の場合は、シャツ左胸に大学章と名札を付すとした。女子の場合、冬服ではジャケット左襟に襟章を左胸ポケットに名札を付し、夏服には左胸ポケットに名札を付すとした。しかし、各時期の学生の写真資料

からは、男女や夏冬に関わらず左胸に付す名札を確認できる場面は式典時がほとんどで、日常では許容されたようである。

(3) 大学「制服」の自由化以後

国士館は、一九七三（昭和四八）年一〇月一日に「総長指示」を学内に発して「学生の制服は現在のものを存置するがその着用は強制しない」と告示し、大学・短期大学での服装の自由化を行った⁽³¹⁾。高等学校・中学校の生徒は、従来の蛇腹の制服を継続するとした。なお学帽の着用は公の場でも有無を問わないとしたようで、制帽は姿を消すことになった。この措置は同年五月から六月に起こった学生らによる暴力事件に端を発し、学内改革を図った近代化委員会による改革のひとつであった⁽³²⁾。これにより男子学生は蛇腹着用の義務は解除となり、また女子学生は流行の服装で学生生活を謳歌するようになったわけである。

この一〇月の自由化後、学生が従来の制服をまったく着用しなくなったわけではない。学生服着用の利点は、衣服に係る出費を抑えて経済的格差を生まないという面

もある。例えば一九七四年三月に卒業を控えた男子学生、特に地方出身の在学生は従来の制服を普段着とする者も多かった。また一九七四年四月以降、大学・短期大学に入学する学生のなかで従来の制服を着用する者も存在した。制服を日常的に着用したのは、武道系サークルに所属した学生、また通称「会の学生」と呼ばれた文化系サークルに属す学生などであった⁽³³⁾。さらに体育学部を主として運動クラブの一部では、大会出場時など公式の場では従来の制服を着用する場合もあった。自由化以後も制服を着用した卒業生の回顧から自由化後の状況を示すと、蛇腹の発注先は従来の三越、松陰神社前のドレステーラー、経堂の並木の三店で、三越以外の二店は上級学生から譲渡の蛇腹を補修する場合などに使用された。一部の学生が蛇腹改造を行う場合は、並木を頼って裏地に刺繍を施すなどした。また蛇腹を着用する学生でも、角帽を被る者はほとんど存在しなかったとする。

ここで制服異装の学生・生徒に対する国士館の取り組みも記しておく。そもそも服装自由化前から、制服の「乱れ」を厳格に注視し、頻繁に学生・生徒の服装への注意喚起が行われてきた。学内周知の「会報」では、学長・

校長である柴田徳次郎の指示連絡を「館長指示」や「学長指示」などと表記して、一般の連絡事項とは区分したが、服装に関する事項は主に「館長指示」の扱いで発している。抜粋して示すと次の通りである。

(一九五九年) 一月二四日(火)

一、学長注意

1. 授業開始に先立ち、学生生徒に服装を正し正座瞑想させ、要すれば授業の心構を訓示すること

一月五日(土)

一、館長指示

2. 授業開始に先立ち、先ず服装を正し、然る後瞑想させること

(一九六〇年) 一月二九日(金)

一、館長指示

1. 来週を服装週間とする、此間、特に(二月一日乃至六日)留意、実行すべき点は左の通りである
イ. 高校生、中学生は、今週の服装検査の結果に基づき修正を徹底させること

ロ. 制服、制帽を着用して登校すること

ハ. 上衣、ズボン、其他に市井の不良に紛し得る服装をしないこと

二. 煙草等の禁制品を携行しないこと

右に違反する者は登校を禁止する

二月一五日(月)

一、館長指示

1. 旧館の高校生で休憩中塀の外に出で、或は乱れた服装で外出する者がある、先生は交代で取り締りを行うこと(筆者注「旧館」は旧館毛寮を指す)

右に示した史料は蛇腹への制服変更直前の時期にあたるが、毎月のように服装の注意喚起が行われている。寄宿舎から外出する際の服装まで喚起するほどで、自由化前から徹底した規制を図ったことが理解できる。さらにいえば、前節で示した一九六九年の男女別「服装規定」のように、制服に関する定めを明文化した時期は、一九七〇年前後のことである⁽³⁶⁾。制服制定に遅れて関連規定を明文化した状況は、従来の慣例的喚起のみでは厳格な規制の保持が困難になったという要因を挙げることができ、その状況を示すように、制服の改造は特に一九七三

年前後から一九八〇年頃の間によくみられた。⁽³⁶⁾ 課外活動指導委員会が一九七六年四月に発した「告示」に「旧制服を奇異に変造して高襟長衣となして着用し闊活歩するが如きは稚氣未だ去らざるもので、到底、当大学生とは言い難く」と記したように、一部の学生に向けて品位保持を警告したことに示されている。⁽³⁷⁾ この状況は、服装自由化後の一面であり、規制を解いた反動として従来の制服改造が表層したものといえる。また一九七五年前後は暴走族問題など青年の非行が社会問題化した時期にあった点も示唆しておく。

その後の時代の変化とともに、一九八〇年代末には従来の蛇腹を着用する男子学生は顕著に少数となった。職員の着用も一九八四年の運営体制改革を境にみられなくなった。公式服として着用を続けた運動クラブの状況も体育学部の「卒業アルバム」にみると、一九九五（平成七）年三月から蛇腹着用の男子学生は急減し、代わりに各運動クラブで定めるジャケット姿の学生を確認できるようにになった。該当の学生にとっては、運動クラブ統一のジャケットを正装と捉えて着用したわけである。

一方、一九七三年以降も蛇腹の制服が継続された高等

学校・中学校では、時代の変化に応じてブレザー（紺色）・スラックス（紺色とグリーンチェック）・ネクタイの制服へと変更された。⁽³⁸⁾ 新たな制服は、一九八七年度に高等学校定時制課程商業科で、一九九〇年度に中学校で、一九九一年度に高等学校全日制課程で導入され、各年度入学の一年生がブレザー姿となった。さらに、一九九四年度に高等学校・中学校で男女共学化を図り、女子生徒にはブレザー（紺色）・スカート（タータンチェックとグリーンチェック）・リボんタイの制服を定めた。当初のブレザーには左胸にワッペンが施され、従来の襟章類は姿を消すことになった。以後、高等学校・中学校の制服は軽微の変更が加えられ現在に至っている。

2. 山田帽子店の事業展開

(1) 山田帽子店の変遷

前章に記したように戦後国士館の制帽販売は、山田帽子店が指定店であった。まずは二〇二三（令和五）年八月に閉店となった山田帽子店の変遷を、店主山田輝夫氏の回顧など二次資料に拠って記しておく。⁽³⁹⁾ なお山田帽子

店の閉店時は、現渋谷区渋谷一丁目一〇の一〇階建てビル一階に店舗を構えていたが、ここでは同地を便宜上「現在地」と表記する。

山田帽子店は一九二八（昭和三）年一二月、現在地近くの地に創業した。次いで一九四五年には現在地に移転したものの、移転直後に戦災空襲で店舗を焼失したという。戦後はバラックから再興を図り、主に学帽・学生服の製作・販売事業を展開した。一九八二年には店舗のビル化を図って一階に現店舗を構えている。一九七五年頃から学帽・学生服ではない事業展開も開始し、歌手沢田研二が着用した「シゾールつば広」の取扱店として世間の注目を集めるなど、帽子専門店としての人気と地位を確立した。一九八七年頃、二代目店主の山田輝夫氏が先代から店を引き継いで発展を遂げたが、コロナ禍の影響や帽子職人の減少などから先に記した閉店となった。

この間、山田帽子店の学帽や学生服の販売に関する事業展開を山田氏の記憶を元に記すと、次の事例があったようである。國學院高等学校の校内には一九七五年頃まで出張店舗があり、また國學院大学栃木高等学校でも販売を行っていたとする（但し國學院大学久我山中学高等

学校とは取り引なし）。一時期、武蔵工業大学（現東京都市大学）や芝学園、成城中学校・高等学校では出張店舗を展開し、また二松学舎や海城中学校・高等学校でも取り引きを行っていたようである。国士館に関しては一九六〇年代からの学帽販売のほか、中学校生徒用の革製カバンやバツジ類なども取り引きを行っていたと回顧する。

（2）山田帽子店資料と徽章類

先に見たような山田帽子店の事業展開を知る一次資料は、閉店時の店舗に残っておらず、残念ながら詳細を明らかにできない。ここでは受贈した学帽・徽章類の資料から各学校での事業展開を考察する。

国士館が受贈した山田帽子店資料のうち、学帽は三点で、それぞれサイズ五六cm、五七cm、六二cmの角帽である。製作時期は不明であるが、先に示したように国士館大学での制服着用は一九七三（昭和四八）年九月までは義務であり、これらの学帽も同時期の間に製作されたものと推測できる。

次いで徽章類の資料は七四種類・計一六一一点であり、学校名で五十音順に並べて一覧表とした（表参照）。徽

【表】山田帽子店・徽章類資料一覧

通番	資料	点数	備考
1	帽章 (青山学院初等部)	3	サイズ大
2	帽章 (青山学院初等部)	3	サイズ小
3	帽章 (麻布学園麻布高等学校)	1	
4	帽章 (麻布学園麻布中学校)	3	
5	帽章 (麻布大学)	3	
6	帽章 (海城中学高等学校)	3	
7	帽章 (慶應義塾大学)	3	
8	帽章 (國學院大学)	1	意匠「國學」
9	帽章 (国士館大学)	3	
10	帽章 (国士館高等学校)	1	意匠「高」、襷型
11	帽章 (芝学園芝中学校)	2	うち1点は上部切断品
12	帽章 (専修大学)	3	意匠「大学S」
13	帽章 (東京経済大学)	3	意匠「経大」
14	帽章 (東京慈恵会医科大学)	3	
15	帽章 (東京大学)	3	
16	帽章 (東京都立青山高等学校)	1	
17	帽章 (東京都立工業高等学校)	1	
18	帽章 (東京都立日比谷高等学校)	3	
19	帽章 (東京農業大学)	3	意匠「農大」
20	帽章 (東京薬科大学)	3	
21	帽章 (日本大学)	3	
22	帽章 (日本大学第三中学校)	3	
23	帽章 (一橋大学)	3	
24	帽章 (法政大学)	3	
25	帽章 (港区立青山中学校)	3	
26	帽章 (港区立弁小学校)	3	意匠「弁」
27	帽章 (武蔵工業大学)	3	意匠「工大」
28	帽章 (明治薬科大学)	1	意匠「明薬」
29	帽章 (立教大学)	3	意匠「立大」
30	帽章 (早稲田大学高等学院)	1	
31	帽章 (下諏訪町立下諏訪中学校カ)	2	下諏訪町立下諏訪中学校と推測
32	帽章 (東京農業大学第一高等学校カ)	3	東京農業大学第一高等学校と推測
33	帽章 (東京農業大学第二高等学校カ)	2	東京農業大学第二高等学校と推測
34	帽章 (武蔵工業高等学校カ)	1	武蔵工業高等学校と推測、意匠「高」、柏葉型
35	帽章 (不明)	2	
36	帽章 (不明)	3	
37	帽章 (不明・高等学校用)	1	意匠「高」
38	帽章 (不明・中学校用)	1	意匠「中」
39	耳章 (国士館大学)	3	
40	耳章 (東京都立青山高等学校)	1	
41	耳章 (不明)	1	耳章と推測、意匠「大」
42	耳章 (不明)	2	
43	耳章 (不明)	1	
44	耳章 (不明・中学校用)	1	意匠「中」
45	式服帽子部分 (慶應義塾大学)	3	式服帽子用と推測
46	襟章 (麻布大学応援団)	1	意匠「AV」「麻大応援団」「醫」、骸骨
47	襟章 (國學院高等学校)	3	黄色2点・青色1点
48	襟章 (國學院幼稚園)	1	
49	襟章 (国士館大学)	1	意匠「国士館」
50	襟章 (国士館大学)	5	ネジ受け大

「制服」にみる国士館と山田帽子店

通番	資料	点数	備考
51	襟章 (国士館大学)	21	ネジ受け小
52	襟章 (国士館大学工学部)	3	意匠「工」、K字型
53	襟章 (国士館大学用)	2	意匠「委」、襷型
54	襟章 (国士館大学用)	1	意匠「第四回体育祭」
55	襟章カ (国士館大学用)	1	意匠「M」、襷型・朱色
56	襟章 (国士館中学校)	1	意匠「中」、襷型
57	襟章 (正則高等学校)	2	
58	襟章 (不明)	1	意匠「農化」、N字型
59	襟章 (不明)	1	意匠「SIBUYA」
60	襟章 (不明)	1	意匠「D」
61	襟章 (不明)	1	意匠「E」
62	襟章 (不明)	1	意匠「G」
63	襟章 (不明)	1	
64	胸章 (不明)	1	意匠「NVC・一高」
65	胸章 (不明)	1	胸章と推測、意匠「TP」
66	胸章 (不明)	1	胸章と推測、意匠「東北三代夏祭 1963」
67	胸章 (不明)	1	胸章と推測
68	バッジ (國學院大學栃木高等学校)	1	青色校章、意匠「國學」、留め針なし
69	ボタン (不明)	1	ボタンと推測、意匠「TRADITIONAL」「COLLECTION」
70	ボタン (不明)	1	ボタンと推測、意匠「THEFORCEREGIMENT」
71	ボタン (不明)	1	ボタンと推測、意匠「正」
72	ボタン (不明)	1	ボタンと推測、黒一色
73	ボタン (不明)	1	ボタンと推測、黒一色
74	ベルトバックル (東京農業大学カ)	1	東京農業大学と推測、青色、意匠「Nodai」、N型



4. 帽章 (麻布中)



3. 帽章 (麻布高)



2. 帽章 (青山初)



1. 帽章 (青山初)



8. 帽章 (國學院)



7. 帽章 (慶應大)



6. 帽章 (海城高)



5. 帽章 (麻布大)



12. 帽章 (専修大)



11. 帽章 (芝中)



10. 帽章 (国士高)



9. 帽章 (国士大)



16. 帽章 (青山高)



15. 帽章 (東大)



14. 帽章 (慈医大)



13. 帽章 (東経大)



20. 帽章 (薬科大)



19. 帽章 (東農大)



18. 帽章 (日比高)



17. 帽章 (工芸高)



24. 帽章 (法政大)



23. 帽章 (一橋大)



22. 帽章 (日大中)



21. 帽章 (日大)



28. 帽章 (明薬大)



27. 帽章 (武工大)



26. 帽章 (弁小)



25. 帽章 (青山中)



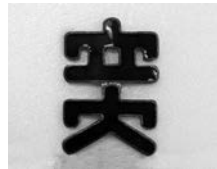
32. 帽章 (東農高)



31. 帽章 (下諏中)



30. 帽章 (早稲高)



29. 帽章 (立教大)



36. 帽章 (不明)



35. 帽章 (不明)



34. 帽章 (武工高)



33. 帽章 (東農高)



40. 耳章 (青山高)



39. 耳章 (国士大)



38. 帽章 (不明)



37. 帽章 (不明)



44. 耳章 (不明)



43. 耳章 (不明)



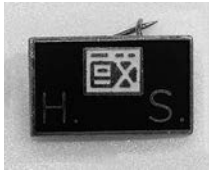
42. 耳章 (不明)



41. 耳章 (不明)



48. 襟章 (國學院)



47. 襟章 (國學院)



46. 襟章 (麻布大)



45. 式帽用 (慶應)



52. 襟章 (国士大)



51. 襟章 (国士大)



50. 襟章 (国士大)



49. 襟章 (国士大)



56. 襟章 (国士中)



55. 襟章 (国士大)



54. 襟章 (国士大)



53. 襟章 (国士大)



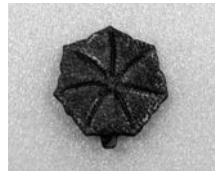
60. 襟章 (不明)



59. 襟章 (不明)



58. 襟章 (不明)



57. 襟章 (正則高)



64. 胸章 (不明)



63. 襟章 (不明)



62. 襟章 (不明)



61. 襟章 (不明)



68. バッジ (國學)



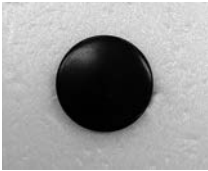
67. 胸章 (不明)



66. 胸章 (不明)



65. 胸章 (不明)



72. ボタン (不明)



71. ボタン (不明)



70. ボタン (不明)



69. ボタン (不明)



74. バックル



73. ボタン (不明)

表に示すように徽章類の種別をみると、帽子中央に付される帽章は三八種類、脇に付す耳章は六種類である。また制服に付す襟章は一八種類、胸章は四種類で、そのほかボタンやベルトのバックルなども含まれる。学校別に見ると、青山学院・國學院・東京農業大学など東京都内の諸学校が大部分を占めるが、遠方では長野県の下諏訪中学校や國學院大学栃木高等学校と考えられるものも含まれる。また、初等教育機関から高等教育機関までと幅広いうえに、私立学校のみならず都立高校など公立学校との取り引きも確認できる。徽章類七四種のうち大学

章類の整理にあつては、生地留めのため突起状の留具があるものを帽章や耳章とし、ネジ式の留具のものを襟章に、ピン式の留具を胸章と判断した。また徽章類の意匠から各学校の特定を試みたが多分に推測を含む。例えば大学と記した場合でも、実際は附属校の徽章類であるかもしれない。よつて表中に誤認ある場合は深謝とともにご指摘を乞いたい。

で使用されたと考えられるものは三二種で、残る半分は高等学校や中学校用のものである。また帽章から学帽の製作・販売を請け負ったと思われる大学としては、麻布大、慶應大、國學院大、国士館大、専修大、東京経済大、東大、東農大、日大、法政大、一橋大などが挙げられる。学帽と制服の両面で取り引きした学校は国士館のみで、帽章・襟章ともに存在を確認できる。いずれも制作年代は不明で、一部は用途や学校が明確でない徽章類も多いが、山田帽子店が取り扱った範囲は幅広がったことがわかる。

国士館関連の徽章類を示すと、中学校・高等学校・大学の帽章・耳章や襟章が確認できる。特に大学の襟章(小)は点数も多いことから長年受注したものと推定できる。さらに「第四回体育祭」「委」「」の文字入りの襟章は、詳細不明であるものの特注された徽章類と考えられ、国士館と山田帽子店との取り引き状況の一端が明らかになる。

(3) 山田帽子店と国士館との関わり

ここでは山田帽子店と国士館との関係を、国士館史資

料室所蔵の各資料から考察しておく。

制服用の楓葉に「国士」刻字の金ボタンを五点・袖口用四点を所蔵しているが、二〇一〇(平成二二)年の受入記録によると、当時の国士館高等学校の某教諭が山田帽子店に赴いて入手したとの来歴を確認できる。制服そのものの取り扱いは不明であるものの、金ボタンの制服時代から山田帽子店でも関連品の取り引きがあったことを推定できる。年代の確定は困難であるが、「至徳」から校名を変更した一九五三(昭和二八)年頃から金ボタン等の取り扱いを行っていたものと判断したい。

文書史料にみえる山田帽子店の記述は、一九六〇年二月二二日付の「会報」が現時点で初見である。前章2節で記したが、蛇腹への制服変更期において「帽子は山田帽子店、服は原中(松陰神社前)」として金ボタン付き制服等の改修を学生に指示した記述である。また『国士館大学新聞』には、一九六五年一月の第三七号を初出として、山田帽子店の広告が掲載されている。一九六七年一月の第五九号掲載の広告は、国士館指定の「制帽・バッチ」の取扱店を示す内容で、角帽のほか徽章類も受注していたことがわかる(写真4参照)。

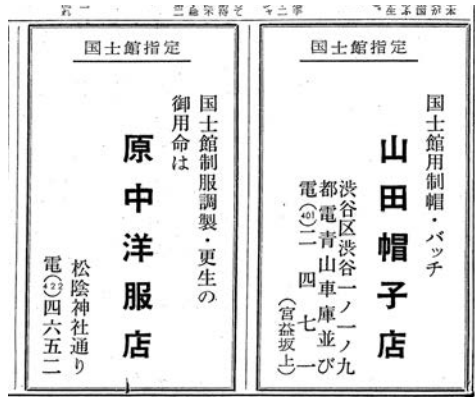


写真 4 山田帽子店広告（『大学新聞』第 59 号）

と、大講堂前の広場で角帽を手にする学生が、また机にはサイズ違いと思われる多くの角帽を確認できる（写真 5 参照）。さらに写真左の女性の手元には「Caps」印字の袋も看取できる。この写真から山田帽子店が、出張販売のかたちで国士館の角帽を取り扱っていたことを証明できよう。

これらをまとめると、山田帽子店は一九五三年頃から国士館での取り引きを開始し、制帽さらに制服の金ボタも取り扱っていたようである。少なくとも一九六〇年

この時期の入学式では、新入生が世田谷校舎内で山田帽子店製の制帽を購入する風景がみられた。一九六八年四月一日撮影の入学式写真をみる

前後には国士館指定の取扱店となつて、大学・短期大学・高等学校・中学校の男子用制帽や襟章類を販売した。特に制帽については、入学式での出張販売も実施するなど、国士館と密な関係を有している。しかし一九七三年一月以降、大学・短期大学での服装自由化によって、加えて高等学校・中学校での制帽着用の取り止めを受けて、国士館における指定取扱店としての役割を終えた。その後、ほぼ需要を失った角帽は、式典用にあるいは応援団などの課外活動用にと、個別発注に応じて製作を請け負った。一方で男子が着用する蛇腹は、服装自由化後も高等学校・中学校では制服として継続し、また大学の運動クラブでは一九九五年頃まで正装時に着用したことなどから、角帽に比べて需要度は高かった。つまり蛇腹に付す襟章やバッジ類については、山田帽子店で一九九〇年代まであるいはその後も、個別受注を請け負ったものと考えられる。

おわりに

国士館における制服の変遷とあわせて、山田帽子店と



写真5 1968年度入学式での校内

の関係のみてきた。さらに山田帽子店の徽章類資料から学帽や学校制服に同店が果たした役割も考察してきた。

筆者も関わった『国士館百年史』には、学生生活の一端として制服の変遷に関しても記述されたが、本稿はその詳細を考究し補完したものと自任する。

国士館における制服は、法令に基づく一九二五（大正一四）年の中学校創設をはじめに諸学校で定められた。なかでも中学校の制服には仕様の変遷がみえる点を明らかにした。また専門学校に就く学生にとつて角帽は、和装姿で学外に出た際も着用するもので、学生身分を堅持する意義を有したことも指摘した。旧制時代の制服の製作業者は不明で、この点は新史料を待たねばならない。

戦後においては、敗戦直後の混乱期を経た一九五三（昭和二八）年の短期大学創設を機として、金ボタン付き黒詰襟の制服が採用された。女子学生用の制服導入は一九五八年頃と推定され、紺色のジャケット・スカートが採用されている。そして一九六〇年には男子学生・生徒の制服が一新され、黒色の蛇腹の制服が導入された。蛇腹は職員も着用したため、袖口のモールに区分を施した。その後、大学・短期大学では一九七三年一〇月に服装自由化が図られたが、男子学生の一部には集団意識を高める意義で着用した点を記した。また蛇腹改造が顕著にみ

えたのはこの時期で、その表出は時代の流行を背景としたある種の反動に起因する点も指摘した。一九八〇年代末には蛇腹着用の学生も減少し、次第にみられなくなる。また高等学校・中学校では、一九八七年度から順次制服を一新して、紺色のブレザーへと変更された。初の女子生徒が入学した一九九四年度にはその制服も定められ、現在に至っている。

この間の国士館と山田帽子店との関係を示すと、少なくとも一九五三年頃から一九八〇年代末頃の間、長期にわたり関連品を取り扱っている。特に一九七三年までの二〇年間は指定店として主に制帽販売を、それ以後の二〇年間は主に蛇腹の襟章類の個別販売などで取り引きを行っている。

閉店時に残った帽章三八種の存在からは、山田帽子店が少なくとも同数の学帽を取り扱ってきたことを示している。新年度にあわせて二〇校から三〇校分の学帽を製作すると想定すれば、国公立にわたって都内の各学校の制服に果たした役割は大きいといえよう。同店が一九七五年頃から事業展開を変化させたように、その後から学校での制服はニーズ減の時代となる。次いで一九八

〇年代後半に高等学校・中学校で起こったブレザーへの制服変更の潮流は、さらに需要を急減させたと予想できる。その状況下にあつて、需要減後も山田帽子店が学帽や徽章類の個別受注を請け負ってきた点を鑑みると、山田帽子店資料が多様な学校制服研究のうえでも重要な役割を持っているといえよう。

最後に資料をご寄贈頂いた山田輝夫氏、その機会を中介頂いた昼間良次氏に感謝を表したい。

〈注〉

- (1) 難波知子『近代日本学校制服図録』（創元社、二〇一六年八月二〇日）一六頁。
- (2) 唐沢富太郎『女子学生の歴史』（木耳社、一九七九年）、太田臨一郎『日本服制史 下』（文化出版局、一九八九年）、難波知子『学校制服の文化史』（創元社、二〇一二年）ほか。
- (3) 太田蓉子「学校制服が象徴するものとその歴史的変容（1）」～（5）」『家庭科教育』七六巻七号（一一号、二〇〇二年七月～十一月）、馬場まみ「戦後日本における学校制服の普及過程とその役割」

- (『日本家政学会誌』六〇巻八号、二〇〇九年八月) ほか。
- (4) 『慶應義塾史事典』(慶應義塾史事典編集委員会、二〇〇八年一月) 四二九頁。
- (5) 拓殖大学アーカイブズ提供情報(二〇二四年一月筆者照会)。
- (6) 『成蹊学園百年史』(学校法人成蹊学園、二〇一五年七月) 八五八頁。『学習院百年史』第三編(学習院百年史編纂委員会、一九八七年三月) 八三〇頁。
- (7) 『国士館百年史 通史編』(学校法人国士館、二〇二二年三月、以下『通史編』と略記) 口絵写真「高等部生徒と教職員」(大正二二年頃) ほか。
- (8) 『国士館百年史 史料編上』(学校法人国士館、二〇一五年三月、以下『史料編』と略記) 第2章第1節2(国立公文書館所蔵)。
- (9) 一九二九年三月『中学校卒業アルバム(第二回)』及び一九四〇三月同『アルバム(第三回)』の生徒近影。
- (10) 一九二九年三月『中学校卒業アルバム(第二回)』田口重夫近影。
- (11) 第八回卒業以前の一九三三年三月・一九三四年三月(第六回・第七回)の卒業アルバムは国士館史資料室で未所蔵のため確認できない。
- (12) 一九四四年卒業生の制服資料は『国士館史資料室パンフレット』に掲載、同室ウェブサイトから確認できる。
- (13) 前掲注『通史編』一七一〜一七四頁。
- (14) 一九三六年三月『商業学校卒業アルバム(第八回)』タイプライター部員及び練習写真ほか。
- (15) 前掲注『史料編上』第3章第1節29「入学者心得」。
- (16) 専門学校制服上衣(推定一九四四年三月卒業生の着用)。
- (17) 一九三五年三月『専門学校卒業アルバム(第三回)』各学生近影。
- (18) 前掲注『通史編』二〇七、二二七頁。
- (19) 一九五一年頃至徳高等学校野球部写真(前掲注『通史編』三八三頁)。
- (20) 一九五七年三月短期大学卒業記念写真(前掲注『通史編』四四二頁)。
- (21) 一九六一年三月『短期大学経済科卒業写真帖』集

合写真。

(22) 一九五七年三月短期大学卒業記念写真(前掲注『通史編』四四二頁)。

(23) 前掲注『通史編』四四四頁。

(24) 一九六三年三月『体育学部卒業アルバム(第四回)』大畑近影及び体操部集合写真。

(25) 前掲注『史料編下』第2部第2章5節10「大学女子服装規定」。

(26) 林友春講演録「学習院教育の歴史」(『教育学雑誌』第二三号、日本大学教育学会、一九八九年三月)一〇三頁。

(27) 前掲注『史料編下』第2部第2章5節9「大学男子服装規定」。

(28) 前掲注『通史編』五六五頁。

(29) 一九六一年三月『体育学部卒業アルバム(第二回)』及び一九五七年三月短期大学卒業記念写真。

(30) 前掲注『史料編下』第2部第2章5節9「大学男子服装規定」及び同5節12「服装規定」。

(31) 前掲注『通史編』六三三頁。

(32) 前掲注『通史編』六一五〜六一四頁。

(33) 前掲注『通史編』六六八・六七〇頁。

(34) 一九七八年三月法学部卒業生・一九八二年三月法学部卒業生間取りメモ(在学時は共に少林寺拳法部所属、二〇一一年九月二二日筆者間)。

(35) 前掲注『史料編下』第2部第2章5節11「服装規定作成要領(「会報」別紙)」。

(36) 前掲注『通史編』六六八〜六七一頁。

(37) 前掲注『史料編下』第2部第3章4節27「告示(課外活動指導委員会非公認団体解散)」。

(38) 前掲注『通史編』一〇五三頁。

(39) 山田輝夫氏間取りメモ(二〇二三年二月一日筆者間)、「Soの猫日和」個人ブログ(渋谷の「山田帽子店」この帽子をかぶっていたスーパースター、同年九月六日閲覧) ウェブサイト記事、「みんなの経済新聞」(渋谷・青山通りに店を構え95年老舗「山田帽子店」が閉店へ、同年九月六日閲覧) ウェブサイト記事など。

(40) 学校制服製作で知られる明石被服興行株式会社『制服革命』発行は一九八六年である。

論文

国士館とブラジル日系社会の関係

—サンパウロ人文科学研究所の歴史と収蔵資料を中心に—

清水 邦俊



【キーワード】 国士館高等拓植学校、日本高等拓植学校、高拓生、高拓会、サンパウロ分校

はじめに

本稿は、国士館とブラジル日系社会の関係を、日系社会の主要団体の活動、特にサンパウロ人文科学研究所の歴史と、同研究所が収蔵している国士館に関係ある資料を通じて述べることを目的としている。

国士館は、ブラジルと戦前・戦後のそれぞれに関係があったことはあまり知られていない。まず戦前は、アマゾン川流域の未開地を開拓することを目的とした、農業指導者を養成する学校と現地に実業練習所を設立したところである。一九三〇（昭和五）年四月、養成学校として世田谷に国士館高等拓植学校（以下「高拓校」）を、同

年一〇月にアマゾナス州パリンチンス市ヴィラアマゾニアに現地での実業練習所を設け、それから多くの農業指導者を輩出した。¹⁾ 高拓校は、ポルトガル語の語学や移住に必要な科目、農業畜産・土木・測量等の科目課程と、圃場を用いた農業実習を世田谷の国士館で一年間かけて修得した。²⁾その後卒業生は原則としてブラジルに渡航し、実業練習所にてさらに訓練を受け、修了後に周辺の植民地の開発に従事した。高拓校は二年後、神奈川県橘樹郡生田村（現川崎市多摩区東三田、明治大学生田キャンパス）に日本高等拓植学校として独立し、一九三七（昭和一二）年に第七回の卒業生を輩出した後、廃校となった。現在では高拓校出身者の子孫がアマゾナス州周辺やサン

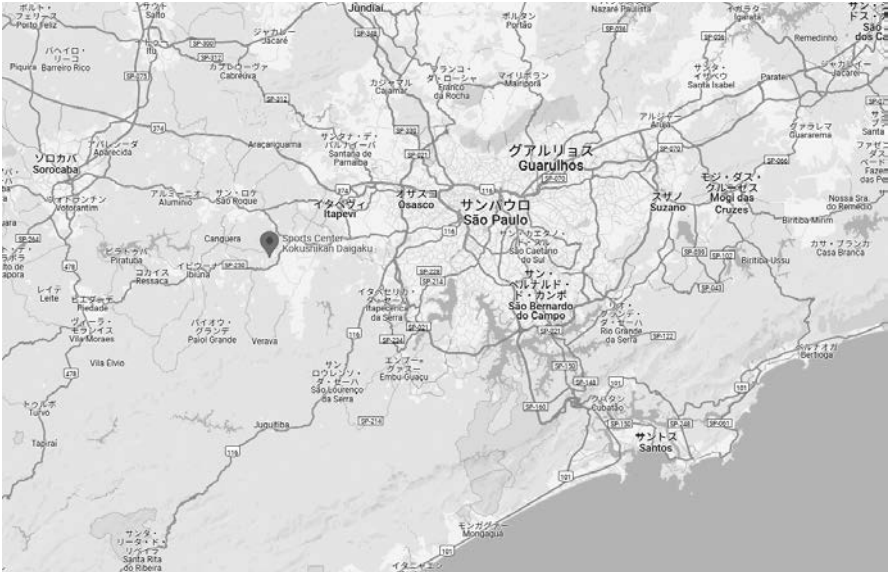


写真1 サンロッケ位置図 (Google マップより)

パウロ市等を中心に活躍し、日系社会団体の活動にも関わっており、同社会を構成する一員となっている。

一方戦後は、総長柴田梵天による、武道普及を目的としたスポーツ施設である。その施設は、一九七九（昭和五四）年からパラ州ベレン市・サンパウロ州サンパウロ市に両支部を設置し、翌年サンパウロ州サンロッケ市に用地を取得、武道体育館を建設し、そこを拠点に活動したサンパウロ分校である。^③ サンパウロ・ベレンの両支部では空手道・剣道・柔道を、サンパウロ市近郊の日本語学校でも右記三種目を、サンパウロ州立大学では新体操の指導を行っていた。^④ その後、両市の支部を統合し一九八六（昭和六一）年にブラジル支部を設立した。サンロッケ市に取得した用地には、武道体育館や宿泊施設を設けて活動拠点とした。しかし、運営体制や資金問題等で、一九八四（昭和五九）年以降の学園改革から徐々に縮小されていき、一九九六（平成八）年の理事会においてブラジル支部の資産を、ブラジル日本文化協会（現ブラジル日本文化福祉協会）へ譲渡することを決議し、翌年一月の譲渡調印式を経て同支部を廃止した。^⑤ 現在、武道体育館等の施設は、ブラジル日本文化福祉協会（以下



写真2 国士館大学スポーツセンターの現在
(文協ホームページより)

「文協」が運営しており、用地内を公園（「文協国士館公園」として整備し、体育館はスポーツイベント等に活用されている。また体育館の名称は国士館大学スポーツセンター（Centro Esportivo Kokushikan Daigaku）⁶。今でも国士館大学の名称を使用している（写真2参照）。なお、公園では毎年七月の桜の開花の季節には「文協の桜祭り」と銘打ったイベントを開催し、約二万五千人（二〇一八年）の来場者があり賑わっている。

このようにブラジルにおける戦前・戦後の国士館の活

動期間は長い。しかし高拓校は、九十年以上の時間的経過によって、当時の実習生の業績が同州の歴史の一部となり、それはまたブラジルの日系移民の歴史の一部にも

なっている。またサンパウロ市を中心に柔道・剣道・空手道は日系・非日系人を問わず人気の競技であり、これら武道の道を志す人が多い。その要因の一つには前述した国士館の活動があったからだろう。このように戦前・戦後の国士館の業績を評価するためにも、文書資料の所在や現状を把握することは意義あることと考える。

そこで、本稿ではまず日系社会の主な団体を紹介し、そのなかの一つであるサンパウロ人文科学研究所の創設までを概観する。続いて、同研究所の創設目的の一つである日系社会に関する資料収集とそれらの整理過程を、最後に収蔵資料のうち国士館に関係する文書資料を収集した個人の経歴やブラジルでの活動とともに、資料の概要を紹介する。そして最後に国士館とブラジル日系社会の関係を述べることにする。

なお筆者は二〇一八（平成三〇）年から二〇二〇（令和二）年にかけて、JICA日系社会シニア海外協力隊の学芸員として、サンパウロ州サンパウロ市リベルダージ区にあるサンパウロ人文科学研究所に派遣されていた。そこでの活動内容は、同研究所が収蔵している個人文書の整理・目録データ作成作業で、その時に高拓校に

関する資料を多数確認していることを付記しておく。

一 日系社会団体の状況

一九〇八（明治四一）年の第一回契約移民七八一人を乗せた笠戸丸が、ブラジルのサントスへ出航して二〇二四年で一六六人が経ち、日系人口は今や約二七〇万人と算出されている。^⑦この間に日本人移住者や日系人は、日系人会・日本人会、県人会、スポーツ、文化、学校・日本語学校、宗教関係、青年会、企業関係などに様々な団体を結成し、それらが今日まで継続して各種イベントや教室を催しブラジル社会の中で貢献している。イベントや教室には、日系・非日系にかかわらず多数の参加があり、日本文化や日本食などを楽しんでいる。特に毎年七月に行われるブラジル日本都道府県連合会主催の「フェスティバル・ド・ジャポン（日本祭り）」は最大のイベントで、三日間の開催期間で一八万四千人（二〇二四年）の人が訪れる盛況ぶりである。^⑧このようなイベント等を開催する日系団体は多数あり、代表的な団体として、サンパウロ人文科学研究所（後述詳細）、ブラジル日本文

化福祉協会^⑨、サンパウロ日伯援護協会^⑩、ブラジル日本都道府県連合会^⑪、ブラジル日本商工会議所^⑫、日伯文化連盟^⑬、アリアンサを挙げることができる。

二 サンパウロ人文科学研究所の創立と資料収集活動

サンパウロ人文科学研究所（以下「人文研」）について、本章で資料収集や整理状況を、第三章で国士館関係資料群について取り上げるため『人文研史―半世紀の歩み^⑭』をもとに、人文研の設立前史から現在までの状況と、人文研の目的の一つである日本人移住者や日系人の資料収集活動の一端をみていきたい。

（一）創立前史

人文研は、一九四六（昭和二一）年六月に設立された土曜会に始まる。しかしそれ以前の一九三〇年代から日系社会の知識層によるブーグレ倶楽部やサンパウロ美術研究会などの文化人サークル、同人会が結成されており、定期的な例会の開催や雑誌を刊行していた。^⑮これらの会



写真3 『時代』原稿（人文研所蔵）

に関係していた人たちによって新たに結成された土曜会は、以前の会のように政治思想は扱わず、文化運動を志したものであるとされた。同会は月一回の例会を開催しながら、そこでの研究成果の発表媒体として一九四七年一月に機関誌『時代』を創刊した（写真3参照）。同誌は刊行を重ねるごとに、経済学、哲学、文学、博物学、社会学、スポーツ、芸術などのさまざまな分野に関する研究成果を掲載していき、日系社会の知識層及び実業家たちに広まり多くの人に講読されていった。その購読者の

の一人であった中尾熊喜¹⁶⁾は、日系社会のなかでも代表的な知識人とされていた土曜会メンバーであるアンドウゼンパチ¹⁷⁾に一九五一年から哲学や社会学などの教えを乞い、これを契機に中尾とアンド

ウら土曜会メンバーの交流が始まった。中尾は日系社会の農業関係の団体の中心的な役職を務めると同時に、土曜会の活動に興味を持ち支援していた人物である。この出会いにより土曜会のメンバーの間に、ブラジルにおける日系社会を社会的な視野から研究しようという意識が芽生え、積極的に論じられるようになっていった。やがてそれがサンパウロ人文科学研究会（以下「人文研会」）の結成に至る。

人文研会は「ブラジル社会・歴史、及び日系社会の理解を旨とし、定期的に集会をもち、研究テーマについて」議論することである¹⁸⁾。その研究成果として、一九五三年から一九六三年まで『ブラジル研究叢書』全四巻を刊行した。なお人文研会結成後も十数年間、土曜会は並存し、それぞれ研究活動を行っていた。

（二） 人文研の誕生

一九六四（昭和三九）年四月二二日、ブラジル日本移民五〇周年記念事業の一つとして、サンパウロ州サンパウロ市リベルダージ区に日本文化センターが建設されたのを機に、人文研会は同センター内に事務所・研究室を

設け組織的な活動をはじめた。これまで中尾熊喜主宰の私的な研究グループであった人文研会は、日本人移住者によってブラジル及び日系社会の研究を専門とする団体となり、さらには事務所設置により公的団体として「サンパウロ人文科学研究所」と改称し、新たに出発することになった。

同年六月五日、事務所内にて臨時集會が開かれ、齊藤広志、増田秀一（以上二名の経歴は詳細後述）、中尾熊喜、半田知雄⁽¹⁹⁾、尾関興之助⁽²⁰⁾、宮尾進⁽²¹⁾、前山隆⁽²²⁾、藤井卓治⁽²³⁾、田尻鉄也⁽²⁴⁾の九名によって今年度の事業計画が話し合われた。その結果、日本人移住史と日系社会史研究の継続、ブラジル社会文化研究に必要な資料収集、勝ち組等終戦直後の日系社会の混乱期資料の収集、ブラジルの地域研究の継続を引続き行うことが確認され、これらの成果の発表機会としてブラジル研究セミナーの開催が計画された。翌年三月二四日には人文研事務所にて創立総會が行われ、初代理事長には中尾熊喜が、副理事長に蜂谷専一⁽²⁵⁾、第一書記理事に河合武夫⁽²⁶⁾、第二書記理事に藤井、このほか会計理事二名、研究担当理事一名、監査役及び監査役補佐が各三名ずつ、専門委員が二二名、それぞれ選

ばれた。また創設と同時に政府公認の研究団体としての登録申請が行われ、その結果一九六五年六月一五日付サンパウロ州政府官報に認可の旨が掲載され、翌日正式な登録が完了した。さらには一九六七年一二月六日付でサンパウロ州に公益社団法人として認定を受けた。

人文研発足以来の研究目的は、①ブラジルの日本人移民史、②ブラジルの日系社会、③ブラジルと日本の交流史の三点であった。その後一九九〇年代から日系社会の著しい変容に伴い、また人文研のブラジル社会への統合を促進することを目指して、④ブラジルにおける日本文化の変容、⑤日本文化の研究と普及の二点を新たな研究対象として追加した。

一方、日本国内における広報活動、人文研に在籍した日本側研究者との連携を図り、あわせて人文研所蔵資料の活用のための研究生を派遣する趣旨により、二〇一三年六月にサンパウロ人文科学研究所日本支部（事務所所在地・東京都武蔵野市）が創設され、翌年四月にはNP〇法人として認可された。日本支部の主な事業内容は、①若手研究生の本部派遣による調査・研究、②ブラジル・日本とブラジルの関係に関する調査・研究、③講演会・

【表1】書籍・文書資料受入一覧表

寄贈年代	資料の種別	所蔵者・寄贈者	仲介者	概数	特記事項
1967年	書籍・文書	アンドウゼンパチ		200	アンドウの日本帰国に際し同氏が収集したブラジル史関係のポルトガル語書籍を人文研が購入
1967年	書籍	長谷川武	長谷川武遺族		日系社会関係書籍
1970年	書籍	長谷川武	長谷川武遺族		
1970年	書籍	後藤武夫			
1971年	書籍・文書	鈴木貞次郎（号：南樹）	中林敏彦・河合武夫		文協ビルの談話室を借り配架
1975年	書籍	半田知雄		200	書籍と刊行物
1979年	書籍	高岡由也	半田知雄	26	平凡社大辞典を寄贈
1982年	書籍			84	英文図書（国際交流基金図書援助プログラムによる）
1983年	書籍			76	日本文化関係英文図書（国際交流基金図書援助プログラムによる）
1983年	書籍	武本由夫、細江静雄、橋本統一郎、鈴木梯一、増田秀一	武本由夫遺族、細江静雄遺族、橋本統一郎遺族		
1999年	書籍・文書	河添清	河添清遺族		
2010年	書籍	所蔵者不明（複数名）			日本語教育資料
2010年	書籍・文書	斉藤広志、鈴木貞次郎、尾関興之助			
2012年	書籍・文書	西村財団（西村俊治、ボンベイア専門学校所蔵資料を含む）、安良田済、清谷益次、小林成十			
2014年	書籍・文書	伊藤直、山里アウグスト、高野芳久	伊藤直遺族、山里アウグスト遺族、高野芳久遺族		
2015年	書籍・文書	山中三郎、清谷益次、脇坂勝則	山中三郎遺族、清谷益次遺族、脇坂勝則遺族		
2017年	文書	北島健三、清水宗二郎、宮尾進	宮尾進遺族（左記三名分）		
2017年	文書	河合武夫	田中慎二		

注1 『人文研史－半世紀の歩み－』をもとに筆者が加筆して作成した。

注2 書籍か文書か判然としないものは書籍として扱った。

研究会・研修会の開催である。⁽²⁷⁾ 日本支部の創設により、日本側研究者との連携、研究生の派遣が一層活発化することになる。

(三) 資料収集活動

人文研では、設立当初から日本人移住者や日系人の書類や手紙、日記等の個人文書、書籍の購入や収集に努めてきた。

一九六四（昭和三九）年の人文研設立準備に向けた臨時集會では、「ブラジル社会文化研究に必要な資料の収集、『勝ち組』等終戦直後のコロナ混乱期資料の収集」が設立目的の一つとして挙げられた。⁽²⁸⁾ 実際の収集は、一九六七年にアンドウゼンパチの日本帰国に際し同氏が収集したブラジル史関係のポルトガル語書籍約二〇〇冊を購入したことに始まる。表1は『人文研史―半世紀の歩み―』⁽²⁹⁾ から書籍や文書資料の受入年、所蔵者、仲介者など判明する限り一覧にしたものである。一九七〇年代までは、数年置きに資料を受け入れている。しかし一九八〇年代になると八二・八三年は国際交流基金の援助プログラムを申請による受け入れがあるものの、それを除く

と八四年と九九年のみと減少している。原因は明らかではないが、一九七八年に移民史料館が創設されたことも影響していると思われる。この時期の収集方針の特徴は、人文研理事たちの研究目的によるものや、あるいは理事の仲介を通じて収集した書籍や資料が中心となっていたと考えられる。

二〇〇〇年代に入って、研究所としての活動が低迷し閉鎖も検討されたためか二〇〇〇年代は資料受入の記録は残っていない。そして二〇〇七（平成一九）年から再生の道を歩むこととなり、二〇〇九年から奨学生制度や外部研究者を、二〇一六年以降は同制度による日本からの研究者も受け入れるようになったため、これに伴い再び書籍・文書資料の受け入れも積極的に行うようになった。二〇〇〇年代以前の収集方針との相違点は、日本人移住者や日系人が逝去した後、遺族から収集していることである。

(四) 人文研所蔵資料の整理の経緯と現状

本節では、人文研が収集してきた書籍や文書資料、それぞれの整理の経緯をみていきたい。

これらの整理は一九七〇（昭和四五）年から同研究所に所属した理事や専門委員達によって行われてきた。一九七〇年代の整理は半田知雄が中心となつて行つていたようである。²¹ 整理方針や目録作成の有無等の詳細については不明であるが、書籍は分類が主であつたようである。

まず書籍の整理は、二〇〇〇年代に入り人文研所蔵の書籍・文書の両資料の劣化や損傷失が顕著となり、また複数人の理事や委員によって個々の方法で分類整理が行われてきたこともあつて、抜本的な整理・保存・公開などの対策が必要になつてきた。これを受けてJICA日系社会青年海外協力隊での司書派遣を要請、二〇〇七（平成一九）年に着任した司書によって書籍の整理・分類が行われた。同司書は二〇〇九年の任期終了まで、人文研の書籍はブラジルのなかでも日系社会に関係した書籍を収集しているという特性上、日本で広く運用されている日本十進分類法（NDC）区分によらず、人文研独自の分類方法に基づいて全書籍の分類・登録・データベース化を行った。その結果、日本語移民資料が四〇八四冊、日本語一般図書が一八四一冊、合計五九二五冊となつた。これらは二〇〇九年から人文研ホームページ上にて公開

されている。²²

その後、書籍資料の整理は人文研職員によって分類・データベース化が行われた。二〇一〇年の整理内訳は、日本語移民資料が四三四四冊、日本語以外の言語による移民関係資料が約三〇〇〇冊（日本語一般図書は変わらず）、二〇一一年は日本語移民資料三四〇二冊、雑誌一〇三七冊、日本語一般図書一八九九冊、日本語以外の言語による移民関係資料二二〇六冊となつた。しかし人文研職員の分類・整理方法は、JICAの司書とは異なる方法で行つたことから、整理方針が一貫せず混乱している。このようなこともあつて、これらの書籍データは人文研ホームページには登録されておらず、現在では全書籍の検索はできない状態にある。

そして、寄贈を受けた書籍のなかで重複している図書がかなりの冊数に上つていたため、二〇一七年に移民関連の重複分を沖縄県立図書館へ寄贈している。二〇二三年からJICA日系社会青年海外協力隊の学芸員派遣を要請し、同学芸員が書籍の整理を行っているため、今後データの整理・検索サイトの整備がされていくことであろう。

一方、文書資料の整理については、一九七〇年代から書籍同様に理事や専門委員が行ってきたことは既に述べた。二〇一〇年代からは書籍資料同様に人文研職員が行っていた。

人文研の文書資料の本格的な整理を施し、目録を最初に公開したのは長尾直洋であろう。長尾は二〇一四年度に東洋大学の研究助成調査として楡木久一（にれきひさいち）資料の整理を行っている⁽³³⁾。同論文の巻末に掲載されている資料リストは、段ボール箱四つに入っている文書を「日誌」「冊子・ノート等」「手紙」「目録」「書籍」の五項目に分類し年代順に配列している。これが人文研所蔵の一個人文書をリスト化して公表した最初のものであろう。また同リストには、楡木自身が資料の一部である一九三八年から一九六四年までの日記類や書類・新聞切抜などを国立国会図書館に売却しており、それらのリストも掲載されている。

また長尾の整理と同年に、青木祐一による整理が行われた。青木は科学研究費助成事業で人文研所蔵の個人文書を調査対象の一つとした⁽³⁴⁾。青木の整理の特色は、これまでの分類主体の整理ではなく、資料が紙袋や紐などで

一括されている「まとまり・塊・重なり」を群と捉え、文書あるいは文書群同士の関係性を重視したアーカイブズ学的手法を用いて調査を行ったことである。ホームページ上に掲載されている報告書によれば、二〇一六（平成二八）年九月現在、出所不明の資料群も含めて一七名から寄贈された資料群を整理し、その結果アーカイブズボックスへの収納分が一三一箱・段ボール箱への収納分が四五箱として、収納箱単位で概要目録を作成している（以下「科研目録」）。したがって科研目録は、人文研所蔵の個人文書の全体像を概要レベルで明らかにした目録であるといえる。なお、科研目録は人文研ホームページでは公開せず、来所した利用者に公開していたようである。

一九六五年にブラジル公認団体となった人文研は、二〇一五年で五〇周年を迎えた。その前年度から記念事業として日系コミュニティ調査、人文研五〇周年記念誌の刊行、専任研究員制度の創設などが計画された。このうち五〇周年記念誌の刊行については、二〇一四年に記念誌作成計画が提案され、翌年、同誌作成のための日系社会青年海外協力隊をJICAへ要請、二〇一六年に派遣

され、同年にサンパウロ人文科学研究所五〇周年記念誌編纂委員会が組織され本格的に稼働し始めた。同協力隊は戦前の人文研の前身団体（ブーグレ倶楽部、無名会、土曜会、サンパウロ人文科学研究会）関連の資料調査、人文研創設以降の事業報告書等と中心に調査を行い、二〇一八年五月『人文研史―半世紀の歩み―』を刊行するに至った。

刊行事業を行う過程で、二〇一〇年以降の文書資料の受け入れ増加に伴い、公開を見据えた本格的な整理を行うことが課題となった。これにより、文書資料の整理を専門とする学芸員をJICA日系社会シニア海外協力隊として要請し、二〇一八年に筆者が学芸員として派遣された。二年間にわたる同学芸員のアーカイブズ学的整理によって、二つのリスト（資料ガイド・概要リスト）を作成し、二〇二〇年にホームページ上に公開した³⁵。同時にこの整理によって人文研が所蔵している個人文書群が三二、概数二六〇三七点ということも判明した³⁶。

しかし概要リストは大まかな「〇〇関係文書」という記述までで、詳細な一点ごとの文書データを採録していない。これは資料整理を一回性で行うのではなく、段階

を設けて計画的に整理を行ったことによるものである。今次整理の目的は、資料全体の把握と公開可能なレベルの目録を作成することであった。今後の段階は、一点ごとの文書データを採録し、より具体的な検索にも対応できる整理を行うことである。

このように一九七〇年代に整理を始め、当初は人文研の理事や委員が個々の方法で行っていたが、その後二〇〇〇年代になって、人文研所蔵の書籍・文書両資料の整理が、専門的な知識を有するJICA日系社会青年・シニア両海外協力隊によって徐々に本格的に行われてきたことで、人文研収蔵の資料がより活用しやすくなったことは利用者にとって喜ばしいことである。

三 人文研収蔵の国士館関係資料群の紹介

本章ではサンパウロ人文科学研究所が収蔵している個人資料のうち、国士館、特に高拓校に関する資料を受受した四名の経歴や日伯それぞれの活動、資料の概要について紹介する。

(1) 増田秀一資料

増田秀一は、一九一一年(明治四四)年香川県に生まれ、一九二九(昭和四)年大阪大倉商業学校卒業後に家族と渡伯した。一九三三年、エメボイ農事実習場の第一期実習生として卒業、その後一九七〇年のエメボイ研究所創設に関わった。エメボイ農事実習場とは正式名称を「サンパウロ農事実習場」と言い、一九三一年にサンパウロ近郊のイタシリカ郡エメボイ・ミリム(現サンパウロ州サンパウロ市)に創設され、「或る程度の知識と技能を備え、永住目的をもった青年をブラジルに送って、移民社会の中堅的、指導的人材たらしめよう」として、移住先において二年間の実地教育を施す実習機関^⑤であり、一九三六年の閉鎖までの四年間で七一名の卒業生を輩出している。移住者の農業指導者の役割を果たす人材を育成する目的は、国士館の高拓校と類似している。

大戦後の一九四八年パウリスタ新聞社へ入社、一九五三年からは毎日新聞サンパウロ通員として約十年間ブラジル通信を送る。一九五五年コチア産業組合販売局長、一九六三年にはコーペルコチア共済会事務局長を歴任し、一九七三年に退職した。その間に土曜会、人文研会

に参加し、コロンビア文芸界、特に俳諧の分野で指導者的役割を果たした。俳句家でもあり俳号は恆河(こうが)、二〇〇四年に俳句の国際普及活動が評価され正岡子規国際俳句大賞を受賞する。人文研創立会員で、一九七〇年より一九九六年まで人文研理事を務め、二〇〇八年五月二八日サンパウロ市にて逝去した。

彼の著書には『エメボイ実習場史』ブラジルにおけるパイオニア教育(エメボイ研究所、一九八一年)、『清流のほとりに』アチバイア文化協会三〇年の回顧(アチバイア文化協会、一九八三年)、『ブラジルにおけるハイカイの近況』(出版社不明、一九九四年)、『自然諷詠』(日伯毎日新聞社、一九九五年)、『Natureza. Berço Do Haicai. Kiglogia e Antologia』(日伯新聞社、一九九六年)がある。

本資料群は、概数二一七〇点、一九三〇年代から一九九〇年代にわたり、増田が渡伯以前、あるいはサンパウロ農場実習生時代、その後の同場史編さんに関わった関係上作成した原稿や、エメボイ研究所の創立準備委員会や創立後の総会議事録等に関する文書等、その他、俳諧に関する文書や同人の書簡等が多数ある。このうち国士

館に關係する資料としては『高拓会々報』、同会名簿・ジュート栽培地分布地図等の高拓校關係がある。これは同校とサンパウロ農事実習場が類似していることから収集していたと考えられる。

(2) 齊藤広志資料

社会学者で人文研の初代研究担当理事である齊藤は、一九一九（大正八）年一月宮崎県に生まれ、一九三四（昭和九）年に一五歳の時に両親と共に渡伯した。農業に従事した後、当時開校したサンパウロ農事実習場へ入学する。卒業後は『農業のブラジル』誌、日本商工会議所に勤め、大戦中は蜂谷専一の私設秘書となった。大戦後、一九四八年に増田と共にパウリスタ新聞に入社、勤務の合間にサンパウロ政治社会学院に聴講生として通学した。また勝ち負け抗争における認識派の機関誌「週報」に関わり、土曜会や人文研会へも参加して、社会的見地から論稿を発表した。一九五〇年にサンパウロ政治社会学院へ入学後、一九五二年から五三年にかけては、泉靖一東京大学助教授の助手として日系人調査に従事し、一九五四年から五六年にかけては同大学院修士課程を履

修した。一九五七年には神戸大学の助教授となった後、五九年にブラジルへ戻り、サンパウロ政治社会学院の教授に就任した。その後、一九六九年にサンパウロ州立大学コミュニケーション芸術学部へ移る。一九八三年一月三十一日、サンパウロ市にて逝去している。

社会学者としての業績は多く、著書『アマゾン その風土と日本人』（泉靖一共著、古今書院、一九五四年）、『アルデスチの風土と社会』（ブラジル研究叢書第三集、中尾熊喜・アンドウゼンパチ共著、サンパウロ人文科学研究所、一九五六年）、『移住者の移動と定着に関する研究』（神戸大学経済経営研究所、一九六〇年）、『バルガス以後・ブラジルの政治と社会（一九三〇—一九六九）』（ラテンアメリカ協会、一九七〇年）、『新しいブラジル 現地からの特別報告』（サイマル出版会、一九七四年）、『ブラジルに暮らす…現地の社会を理解するために』（日本貿易振興会、一九七五年）、『ブラジルの政治 新しい大國への道』（サイマル出版会、一九七六年）、『外国人になった日本人 ブラジル移民の生き方と変り方』（サイマル出版会、一九七八年）、『ブラジル社会と日本』（駒井洋・中川文雄共著、日本国際問題研究所、一九七八年）、『N

HK話せるスペイン語』(サイマル出版会、一九七八年)、
『異文化の中の五〇年』(サイマル出版会、一九八三年)、
『伝記 蜂谷専一』(サンパウロ人文科学研究所、一九八三年)、
『新しいブラジル 歴史と社会と日系人:新版』(サイマル出版会、一九八三年)、
『ブラジルと日本人 異文化に生きて五〇年』(サイマル出版会、一九八四年)などがある。

本資料群は概数二〇〇〇点、一九四〇年代から二〇〇〇年代にかけて、斉藤が研究目的で収集した資料群や研究過程で執筆した原稿、日系社会団体の事業報告関係、各種調査、移住七〇周年シンポジウムや記念事業関係、農作物に関する新聞記事切り抜き、知人や学生からの書簡等がある。このうち国士館に関する資料として、高拓生五〇年祭パリンチンス・ベレン旅行関係一括(一九八一年)があり、五〇年祭に自身が出席した際の関係書類とみられる。

(3) 内山勝男資料

内山勝男は一九一〇(明治四三)年岩手県盛岡市生まれ、父親の郷里である新潟県上越市に移り、地元の中学

校を卒業後、東京外国語学校スペイン語科中退、一九三〇(昭和五)年に渡伯する。サンパウロ州新報社へ入社し、その後日伯新聞へ移る。一九四七年サンパウロ新聞創業と同時に入社し、編集長、編集主幹を歴任した。一方で、日本の中日新聞・東京新聞の通信員として日本にブラジルの事情を伝えていた。二〇〇四年逝去。著書に『蒼茫の九二年 ブラジル移民の記録』(東京新聞出版局、二〇〇一年)、『舞樂而留ラプソディー』(ピーエムシー出版、一九九三年)がある。

本資料群は概数四二〇〇点、一九三〇年代から二〇〇〇年代にかけて、内山が日伯新聞・サンパウロ新聞をはじめとする、新聞の記事等を執筆するために収集した他紙の記事切り抜きや自身が執筆した原稿、及び写真等である。大半の資料は内山によって、記事ごとに封筒に一括され、封筒表に記事名が書かれている。第一回笠戸丸移民に関する一九五〇年代の新聞・雑誌の記事切抜、一九四〇年代に実施した日系社会実態調査関係、政治家の岸信介・海部俊樹、水泳の古橋広之進、歌手の中尾ミエ等の訪伯時の写真等がある。国士館に関する資料として、一九八〇年代の『高拓会々報』や高拓生に関する冊子が

ある。

(4) 山里潔資料
やまざときよよし

一九二五(大正一四)年サントス市生まれ、ブラジル名はアウグスト。両親は具志川村(現沖縄県久米島町)の出身である。単身、京都の龍谷大学へ自費留学し、大学院生の時僧籍に入る。帰国後、放送・出版界で活動し、テレビ番組制作や執筆を日本語・ポルトガル語で行う。著書に『東からきた民』(発行年不明、二〇〇二年度コロニア文芸賞受賞)、『七人の出稼ぎ』(ニッケイ新聞社、二〇〇五年、ポルトガル語版『OS 7 DEKASSEGUIS』を同時出版)、『宗教の産業化』(そうぶん社出版、一九九二年)、『日本史絵巻物』『心のともしび』『老移民のこの日』『崩壊』(以上四著書、出版社・発行年不明)がある。

本資料は概数一六〇〇点、一九五〇年代から二〇〇〇年代にかけて、両親が所有していた沖縄県内の登記済権利証をはじめとする土地売買関係、自身の宗教観を広める活動として執筆した原稿や、自身が投稿した新聞記事の切り抜き、パンフレットや手記、書簡等がある。国士

館に関する資料として、一九八〇年代の高拓会関係の資料が約三〇点ある。

おわりに

ブラジルにおける日系社会との関係をみるために、国士館と関連する団体としてサンパウロ人文科学研究所を取り上げ、創立から資料収集活動及び資料整理の過程、そして国士館に関する資料、特に高拓生や高拓会に関する資料を収集していた四人の経歴やブラジルでの活動内容、またそれによって形成された個人文書の概要についてみてきた。

まず、資料収集・整理についてまとめると、創立当初から収集と同時に資料整理を行ってきた。その時の問題点は、研究所として一貫した整理方針が貫かれておらず、担当者ごとに独自の方法で行っていたことである。二〇一〇年代からは、書籍資料と共に人文研職員が整理を行ったが、さらに独自の方法で行い、その結果、属人的な整理になった。二〇一八年からのJICAの学芸員のアーカイブズ学的な整理により、現在ではその問題はあ

る程度解消されている。そして資料の概要、簡易的な文書リストが作成されたことにより、それ以前より利用者自身による検索はしやすくなっている。ただ残された問題点として、文書一点ごとの検索には不向きなため、将来的には詳細なリストの作成が必要であることは明白であり、今後に進展が期待される。

前章では、人文研が収蔵している文書資料について述べてきた。四氏の資料中に類出する「高拓会」とは、高拓校の卒業生が結成した会で、同会の会報誌は一九六九年にサンパウロで『高拓会々報』として発行し、二〇〇〇年（第二八七号）まで続いた。⁽³⁸⁾ 一方、サンパウロ分校に関するブラジル側の資料は国士館史資料室にビニール袋一袋分程度が収蔵されているにすぎず、現地での所在も把握されていない。同分校の活動実態を明らかにすることで、日系社会のなかの歴史的な位置づけがみえてくるため、資料の所在調査は早期に実現することに期待したい。また高拓生のなかでもサンパウロ分校設立に深く関わった人はいた。その一人、第一回引率者の越知栄は、ベレン支部・サンパウロ分校設立に大きく貢献している。高拓生が戦後の国士館のブラジル進出にとって欠かせな

い存在となっていたことが窺える。⁽³⁹⁾

以上のように、国士館とブラジル日系社会の関係を、人文研収蔵資料の個人文書を通じてみてきた。同校と日系社会の関係は、残っている資料から、高拓校がその役割を果たしているといえよう。サンパウロ分校も、高拓校の関係者が関わっているため、資料から明らかになっていないだけで、ブラジル日系社会に寄与・貢献していることであろう。

〈注〉

- (1) 『国士館百年史』通史編（学校法人国士館、二〇二一年）、二三五頁～二六〇頁、『上塚司のアマゾン開拓事業』（上塚芳郎・中野順夫共著、二〇一三年、非売品）。
- (2) 「高等拓植学校設置認可申請書」（『国士館百年史史料編』上、学校法人国士館、二〇一五年）六〇九頁～六一六頁、「高等拓植学校案内（五月一〇日付柴田書簡別紙）」（同上）六一九頁～六二〇頁。
- (3) 前掲注1 『国士館百年史』、七一四頁～七一六頁。
- (4) 伊井克己「国士、海を渡りて」（『国士館史研究年

報 楓原』第八号、平成二九年三月）一五二頁、

一六四頁〜一六五頁。

(5) 前掲注1『国士館百年史』、七七二頁。

(6) ブラジル日本文化福祉協会サイト

<https://www.bunkyo.or.jp/br/centro-esportivo/>

(7) 外務省ウェブサイト <https://www.mofa.go.jp/mofaj/area/brazil/databank/>

(8) ブラジル日報ウェブサイト <https://www.brasilnippou.com/2024/240716-21colonia.html>

(9) 一九五五年にサンパウロ日本文化協会として発足、

一九六八年ブラジル日本文化協会、二〇〇六年ブ

ラジル日本文化福祉協会に改称。サンパウロ市リ

ベルダージ区に本部を置き、会員からの会費・寄

付や講堂・会議室使用料、各種事業収益金等によ

り運営。三二の専門委員会が日本文化の普及、日

本政府要人接待、文化施設（移民史料館、日本館、

図書館、国士館大学スポーツセンター）の運営管

理にあたる。

(10) 一九五九年に日本移民援護協会として発足、一九

六九年日本移民者援護協会、一九七二年サンパウ

ロ日伯援護協会と改称。医療機関としては日伯友

好病院、リベルダージ医療診断センター、サンミ

ゲル・アルカンジヨ病院（サンミゲル・アルカンジヨ

市、二〇一三年開院）、自閉症児童療育施設はPI

PA（サンパウロ市、二〇〇六年活動開始）を、

社会福祉施設は、特別養護老人ホーム（グアルー

リヨス市、二〇〇三年完成）、イペランディアホー

ム（スザノ市、一九八三年開所、二〇〇二年改築）、

サントス厚生ホーム（サントス市、一九七一年リ

ベルダージ地区に設立、一九七四年サントス市へ

移転、二〇二二年増改築）、特別養護老人ホームさ

くらホーム（カンポスドジョルダン市、一九三七

年結核患者療養所として発足、一九六五年経営権

が援協へ譲渡、一九九九年高齢者福祉施設に）を

経営している。

(11) 一九六六年設立、初代会長…中尾熊喜、主な活動

は各県人会の総括、日本祭りの開催である。

(12) 一九二六年日系雜貨輸入商八社が商工組合を結成、

一九五四年にブラジル日本商工会議所となる。二

〇〇七年には進出企業会員数が一五三社になる。

- (13) 一九五六年創立、ブラジルと日本の文化交流促進を目的とした非営利団体である。主な活動は日本語講座、日本のアートコース、外国人向けポルトガル語教室、他に両国文化に関連した講座・講演会の開催等、日本の伝統文化の普及に尽力している。
- (14) 『人文研史―半世紀の歩み―』（サンパウロ人文科学研究所50周年記念誌編纂委員会、二〇一八年）。
- (15) 前掲注14『人文研史』九頁～一六頁。
- (16) 一八九九年一月熊本県生、一九一四年三月渡伯、一九二二年『葡語手紙の書方』を出版。一九二六年コチア日本人会会長や、翌年有限責任会社コチア馬鈴薯生産者組合を発足、初代専務理事となる。大戦後は土曜会に私財を投じて援助を行う。一九五一年アンドウゼンパチらと出合い翌年に人文研会を主宰。一九六三年日本文化協会会長、一九六五年サンパウロ人文科学研究所創設に際して初代理事長となる。一九六六年在伯県人会連合会が創立され初代会長となり初期移民の訪日団派遣に尽力する。一九六九年勲三等瑞宝章受章、一九七五年六月二八日逝去。著書『ノルデスチの風土と社会』（ブラジル研究叢書第三集、アンドウゼンパチ・斉藤広志共著、サンパウロ人文科学研究所、一九五六年）。
- (17) 本名・安藤潔（きよし）、一九〇〇年広島県生、東京外国語学校（現東京外国語大学）ポルトガル語科一期生として卒業、一九二四年渡伯、伯刺西爾時報の記者、日本語教師、日伯新聞社編集長、雑誌『家庭と健康』編集発行人などを務める。一九八三年逝去。著書『ノルデスチの風土と社会』（ブラジル研究叢書第三集、中尾熊喜・斉藤広志共著、サンパウロ人文科学研究所、一九五六年）、著書『葡文典接続法解説』、『二世とニッポン語問題…ココニヤの良識にうったえる』（私家版、一九五八年）、『Estudos sócio-históricos da imigração Japonesa』（サンパウロ人文科学研究所、一九七六年）『ブラジル史』（一九八三年・岩波書店）。
- (18) サンパウロ人文科学研究所ウェブサイト <https://www.cenbor.org.br/articulos/display/27>
- (19) 二代目専任研究員、一九〇六年生、一一歳で家族

と渡伯し一九二〇年にサンパウロへ出て、ブラジル時報社に植字工として就職。その後聖州義塾の寄宿舎に入り画家の道へ。一九三五年に日系美術家の集まりであるサンパウロ美術研究会（聖美会）を結成。一九三〇年代後半にアンドウゼンパチ主宰の雑誌『文化』に寄稿、大戦後は土曜会や人文研会にて論稿を発表。人文研創立時からの会員で、一九六七年から二代目専任研究員となる。一九七六年以降、画業に専念するため人文研の非常勤研究員へ。その後一九八〇年から八五年にかけて理事、八六年からは河合と共に顧問に就任。一九九六年八月一日、アチバイアにて逝去。著書『今なお旅路にあり…或る移民の随想』（太陽堂書店、一九六六年）、『移民の生活の歴史 ブラジル日系人の歩んだ道』（一九七〇年、サンパウロ人文科学研究所発行）、『ブラジル日本移民史年表』（半田知雄編、サンパウロ人文科学研究所発行、一九七六年、その後一九九六年に『ブラジル日本移民・日系社会史年表』に改定増補）、『半田知雄画文集ブラジル移民の生活』（一九八六年、無明舎）。

(20) 創立会員、一九一二年生、一九二五年六月渡伯。

聖州義塾寄宿舎へ入り、総領事館の事務員を勤めながら夜学へ通う。パウルーの聖州新報に「紫雲」というペンネームで投稿。伯刺西爾時報や戦前の日伯毎日などに翻訳・評論・映画批評・ブラジル文学史を発表。翻訳には「小瀬毅」、文学史の紹介では「井関讓治」というペンネームを用いた。また一九六〇年代から七〇年代にかけて、パウリスタ新聞社の「パウリスタ文学賞」、『農業と協同』文学賞、ブラジル日本文化協会のコロニア文学賞の選者を務めるなどコロニア文学に尽力。一九七〇年代ブラジル映倫の審査員に選出される。人文研創立会員であり専門委員に就任、一九八六年から九三年まで理事を務める。一九九四年一月二七日逝去。尾関興之助編『ブラジルの日系社会』（著者…尾関興之助・清谷益次・鈴木与藏・若松孝司、ブラジル日本文化協会、一九八二年）。

(21) 創立会員、一九三〇年サンパウロ州ノロエステ地区のアリアンサ移住地生まれ。九歳で日本へ送られ、少年期を日本で過ごす。一九五三年信州大学

文理学部人文科学科哲学専攻を卒業し渡伯する。サンパウロ女学院で教師を務めた後、コチア産業組合の広報課に入り、一九五六年から八〇年まで『農業と協同』『ブラジルの農業』で編集長を務める。土曜会に参加し人文研の創立時より会員として参加、一九七〇年から七九年まで理事、一九八〇年第一常任理事、八二年事務局長、九一年所長として研究に関わった。二〇〇四年以降は顧問となり、二〇一六年一〇月三〇日、サンパウロにて逝去。著書『ブラジルの日系社会論集…ボーダレスになる日系人』（サンパウロ人文科学研究所、二〇〇二年）、『臣道聯盟 移民空白時代と同胞社会の混乱―臣道聯盟事件を中心に―』（人文研々究叢書第二号、サンパウロ人文科学研究所、二〇〇三年）。

(22) 第三代専任研究員、一九三三年八月北海道札幌市生、一九五四年四月静岡大学文学部に入學。一九六一年四月サンパウロ大学給費留学生採用通知を受けて渡伯、サンパウロ大学付属パウリスタ博物館民族学部門に通う。一九六三年サンパウロ大学付属サンパウロ政治社会学院大学院に入學、齊

藤広志の紹介で土曜会に入会。人文研創立時には初代事務員を務めた。一九七四年に博士号を取得、同年人文研専任研究員に就任。一九七五年にはサンパウロ州立大学リオクラーク文理科大学社会科学部の助教授に就任し、一九七七年には信州大学人文学部からの招聘で日本へ帰国し助教授に就任する。一九八〇年七月、筑波大学歴史人類学系へ転任、一九八五年四月には静岡大学人文学部へ転任し、一九九七年に同大学を定年した。翌年からは阪南大学国際コミュニケーション学部教授となる。著書『非相続人の精神史―或るブラジル人の遍歴』（叢書ライフ・ヒストリー二、御茶の水書房、一九八一年）、『移民の日本帰還運動』（NHKブックス四一八、NHK出版、一九八二年）、『市民二三六〇号―日系女性画家による戦時強制収容所の記録―』（ミネ・オークボ共著、御茶の水書房、一九八四年）、『エスニシテイとブラジル日系人―文化人類学的研究』（御茶の水書房、一九九六年）、『ドナ・マルガリーダ・渡辺―移民・老人福祉五十三年』（御茶の水書房、一九九六年）、『異

邦に日本を祀る…ブラジル日系人の宗教とエスニシテイ』(御茶の水書房、一九九七年)、『異文化接

触とアイデンティテイ:ブラジル社会と日系人』(御

茶の水書房、二〇〇一年)、『風狂の記者…ブラジ

ルの新聞人三浦鑿の生涯』(御茶の水書房、二〇〇

二年)、『ラテンアメリカの日系人…国家とエスニ

シテイ』(慶応義塾大学地域研究センター叢書、柳

田利夫編集・著、国本伊代・比嘉マルセロ・前

山隆著、慶應義塾大学出版会、二〇〇二年)、『文

学の中で人類学を生きる…南北アメリカ生活から

帰国まで十六年』(御茶の水書房、二〇一〇年)、

翻訳『現代日本の祖先崇拜(上) — 文化人類学か

らのアプローチ』(ロバート・J・スミス著、御

茶の水書房、一九八一年)、翻訳『現代日本の祖先

崇拜(下) — 文化人類学からのアプローチ』(ロ

バート・J・スミス著、御茶の水書房、一九八一年)、

編集『ハワイの辛抱人 — 明治福島移民の個人史 —

(渋谷正六原著、御茶の水書房、一九八六年)。

(23) ブラジル都道府県人会連合会会長をはじめ一九

五五年から一九七〇年日本ブラジル文化協会事務

局長を務める、「週間時報」に投稿、著書『アマゾ

ン…世界の宝庫』(農林協会、一九五五年)。

(24) 一九三〇年宮崎県生、東京都立大学文学部社会

学科卒業、一九五四年渡伯、パウリスタ新聞記者、

コチア産業組合総務部移民課を経て農業雑誌「ア

グロ・ナツセンテ」編集主幹、サンパウロ人文科

学研究所研究員、一九九八年四月六日サンパウロ

にて逝去。著書『ブラジル社会の歴史物語』(毎日

新聞社、一九九九年)、訳書『アマゾン河・ネグロ

河紀行』(A・ラッセル著、御茶の水書房、二〇〇

一年)、その他、アグロナツセンテ誌でブラジル歴

史の葉、ブラジル街道物語、ブラジル農業の歴史、

月刊誌「オーパ・ブラジル」にてブラジルの秘境

シリーズ、秘境に分け入った人たちなどを連載。

日伯農村文化振興会の「のうそん」に一六年間、

ブラジルに於ける日系人の農業などを連載。

(25) 一九九〇年二月二十七日岡山県岡山市生、一九九

一年七月渡伯、兄が既に設立していたリオの蜂谷商

会で世話になる。その後一時帰国し一九二三年五

に蜂谷商会支店を設立し日伯貿易に従事。一九二六年サンパウロ市商工組合長、一九四〇年にはサンパウロ日本商業会議所が設立され初代会頭となる。大戦後は勝ち負け抗争に対して認識派の立場から活動を行いまた土曜会発足時に名を連ねた。一九五五年から六四年までサンパウロ日本文化協会の理事、翌年から六八年サンパウロ日本文化協会評議員会第二副会長、一九七五年に中尾熊喜が死去した後は人文研二代目理事長となり一九七八年には名誉会長となる。一九八二年六月四日逝去。著書『蜂谷専一…伝記』（サンパウロ人文科学研究所、一九八三年）。

(26) 一九〇六年三重県多気郡生、山田中学卒業、一九二五年六月渡伯。聖州義塾寄宿舎に在籍、マツケンジー工科大学を卒業し土木技師になる。コチア産業組合勤務。工事責任技師を経て、施設区画室長などを歴任した。大戦前より半田知雄と親交し雑誌「文化」に参加、大戦後は勝ち負け抗争における認識派の機関誌「週報」発行の中心となる。土曜会や人文研会に参加しサンパウロ人文科学研

究所の創設会員となりブラジルにおけるドイツ系移民研究等に従事する。創設時より一九七九年まで第一書記理事、一九八〇年より八五年まで第二常任理事、八六年より顧問となる。二〇〇五年九月一〇日逝去。著書『古猿録…河合武夫小集』（サンパウロ人文科学研究所、一九八四年）、論文『他国移民との比較』『コロンビアと農産加工』『諸家の言説…ブラジルの同化問題をめぐって』『サンタ・カタリーナ州におけるドイツ人植民地・その発足と、初期工業化の経緯』『戦前移住の一世とその二代目たち』。

(27) 前掲注18 人文研ウェブサイトで。
 (28) 前掲注14 『人文研史』四八頁。
 (29) 前掲注14 『人文研史』四八頁～五一頁。
 (30) 前掲注14 『人文研史』一一二頁～一一三頁。
 (31) 前掲注14 『人文研史』四九頁。
 (32) 前掲注14 『人文研史』一一一頁。
 (33) 長尾直洋「ブラジル日系移民研究における榎木久一資料の重要性に関する一考察…サンパウロ人文科学研究所所蔵の新資料を踏まえて」（『東洋大学

- (34) 人間科学総合研究所紀要』一八号、二〇一六年)。
挑戦的萌芽研究、課題研究二五五八〇一四九、移民アーカイブズの標準化モデル構築に向けての実践的研究：日系ブラジル移民を対象に、<https://kaken.nii.ac.jp/ja/grant/KAKENHI-PROJECT-25580149/>、青木祐一・名村優子「ブラジル日本移民関係資料をめぐる現状と課題：「移民アーカイブズ」の構築に向けて」日本アーカイブズ学会二〇一五年度大会自由論題研究報告レジュメ、同「民間団体アーカイブズの整理・編成・記述のこころみ：日本力行会を事例として」日本アーカイブズ学会二〇一八年度大会自由論題研究報告レジュメ。青木祐一「ブラジル・サンパウロ人文科学研究所資料調査・中間報告」(「CAS Report」学習院大学大学院人文科学研究科アーカイブズ学専攻研究年報』第五号、二〇一六年)。
- (35) サンパウロ人文科学研究所ウェブサイト
https://www.cenb.org.br/personal_archives/
- (36) 拙稿「個人文書における概要調査の実践報告—サンパウロ人文科学研究所所蔵の個人文書を事例に—」(『アーカイブズ学研究』第四〇号、日本アーカイブズ学会編集発行、二〇二四年)。
- (37) 『エメボイ実習場史：ブラジルにおけるバイオニア教育』(エメボイ研究所、一九八一年) 四頁・六九頁。
- (38) 前掲注1『国士館百年史』、二四六頁。
- (39) 前掲注1『国士館百年史』、二四六頁。



国士館創立 110 周年記念事業



寄付金募集

■募金の趣意

学校法人国士館は、来たる 2027 年の創立 110 周年に向け、学園の総合整備、奨学基金の充実、スポーツ・文化活動の振興及び国士館大講堂の保存環境整備に取り組んでいます。皆様方のご支援ご協力を賜りますようお願い申し上げます。

■事業の概要

期 別	主な事業項目
通 期 (2020/4~2028/3)	学生・生徒への修学支援事業 スポーツ・文化活動の振興 国士館大講堂（国登録有形文化財）の保存および防災対策 高等学校・中学校の教育環境の充実 3 キャンパスの教室等の重点整備 防災教育の推進強化 世田谷キャンパスの再整備の検討
第 1 期 (2020/4~2022/3)	町田キャンパスの整備 国士館楓の杜キャンパスの運用開始 多摩キャンパスの拡充整備 近隣の救急病院等との連携構築
第 2 期 (2022/4~2025/3)	多摩南野キャンパスの整備 国士館楓の杜キャンパスへのスクールバス運行
第 3 期 (2025/4~2028/3)	4 キャンパスの施設環境の充実

※計画の具体化により若干の変更を伴います。また、寄付金は、総事業費の一部に充当させていただきます。

■申込方法

専用の払込用紙のほか、インターネット（オンライン決済）またはコンビニエンスストア、クレジットカードを利用した決済もできます。寄付金は税制上の優遇措置を受けられます。詳細は募金事務室までお問い合わせくださるか、下の QR コードをご参照ください。

✿ 募金についてのお問い合わせ

学校法人国士館 募金事務室

電話 03-5451-8207

〒154-8515 東京都世田谷区世田谷 4-28-1

(世田谷キャンパス梅ヶ丘校舎 1 階)



この QR コードから、国士館大学 HP
創立110周年記念事業募金 募集要項
のページにアクセスできます

国士館の思い出

「雑考」学帽・学生服をめぐって

—山田帽子店の資料受贈を通して—

昼間 良次



1. はじめに

現下、大学生が学生服と学生帽子（以下「学帽」）を日常的に着用して通学することは珍しく、ほとんど目にすることはありません。しかし、ある時期までは学生の生活・文化として定着していて、当たり前前の服装でした。大学生の生活様式から急速に姿を消した学生服と学帽ですが、ある程度の世代の人には大学生を象徴する服装としての認識もあつたことでしょう。

二〇二三（令和五）年八月三〇日、創業九五年の山田帽子店（東京都渋谷区渋谷一丁目一番地一〇）が、惜しまれながら廃業しました。山田帽子店は、青山学院大学の正門から見て左斜め前、青山通りを挟んだ向かいにあ

る国連大学の並びに位置していました。一九二八（昭和三）年に開店した老舗であり、今では珍しくなった帽子専門店です。扱う帽子は主に紳士および婦人用であり、学校関係の帽子はほとんどありませんでした。ところが、以前は国士館大学と縁が深く、大学に出張して販売を行っていた時期があり、その学帽を作っていたと聞きま

す。この度、山田帽子店の店主山田輝夫氏のご厚意により、廃業に際し店内を整理して見つけられた学帽、および学帽に取り付ける徽章類（以下「帽章」）を、私が受贈することにになりました。あまりの多さに驚きつつ、それをどのように整理しようか思索していたところ、国士館史資料室が相談にに応じてくれました。整理の協力を申し出



山田帽子店の紙袋・手提袋とロゴ（稿者撮影）

てくれ、全てを一度預けることでリスト化が叶ったので
す。

そこで山田帽子店の廃業に伴って、学帽や帽章の資料
を受贈するに至った経緯を明記するとともに、学校制服

にはどのような意味があるかも、私自身の体験も踏まえ
つつ考えてみたいと思います。学帽や制服が学生生活か
ら急速に退潮する昨今、この機会に記録に留めることで、
後年、学生文化を振り返る資料になり得るのではないで
しょうか。

私は国士館大学とは直接には縁がなく、この度の寄稿
の機会は偶然にもたらされた幸運です。その幸運はどの
ような経緯で私の手元に巡ってきたのか、なぜ学帽や学
生服に関する資料を集めているのか、ここに記述したい
と思います。そして、国士館大学の特徴である黒の学生
服は蛇腹（じゃばら）と称され、それは学帽にも表れて
いて、学生や卒業生の誇りの醸成に一役買っているの
はないかと推察します。

2. 学生文化への関心

自己紹介をしますと、一九七四（昭和四九）年一月埼
玉県八潮市生まれ、一九九二（平成四）年に大東文化大
学国際関係学部に入學し、一九九六年三月に卒業します。
その年の四月には、学校法人獨協学園獨協大学に事務職

員として就職しました。

学生時代は、大東文化大學全學應援團に所属し、詰め襟の学生服を四年間着用して過ごしました。団旗を揚げる際には、学帽を着用する決まりであり、その学帽は帝大型と定められていました。帝大型とは、上部（天井）の四角い帽子、すなわち角帽です。他大学応援団と応援合戦をする機会には各大学が団旗を掲げるので、その際には学帽を着用する姿が見られます。他大学の多くは角帽でなく、丸型が多かった記憶があります。

しかし、その当時はなぜ型が違うのか疑問に思うことはありませんでした。その一方で、私立大学では大東文化大学だけが帝大型を着用できる、と先輩から教えられていました。その理由は説明もなく、それであつても自校だけが特別な存在に思われ、何とも誇らしかったように記憶しています。

卒業してからも応援団との関わりは深く、学生服への関心は高かったものの、その意味するところや学帽の違いについては探究することなく時間が経過しました。

そのような中、二〇一七年の春、足立区生涯学習センター（北千住）が主催する教養講座「けっこう深い 男

女学校制服ヒストリー」（講師・お茶の水女子大学准教授・難波知子氏）があり、それを受講し学校制服の歴史を学ぶ機会を得ました。日本の学校制服の由来と変遷を服飾史の中に位置づける内容で、新鮮な感覚で学校制服の歴史を眺めるような視点を得ました。私の学校制服への関心が喚起され、大学生時の経験と理論がつながるような気がしたのです。

その後、学校制服を対象とする研究会発足の機運が高まります。二〇一八年三月一二日、「学校制服研究会」（会長・井上卓也氏）が私を含む有志三名で発足して活動を始めます。学校制服に関することであればテーマは何でも良く、誰でも参加できるような開かれた研究グループです。これまでに行った研究会やフィールドワークでは研究者、コレクター、学校教諭や学生といった多様な人が集いました。二〇二〇（令和二）年に始まる新型コロナウイルス禍があり、ここ最近では活動を休止しているものの、これまでに研究会を七回行っています。私も男子の学生服をテーマに据えて、少しずつ資料を集め、これまでに数回の報告を行っています。

3. 学生服との思い出

一般新聞に設けられた読者による投書欄を見ると、学生服の思い出を語る内容をよく目にします。一定の世代には等しく誰もが経験しているものであり、共感する内容も多いのではないのでしょうか。

そこで、私の学生服の経験や思い出を記してみます。

私が通った八潮市立第三小学校には制服はなく、中学生になってから制服を着用します。一九八六（昭和六一）年に八潮市立八潮中学校に入学し、詰め襟の学生服に学帽を着用しました。学帽は一年中着用し、夏は日覆いの白いカバーを被せていました。靴はキャンバス地の肩掛け靴（ズック靴）です。翌年の入学者からは制服が変更され、ブレザーにネクタイの形式になりました。学帽はありません。

一九八九（平成元）年に埼玉県立越ヶ谷高等学校に入学しますが、詰め襟の学生服が制服です。学帽はありませんでした。整容規定なるものがあり、私服での通学も認められていました。卒業式の日、学生服のズボンの尻が破れてしまいました。漕艇部（ボート部）に所属して

いて、卒業式後に高校からすぐ近くの艇庫に移動し、川士手で記念写真を部員の皆で撮ろうとし、しゃがみ込んだ瞬間に縫い目が割けたのです。一着しかありませんでしたので、卒業式の日で良かったです。電車に乗って帰りましたが、周囲の乗客に見つからないか気が気ではありませんでした。

大東文化大学在学時は先に紹介した通り、一九九二年の入学から四年間、学生服でした。通称「学ラン」と呼んでいましたが、他大学の応援団と話ができるようになった四年次には、相互に学ランの特徴を語り合うという多くの機会を得ることになります。それぞれの大学によって個々の特徴があり、なかでも袖口のボタンの数が話題になりました。大東文化大学全學應援團の学ランは袖口のボタンが最多で八つあり、学年毎にボタンの数と留め方が異なります。そのうち團長の両袖には、一つずつ計二つのボタンが代々継承され、八つ目のボタンとすのが慣例になっているのです。ボタンの多さは有名なだけだったので、目をむいて驚く他大学の団長もいました。その反応に、こちらが驚いた程です。

その時代には、国士館大学応援団とも交わりがあり、

黒の蛇腹にホック式で鮮烈な印象を持ちました。学習院大学応援団と成蹊大学応援指導部は紺の蛇腹にホック式で、海軍に由来すると聞いています。成蹊大学の学ランにはポケットがなく、それは手をつたむことが無いようにするためだと聞きました。日本体育大学応援団の学ランは七つボタンであり、海軍飛行予科練習生（予科練）の制服に由来すると聞いたことがあります。

また学ランという言葉ですが、自校の応援団の先輩には、「学欄」と書くと教わりました。「学蘭」を主張する人もいます。学「ラン」の意味するところは、オランダ服として舶来の衣類という意味であると主張する人と、一張羅の「ラ」からきているという人もいます。生地単位の単位を表す「欄」を由来とし、良欄を意味する「ラン」なのだという解釈も聞いたことがあります。ともあれ、応援団の関係者には学ランを誇りに思う者が多く、現在でも学ラン自慢のような話をする人が多いものです。

4. 学生服の意義と学帽の種類

学帽と学生服は、身分と所属を表します。身分とは小・

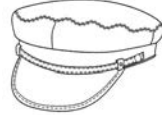
中・高校や大学の児童・生徒・学生であり、所属とは学校です。つまり学帽で身分が分かり、学生服を見ればどの学校か分かるのです。今では学帽を着用することがほとんどなくなり、身分を確認することは難しくなりました。しかし、生活に浸透している学生服姿の中学・高校生徒を見ることは多く、無意識の内にとどの学校の生徒か判断していることでしょう。

ところで、学帽にはいくつかの種類があります。まずは二種に大別でき、上部（天井）が四角い「角帽」と丸形の「丸帽」があります。

角帽（帝大型）とは学帽のルーツで、一八八六（明治一九）年の帝国大学令施行で東京大学から帝国大学（現・東京大学）へと変わり、その際に黒ラシャ（ウール）の角帽を制帽にしています。この角帽（帝大型）は、以後各公立・私立大学の制帽の標準型になります。そこから派生した学校として第一高等学校（現・東京大学教養学部）が同年に創設されますが、この時に丸型帽子（海軍士官の軍帽型）が採用されます。次いでその二年後には、側面に細い白線一本を巻くように改良されます。これが中学校・高等学校の制帽の標準型になっていき、「一高型」



一高型



三高型



慶應型

学帽の種類
 (『東京の帽子百二十年史』)

丸帽と称されます。他にも、第三高等学校（現・京都大学）の学帽は、腰に細い白線三本を巻いたドイツ型（陸軍軍帽型）で、「三高型」丸帽と称され、後に小学校の制帽の標準型となりました。

また慶應義塾においては、一九〇〇（明治三三）年に普通部（中学）生徒の登校時に丸帽を着用するよう規定し、それが昭和一〇年代に軍事教練が施行されるにょんで、制服と共に大学生の制帽としても定められました。この慶應義塾の丸帽を帽子業界では、通称「慶應型」丸帽と称したといえます。

さらに早稲田大学の場合は、帽子の上部が四角い角帽（早稲田型）に特徴があります。一九〇六（明治三九）年に早稲田大学総長大隈重信の発案で「どんな片田舎に

行っても早稲田の学生と分かるような独特な制帽」として角の尖った学帽を、近隣の帽子屋に作らせたと伝えられています。

一般的に角帽は大学生を象徴するものであり、手話にその名残が確認できます。大学は角帽を表すしぐさで示し、高校は学生帽の白線を表すしぐさで示すそうです。

ところで明治期の学校において、その集合写真を見ると、和装に学帽を被る児童・生徒の姿を多く見かけます。昭和三〇年代においても学帽を着用する例は多く、学校外でも日常的に学帽を被る習慣があつたのでしよう。一例として、長谷川町子原作の漫画「サザエさん」では、カツオ少年が学帽を被って学校に通ったり、遊びに出掛ける様子が描かれています。これは長谷川町子の経験が投影されており、当時は学帽が生活に浸透していたからでしょう。参考までに、カツオ少年が被る学帽は「三高型」です。

5. 山田帽子店との出会い

二〇一八（平成三〇）年の夏、発足したばかりの「学

校制服研究会」で報告すべき内容を思案していると、既に姿を消しつつあるキャンパス地の肩掛け鞆(ズック鞆)が気になり、それを採用している芝中学校(東京都港区芝公園)を訪ねることにしました。

八月三日(木)に芝中学校を訪ね、学校の歴史を伝える記念室の資料を一通り確認しました。その時、同校職員にズック鞆の販売所に指定している山田帽子店を紹介されます。早速、山田帽子店を訪問し、ズック鞆を見せてもらいました。その際、店主である山田輝夫氏と話をする中で、私が大学生の時に応援団に所属していた、最近になって男子の学校制服を研究するようになり、とりわけ学帽に関心ある旨を伝えると、山田氏の祖父や父の代には国士館大学内で学帽を販売していたことを教わりました。また、山田氏は亜細亜大学を卒業していて、



国士館大学の帽章

在学時にはクラブ活動を統括する学術文化連合会の本部役員だったことも披露されました。そのことで、私の知人と偶然同大同学年であり交わりがあったことが

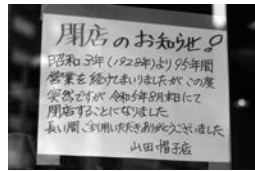
判りました。

その年の一二月一四日(金)に山田帽子店を再訪し、国士館大学と芝中学校の学帽と帽章一三個(東京農業大学、立教大学ほか)を譲り受けました。山田氏は、関心ある人にもらって欲しいと話され、机の引き出しの奥からそれらを見つけ出してくれたのです。そして、祖父や父の代の仕事の様子、国士館大学や芝中学校との関係、その他納品をしていた学校関係のこと、学帽の思い出などを聞かせてくれました。その記憶や経験は、いずれ「学帽制服研究会」で聞かせて欲しい旨を山田氏に伝えたものの、その予定を立てられずに時間が過ぎていきました。

6. 山田帽子店の閉店と受贈の経過

二〇二三(令和五)年七月一二日(水)昼ごろ、山田氏から電話がありました。それは八月末日をもって山田帽子店を廃業するとの内容です。その為に近日に立ち寄ってみてはどうかと促してくれました。

早速、七月二〇日(木)夕刻、同店を訪ねました。山田氏の話は、今後帽子店を続ける利点がなく、店舗を貸



閉店直前の山田帽子店
(2023年8月22日稿者撮影)

して賃料収入を得るのが良いとの結論に達したというものでした。また、店舗内を整理していて、学帽や帽章がいくつか見つかったことも教えてくれました。しばらく話し込み、見つかった帽章を譲り受けて帰りました。百年近く営んだ歴史ある帽子店が廃業するのは寂しい。学帽の歴史を知る店舗が無くなることは残念である、とも思いました。

八月二二日(火)には、服飾史、とりわけ学校制服の歴史を研究するお茶の水女子大学准教授の難波知子氏にも同行してもらい、閉店前の最後となる訪問をします。学帽の歴史を知る帽子店を直接に見てもらい、山田氏と直接話すことで何かしらヒントになることがあるかもしれ

れないと思ったからです。難波氏は学帽一つと帽章のいくつかを持ち帰り、研究の素材にすると行ってくれました。

九月一三日(水)には山田氏と電話で話し、八月末日付で閉店したこと、加えてその後の様子を聞きました。テナントが急に決まり、急いで片付けをしている。閉店を知り訪れる人が多く、店舗内の帽子はほとんどが売れた。国士館大学は戦後すぐに取り引きを始めた。他の学校関係では芝中学校・高等学校や成城中学校・高等学校には購買店として入っていた、との話も聞きました。国士館史資料室の職員訪問についても山田氏に検討してもらいましたが、多忙で十分な対応ができないとの理由から断られました。その一方で、片付けの最中に更に見つかった学帽や帽章類は、宅配便で私の自宅に届けることを約束してくれました。

九月一六日(土)にその宅配便が届きます。九月二〇日(水)に宅配便の内容物と七月二〇日に譲り受けた帽章類を合わせ、私から国士館史資料室宛てに一式を届けました。それらは翌二一日(木)に到着し、以降に整理・リスト化作業が進められました。

最終的に山田帽子店から寄贈を受けた資料は、国士館大学と芝中学校の学帽七点、帽章・襟章などの徽章類が七四種類となりました。徽章類のなかには該当する学校が現時点で不明なものもありましたが、歴史ある山田帽子店が製作に関わってきた学校数の多さに驚きました。このうち学帽数点と七四種類の徽章類で多数あったものは、私の手で保管することになりました。そして国士館大学の学帽三点と七四種類の徽章類のほとんどを、整理作業を担った国士館史資料室に寄贈して活用してもらったことにしました（詳細は本号掲載・熊本論文を参照）。



山田帽子店の旗と山田輝夫氏
(2023年8月22日稿者撮影)

7. まとめ

山田帽子店の廃業に伴い、山田輝夫氏から寄贈を受けた学帽および帽章は、国士館史資料室の協力により一覧リストにまとめられました。有意義な資料であり、今後の学校制服研究に資する内容です。そのうちの一部は、国士館史資料室に寄贈できました。山田帽子店の営みが記録に残り、それを物語るアイテムを収蔵していることは大変喜ばしいです。

今後の課題は、国士館大学と山田帽子店の関わりはどのようなものであったか、学生はどのように利用していたか等調べる必要があります。学生のクラブ活動で記念誌や競技大会のプログラム（冊子）を発行する際、広告を掲載する場合が多く、そこに山田帽子店の広告が確認できるか関心があります。国士館大学の資料のなかにも山田帽子店の足跡を確認してみたいと思っています。

また、国士館大学の学帽がどのように着用されていたか、学生着用の実態を体系化したいという希望を持っています。時代や学生の在籍する学部・学科によって着用に差があるのか、いつ頃まで着用されていたか、着用の

根拠となる服装規定の変遷も把握する必要があります。

さらに、卒業生が学帽の思い出をどのように語っているか、山田帽子店との関わりをいかに回想しているか、記念誌や文集に綴っていないか、率直な感想をどのように吐露しているかにも関心があります。

それらを検証し、国士館大学に学んだ卒業生の誇りにつながっているとすれば、こんなに愉快な話はありません。学校制服の研究に彩りを添え、新たな展開が期待できます。

本稿で考察した国士館大学の学帽に関して、何かご存知のことがありましたら、この機会にご教示を頂ければ幸いです。

〈参考文献〉

『国士館百年史 通史編』（学校法人国士館、二〇二一年）。

『国士館百年史 史料編下』（学校法人国士館、二〇一五年）。

『東京の帽子百二十年史―明治・大正・昭和―』（冬至書房、二〇〇五年）。

水野理一『東京の帽子百二十年史・資料集』（冬至書房、二〇〇五年）。

文部省『学制百年史』（一九七二年）。

難波知子『近代日本学校制服図録』（創元社、二〇一六年）。

栗山圭介『国士館物語』（講談社、二〇一六年）。

昼間良次「大東文化学院の学生帽子 ―角帽（帝大型）である理由を探る―」（『大東文化大学史研究紀要』第四号〈大東文化大学百年史編纂委員会、二〇二〇年〉）。

国士館創立 100 周年記念事業

国士館百年史編纂委員会 編

『国士館百年史』

通史編 ・ 史料編



『国士館百年史 通史編』

A5 判縦組 上製本 1,200 頁 2021 年 3 月刊行

- 第 1 部 国士館の創立と発展
 - 第 2 部 戦後の再建から総合学園化
 - 第 3 部 学園の改革から創立 100 周年へ
- 資料 (配置図・略年表・沿革図・役職者一覧)

『国士館百年史 史料編』(上・下 2 冊)

【上巻】 A5 判縦組 上製本 1,000 頁 2015 年 3 月刊行

- 第 1 部 国士館の創立と発展
- 校舎配置図・解題

【下巻】 A5 判横組 上製本 1,000 頁 2015 年 3 月刊行

- 第 2 部 戦後の再建から総合学園化
 - 第 3 部 学園の改革から創立 100 周年へ
- 解題

創立から今日に至る国士館 100 年の歩みを、史料に基づいて学術的にまとめた、学園史研究の必携書。『通史編』と『史料編』上・下の 3 冊 1 組。

ご希望の方は下記へお問い合わせください。
学園の募金事業にご賛同をお願いします。



問い合わせフォーム



学校法人 国士館

国士館史資料室

りおでじゃねいろ丸 …… 244
 理学療法士 …… 959
 リカレント教育 …… 893、968、1002、
 1040
 陸軍演習場 …… 110
 陸軍現役将校学校配属令 …… 152、182
 陸軍参謀本部編修官 …… 69
 陸軍士官学校 …… 158、159、205、323
 陸軍省 …… 125、162、245、256、294
 陸軍少将 …… 162、281
 陸軍戸山学校 …… 205、241
 陸軍報道部 …… 296
 陸軍補充令 …… 182
 陸軍予備士官学校 …… 331
 理工系学生定員増加計画 …… 460、543
 立憲国民党 …… 17
 立憲政友会 …… 17、34、40、111
 立憲民政党 …… 34、294
 立命館 …… 456、541、928
 龍源寺 …… 219
 龍谷大学 …… 456、541
 柳条湖事件 …… 249
 旅順 …… 149
 リヨン …… 720
 臨時教育審議会 …… 817、893、1002、
 1039
 臨時的定員（期間を付した入学定員） ……
 819、874、925、1068

【る】

ルートヴィヒ・マクシミリアン大学 ……
 721、865

【れ】

黎明会 …… 40
 レクリエーション・インストラクター ……
 808、846、950
 レクリエーション協会 …… 846
 連合国 …… 106、337、348、368、390
 錬士 …… 229
 連絡会 …… 624、682、695、766、767、

795、796、802、841、867、882、896、
 1003

【ろ】

労働農民党 …… 6、38
 浪人会 …… 25
 労務者講習会 …… 86～89、96
 ローザンヌ …… 720
 六櫻社 …… 158
 六〇年安保闘争 …… 450
 盧溝橋事件 …… 304
 ロサンゼルス …… 673、677、848、1117
 ロシア …… 4、42、150、887、933
 ロシア革命 …… 4、42
 ロックハンプトン・ステイトハイスクール
 …… 938
 六本木 …… 111、751、930
 ロンドン …… 1113、1118

【わ】

「我が国の高等教育の将来像（答申）」 ……
 1069
 若林 …… 54、116、298、322、407、
 528、818
 和光大学 …… 519
 ワシントン海軍軍縮会議 …… 79
 ワシントン体制 …… 23
 早稲田学報 …… 29
 早稲田劇場 …… 43
 早稲田騒動 …… 7、8、36、42、44
 早稲田大学（早稲田、早大） …… 5～8、
 12、14、22、25、27、29～40、42～44、
 46、82、162、165、166、205、218、383、
 389、392、393、407、411、413、418、
 451、453、460、461、465、470、541、
 543、574、577、612、613、615、928
 早稲田大学専門部 …… 5、22、30、34、
 205、389、392、615
 早稲田大学総長 …… 407、411、465
 早稲田紛擾 …… 43
 湾岸戦争 …… 664、805

文部大臣 …… 60、63、119、120、134、
135、140、142、143、145、146、156、
157、159、172、173、176、178、181、
183、184、186、187、197～199、202、
204、209、210、212、214、215、217、
219、220、233、238、262、269、273、
277、278、280、284、294、305、306、
311、312、317～319、350、351、357、
359、368、372、388、405、408、414、
421、423、425、426、429～431、435、
437、438、450、453、454、457、458、
462、463、465、471、474、477、478、
502、611、625、652、654、655、699、
704、709、722、749、752、753、760、
765、804、807、818、820、865、878、
930、945、946、948、950、957、967、
1005～1007、1010、1011、1013、1017、
1019、1024

【や】

野外演習 …… 152、153、309
野外教育 …… 953、1122
夜間学校 …… 174、177、318
ヤクルトスワローズ …… 678
安川財閥 …… 416
靖国神社 …… 163、228、289、307、568
安田講堂事件 …… 342
安田保善社 …… 98、246
山形県 …… 249、392、965
山口県 …… 19、290、496、676、1152
山口高等学校 …… 69
山下汽船会社 …… 39
山田帽子店 …… 564
やまと新聞 …… 33

【ゆ】

ユーフラテス …… 663、1094
雄弁会 …… 7、25、224、577
雄弁部 …… 25、27
有楽町 …… 105、108、109、115、270
ユニバーシアード …… 673、675

UNESCO …… 664

【よ】

用賀 …… 322
養浩亭 …… 91
用字 …… 315、866～868
養成学校 …… 525、836、837、842
幼稚園 …… 338、459、486、489、490
遥拜式 …… 152
擁壁工事 …… 526
横須賀 …… 444
横浜 …… 190、242、244、321、691、
1105
よこやまの道 …… 896
吉隈炭坑 …… 38
吉見百穴 …… 91、487、1059
四谷区 …… 188
四年制大学 …… 338、339、395、402、
403、405、423～425、430、431、433～
435、437、471、490、513、541、658、
923、924、946、1100
読売映画社 …… 723
読売新聞 …… 33、294、1102
代々木練兵場 …… 163
ヨルダン …… 664、1094
萬朝報 …… 20、33

【ら】

ラーニングコモンズ …… 859、1074、
1088、1143、1144、1146
ラオス人民共和国 …… 1116
落成式 …… 59、63、71、75、77、81、
115、116、144、399、416、419、420、
427、442、454、465、469、525、575、
591、602、660、771
落成披露式 …… 70
洛陽 …… 488
ラジオ …… 162、163、330、527、605

【り】

リオデジャネイロ …… 1118、1119

257、294
 宮城県 …… 1123
 都城実業倶楽部 …… 113
 宮崎県 …… 38、84、113、249
 宮坂（地名） …… 324
 ミャンマー連邦共和国 …… 933
 ミュンヘン …… 579、677、678、721、
 865、1117
 三輪村 …… 515
 民政党 …… 294
 民生部訓令 …… 251
 民友社 …… 23

【む】

向島 …… 190
 武蔵工業大学（東京都市大学） …… 742、
 1095
 武蔵高等学校 …… 205
 武蔵野町 …… 219
 筵旗 …… 363
 棟上げ …… 57
 室町海運 …… 397

【め】

明光塾 …… 219
 明治維新 …… 4、8、18、23、24、28、
 29、54、55、227、288、289
 明治学院大学 …… 1013
 明治鋳業 …… 397
 明治神宮 …… 111、163、228、307、323
 明治神宮外苑 …… 307、323
 明治大学 …… 5、12、14、25、33、158、
 218、245、383、460、541
 明治炭坑 …… 38
 明治天皇 …… 17、163
 明信館 …… 37、39、204
 目黒区 …… 180、186～188、191、383
 目黒町 …… 171
 メソポタミア …… 663、712、1032～
 1034
 メルボルン大会（五輪） …… 429

面接 …… 249、507、508、557、571、
 1040、1057、1085、1104、1107、1111

【も】

モースル大学 …… 712
 モーリス …… 326
 最上郡 …… 965
 モスクワ …… 579、675、677、679
 モナコ …… 79
 森木建設会社 …… 427
 森村豊明会 …… 98
 モンゴル …… 887
 モンゴル国立大学 …… 887
 モントリオール …… 661、677～679、
 1117、1154
 文部科学省 …… 900、929、933、951、
 959、976、992、993、1008、1030、1069
 ～1073、1077、1078、1091、1093～1095、
 1098、1123、1135、1137、1140
 文部科学大臣 …… 926、932、933、952、
 957、959、976、979、980、986、992、
 993、1021、1026、1028、1030～1032、
 1037、1038、1069、1079、1153
 文部省 …… 13、118、119、139、140、
 146、148、155、157、173、175、179、
 209、210、212、213、218、262、271、
 272、277、279、305～307、337、342、
 345、346、348～350、357、358、361、
 369、375、386、398、403、457、460、
 467、469～471、478、513、534、543、
 544、570、588、592、612、616、647、
 648、654～656、659、663、683、684、
 691、703、705、706、708、709、734、
 736、737、746～754、760、764、769、
 788、797、798、808、809、817、819、
 821、822、825、826、865、874、891、
 925、929、930、945、984、985、1013、
 1023、1054、1068、1069
 文部省管理局長 …… 709、750、752、
 754
 文部省訓令 …… 182、305

北海道 …… 76、91、170、685、935
 北海道帝国大学 …… 76
 発起会 …… 108
 ポツダム宣言 …… 348、360、368
 ホテルニューオータニ …… 865、868、
 1152
 ホテルニュージャパン …… 701
 ホバート市 …… 719
 本溪湖 …… 31、39

【ま】

マイクロフィルム …… 536
 毎日映画社 …… 494
 毎日新聞社 …… 397、1065
 前橋市 …… 288
 マスプロ教育 …… 342、543、569、647
 町田市 …… 309、341、383、466、514～
 516、519、520、661、801、891
 松乙溝 …… 251～253
 松尾鉱業株式会社 …… 294
 松川（地名） …… 847、852
 松沢村 …… 171
 松下サンジョゼ補習校 …… 716
 松下電器 …… 716
 松島 …… 163
 松山市 …… 495
 マハヤナ学園 …… 21、60、62、67、
 100、102
 丸井グループ …… 1088
 丸一社中 …… 64
 丸の内 …… 270
 丸ノ内銀行 …… 126
 丸ノ内工業倶楽部 …… 139
 丸ノ内日本工業倶楽部 …… 197
 マレーシア …… 933
 満州 …… 11、30～32、37～39、71、76、
 158、199、216、247、249、250、256、
 257、294、296
 満州化学工業株式会社 …… 294
 満洲国（満洲帝国） …… 11、21、158、
 220、224、247～255、257、258、316

満州事変 …… 216、249、250
 満洲大学 …… 249、250
 満洲拓殖株式会社 …… 258
 満洲日報 …… 76
 満鉄経済調査会 …… 257
 満蒙開拓青少年義勇軍 …… 256
 満蒙独立運動 …… 249、250
 マンモス大学 …… 542

【み】

三浦半島 …… 163
 三重 …… 312
 御笠（地名） …… 526、839
 ミキハウス …… 1112、1119
 御木本真珠 …… 397
 水増し入学 …… 342、344、449、544、
 570、647、648、654、656
 御霊ヶ丘 …… 257
 三井 …… 56、98、119、123、127、128、
 135、136、139、143、197、199、246、
 273、294、397、997
 三井化学 …… 397
 三井銀行 …… 294
 三井鉱山 …… 397
 三井合名会社 …… 197、246
 三井信託株式会社 …… 119、139、273
 三井農林 …… 397
 三井物産株式会社 …… 199
 三越百貨店 …… 564
 三菱 …… 38、56、98、143、246、397
 三菱鉱業 …… 397
 三菱合資会社 …… 246
 三菱造船所 …… 38
 水戸 …… 83、1099、1104、1105
 水戸市民会館 …… 1099
 港区 …… 35、46、102、254、751、930
 南ヶ丘牧場 …… 258
 南三陸町 …… 1123
 南多摩郡 …… 309、436、514
 南満州鉄道株式会社（満鉄） …… 30～32、
 37、38、71、76、158、199、250、256、

二子橋 …… 152
 二瀬村 …… 38
 府中運転免許試験場 …… 521
 普通自動車 …… 521、522
 普通選挙（普選） …… 6、22、41～43、
 101
 普通部員 …… 103
 仏教 …… 21、49、108、151、398、711、
 1116、1117
 仏教各宗派連合海外布教団 …… 108
 仏教救済センター …… 1116
 仏教連合会 …… 108
 武道大会 …… 78、229、286、288、325、
 411、420、493、714、715
 武徳会（財団法人大日本武徳会） …… 14、
 33、38、125、202、204、205、210、211、
 229、288、355、356
 武徳専門学校（武専、武術教員養成所、大日
 本武徳会武徳専門学校） …… 14、32、
 33、202、204、205、210、355
 武徳殿 …… 288
 船橋市立船橋高等学校 …… 1056
 ブラジル（伯国） …… 10、234～246、
 345、713～716、720～722、771、772
 ブラジル政府 …… 715、716、772
 ブラジル日本文化協会（ブラジル日本文化福
 祉協会） …… 716、722、772
 プラタナス …… 862
 ブランケット判 …… 430、443、455、
 456
 フランス（仏国） …… 39、79、205、345、
 355、359、720、721、770、961、969
 フランス剣道連盟 …… 720
 フランス国歌 …… 359
 プリヂェストン …… 396、397
 古河鋳業 …… 397
 古河電気工業株式会社 …… 224
 ブロック大学 …… 720
 ブロンクスビル …… 719、770
 文化財登録 …… 1146、1148
 文化庁 …… 1148

文武両道 …… 81、350、394、1062、
 1151

【へ】

兵役法 …… 182
 平凡社 …… 417、534
 北京 …… 39、488、936、1113、1118、
 1119
 北京師範大学 …… 936
 別所 …… 18、19
 別所毘沙門天院 …… 18
 ベトナム国家大学ホーチミン市人文社会科
 学大学 …… 936
 ベトナム社会主義共和国 …… 933
 ベトナム戦争 …… 543
 ベビーブーム …… 588、597、598、600、
 681、733、808、819、821、874、974、
 984、1098
 ベルギー …… 79
 ベルサイユ市 …… 720
 ヘルワン大学 …… 717
 ベレン …… 714、715、722、771
 扁額 …… 68、398、399
 弁護士 …… 48、58、157、268、275、
 276、282、511、704、771、772、971

【ほ】

防衛庁 …… 419
 法科大学院 …… 887、1027
 防空訓練 …… 153
 防空講話 …… 153
 亡国教育 …… 545
 法政大学 …… 14、383、456、542
 報知新聞 …… 33、294、296
 奉天 …… 250
 奉拝式 …… 163
 法務省 …… 536
 北支皇軍慰問金 …… 162
 北米 …… 39
 菩提寺 …… 169
 牡丹江 …… 248、251

【ひ】

BAC仏教救援センター …… 1117
 東入部高等小学校 …… 19、20
 東日本大震災 …… 743、744、859、955、
 1077、1122、1123、1135、1143
 東三田 …… 245
 肥後 …… 114
 彦根藩 …… 120、169
 秘書 …… 31、46、63、171、419、549、
 623、788、843、845、886、924
 匪賊 …… 252、253、257
 日立（日立製作所） …… 396、397、469、
 533、589
 一橋大学 …… 392
 人吉 …… 241
 日の丸 …… 323、518、561
 PBL（Project Based Learning） ……
 1074、1088
 日比野雷風少年団 …… 64
 日比谷公園野外音楽堂 …… 568
 日比谷公会堂 …… 292、561、569
 碑衾村 …… 171、187
 冷林（地名） …… 523、836、839
 兵庫県立明石高等学校 …… 241
 平林商会 …… 38
 広島高等学校 …… 159
 広島中国新聞 …… 38
 広島東洋カープ …… 678
 広袴（広袴村） …… 309、466、514、516

【ふ】

ファシズム …… 69
 VHS …… 495
 比律賓 …… 39
 フォーコ・プレスト社 …… 723
 武漢大学 …… 936
 福岡 …… 5、9、18、19、26、27、30、
 31、33、34、36、38～40、52、57、69、
 92、96、98、110、115、130、171、249、
 287、339、341、391、392、523、525、

526、571、572、737、746、836～838、
 842、850、851、1099、1104、1151
 福岡医大 …… 39
 福岡医療短期大学 …… 850
 福岡医療秘書福祉専門学校 …… 850
 福岡学芸大学 …… 428
 福岡県 …… 18、19、27、33、34、52、
 57、69、98、110、249、287、339、341、
 392、523、525、526、571、737、746、
 836～838、840～842、847、850～852、
 1151
 福岡県知事 …… 525、837、841、842、
 851、852
 福岡県立嘉穂高等学校 …… 847
 福岡高等裁判所長官 …… 734、754、
 1047
 福岡市 …… 18、19、523、571、850
 福岡師範 …… 38
 福岡女子短期大学 …… 524
 福岡大学 …… 541
 福岡日日新聞 …… 38、293
 福岡の変 …… 18、19
 福岡藩太政官札匱造事件 …… 18
 福島 …… 29、76、1065、1100
 福岡県立磐城高等学校 …… 1065
 福岡師範学校 …… 29
 福昌公司 …… 30、31
 副総裁 …… 392、611
 副総理 …… 392、443
 福地村 …… 38
 フクニチ新聞 …… 397
 富士銀行 …… 419
 富士山 …… 310、685
 富士裾野 …… 153
 富士滝ヶ原 …… 309
 藤田組 …… 442
 富士通 …… 665
 富士見楼 …… 26
 婦人運動 …… 22
 不審火 …… 411
 豊前 …… 241

427、838
 入学者受入れの方針（アドミッション・ポリシー） …… 1070、1081
 入学定員超過率 …… 1073、1077、1135
 ニュージーランド …… 719、721
 ニュージャージー …… 711、719、770
 ニューヨーク …… 711、719、770
 認証評価制度 …… 742、1079、1080、1095

【ぬ】

沼津 …… 444

【ね】

寧安 …… 251、253
 ネパール連邦民主共和国 …… 933

【の】

農学部 …… 170、459
 農科大学 …… 170
 直方町 …… 38
 能ヶ谷村 …… 514
 農協組合 …… 524
 農業大学 …… 39
 農商務省 …… 170
 農林大臣 …… 397
 乃木神社 …… 9、74
 野田卯太郎追悼会 …… 130、131
 野津田村 …… 514、744
 登戸 …… 190、245
 登戸研究所（第九陸軍技術研究所） …… 245
 野村證券 …… 980

【は】

ハーバード大学 …… 930
 バイオ …… 965、972
 バイク …… 326
 売文社 …… 41
 海拉爾 …… 258
 博士号 …… 81、355

博多 …… 18、20、38
 萩（地名） …… 290、1152
 萩の乱 …… 19
 萩藩 …… 26、55
 伯爵 …… 123、294
 バグダッド …… 712、717、770
 バグダッド大学 …… 717
 博文館 …… 123
 幕末維新祭り …… 1147
 箱根 …… 552、577、578、610、674、685、1116
 箱根駅伝 …… 577、578、674、1116
 箱根富士屋ホテル …… 552、610
 間組 …… 397
 馬賊 …… 252
 八王子 …… 514、1105
 発火演習 …… 152
 発禁処分 …… 297
 服部時計店 …… 197
 ハバフォード大学 …… 340、355
 パプチャップ事件 …… 250
 ハムリン盆地 …… 712
 林兼商店 …… 158
 隼町 …… 109、111、115、116、120、139
 パラー州政府 …… 236
 パラ州 …… 237、714、715
 パラ州立大学 …… 715
 パリ …… 205、720、770
 バリケード …… 543、752
 パリ大学 …… 205
 播磨造船 …… 219、397
 パリンチンス …… 241
 ハルビン日本中学校 …… 220
 布哇女学校 …… 52
 反共産主義 …… 295、545、567
 晩香廬 …… 124
 晩餐会 …… 103、293
 飯能高麗神社 …… 487

二一世紀COEプログラム …… 1069
「二一世紀の大学像と今後の改革方針について（答申）」 …… 1068
二一世紀の留学生政策に関する提言 …… 899
二松学舎 …… 33、34、205
二〇〇七年問題 …… 1069
二〇二〇年甲子園高校野球交流試合 …… 1065
「二〇二一年答申」 …… 1071
「二〇四〇年に向けた高等教育のグランドデザイン（答申）」 …… 1074
日独伊防共協定（防共協定強化同志会） …… 162、292、294、295、299
日米安全保障条約（安保条約、安保） …… 342、450、543
日蓮宗 …… 108
日魯漁業 …… 397
日露戦争 …… 3、16、20、23～25、30、162、560
日活社 …… 125
日光 …… 163、604
日産化学工業 …… 397
日商簿記検定 …… 981
日清戦争 …… 16、23
日曹鋳業株式会社 …… 158
日ソ対抗体操競技選手権大会 …… 579
日中戦争 …… 160、162、289、292、296、304
日伯文化体育協会 …… 716
二百軒長屋 …… 60
日本学術振興会 …… 1095
日本格付研究所（JCR） …… 743、1080
日本銀行 …… 98、123、636
日本倶楽部 …… 270
日本経済新聞社 …… 407
日本原子力研究所 …… 460
日本鋼管株式会社 …… 321
日本鋳業 …… 294
日本工業倶楽部 …… 133、197、238、294

日本高等教育評価機構（JIHEE） …… 743、1079、1080
日本高等拓植学校 …… 76、244、245、247、263
日本国際教育協会 …… 864
日本国家 …… 217、218、545
日本私学振興財団（私学振興会） …… 521、709、747、760、865
日本社会党 …… 616
日本住宅公団 …… 488、519、661、801
日本証券新聞 …… 296
日本商工会議所 …… 396、397
日本女子体育専門学校 …… 14、202、1020
日本女子体育大学 …… 202、1020
日本女子大学 …… 413
日本新聞会 …… 297
日本水泳競技連盟 …… 427
日本製鉄株式会社 …… 294
日本政府 …… 304、718
日本赤十字社 …… 744、1124、1136
日本石油会社 …… 39
日本総領事 …… 715
日本体育学会 …… 1019
日本体育協会 …… 950
日本体育専門学校 …… 210
日本体育大学 …… 210、1020
日本大学 …… 158、382、413、442、453、465、470、648、674～676
日本体操祭 …… 443、444
日本電機工業株式会社 …… 294
日本トレーディング …… 397
日本ハムファイターズ …… 678
日本版NCAA …… 1114
日本麦酒 …… 397
日本弁理士会 …… 1028
日本マイクロソフト …… 916
日本民主党 …… 392
日本冶金工業株式会社 …… 321
日本郵船 …… 38、58、98
日本陸上競技連盟（陸上競技連盟） ……

東京府知事 …… 132、143、147、233～
235、238、243、247、248、255、274、
291、315
東京武道館 …… 1123
東京毎夕新聞 …… 33
東京マラソン …… 903、1147
東京民事地方裁判所 …… 157、207、
276、281、282、291、293
東京養育院 …… 37、39
東宮御所学問所御用掛 …… 63、132
同志社（同志社大学） …… 460、541
同人雑誌 …… 164
東都大学野球（東都大学野球連盟） ……
578、678
同文書院 …… 39
東方会 …… 294
東方時論 …… 43、46
東邦生命 …… 397
東北帝国大学 …… 205
同盟通信社 …… 294、296
「頭山翁清話」 …… 40、116、298、299
「頭山翁誕辰祝賀記念号」 …… 92
東洋協会 …… 39、112
東洋経済新報 …… 43
東洋大学 …… 413、456、541、648
東洋拓殖株式会社 …… 98、224、246
東洋レーヨン …… 397
都下各大学学生思想問題大演説会 ……
51
常磐炭礦株式会社 …… 158
特色GP（特色ある大学教育支援プログラム）
…… 1093
特待生 …… 379、406、571、1105
栃木県 …… 258、488、1059
土地区画整理組合 …… 170
特許庁 …… 973
トップ三〇大学構想 …… 1069
都電 …… 358
土木試験所 …… 240
富浦海岸 …… 444
豊橋市 …… 331

豊橋陸軍教導学校 …… 279
都立高等学校改革推進計画 …… 1138
都立墨田川高等学校 …… 776
都立明正高校 …… 743
トロント市 …… 720
敦化 …… 251、252～255

【な】

内閣官房長官 …… 392
内閣総理大臣 …… 25、443、933、1153
内務省 …… 205、240、356
内務大臣 …… 25、33、38、134、197、
294
長岡高等工業学校 …… 158
中郡 …… 523
中島飛行機 …… 219
長野県 …… 396、444
長野電気 …… 294
永山 …… 661、801、805、806、896
永山駅 …… 805、806
永山高専（都立永山高等学校） …… 806
那須郡 …… 258
浪花節 …… 58
南海ホークス …… 678
南京 …… 162、216
南臺街 …… 252
南米拓殖株式会社 …… 237
南洋貿易会社 …… 39

【に】

二・二六事件 …… 31、279
新潟 …… 816、1099
二階堂体操塾 …… 202
二高 …… 38
西ヶ原 …… 10、122
西多摩郡 …… 328
西鉄ライオンズ …… 676
西日本新聞社 …… 397
西日本短期大学 …… 850
西本願寺 …… 714
西松建設 …… 805

629、665～667、741、761、768、787、
788、790、792、793、797、817、904～
907、1099
 転出証明書 …… 527
 天津 …… 39
 伝単 …… 329
 天長節 …… 163、495、559～561、568、
632
 電通（日本電報通信社） …… 292、294、
416
 伝統的 …… 80、284、482、483、545、
547、1136
 天然スレート …… 58
 天皇機関説 …… 206、228、279
 デンバー柔道学校 …… 711

【と】

ドイツ …… 17、21、34、67、79、292、
297、299、428、440、451、721、930、
939、961、969
 東亜同文会 …… 125
 東安省 …… 258
 東海大学 …… 541、673
 東海道新幹線 …… 460
 東義大学校 …… 936
 東急田園都市線 …… 691
 東急電鉄（東京急行電鉄株式会社） ……
89、144、168、170、318、1049
 東京朝日新聞社 …… 296、392
 東京医科歯科大学 …… 809、810
 東京駅 …… 56、323、327
 東京会館 …… 292
 東京学芸大学 …… 86、383
 東京学生柔道優勝大会 …… 1114、1115
 東京瓦斯株式会社 …… 294
 東京教育大学 …… 353
 東京空襲 …… 3、11
 東京高等工芸学校 …… 158
 東京高等師範学校 …… 14、69、205
 東京高等商業学校 …… 392
 東京高等農学校 …… 170

東京市 …… 26、30、32、34、35、38、
40、46、105、168、179、180、190、211、
293、295、307
 東京慈恵会医院医学専門学校 …… 205
 東京市長 …… 38、40
 東京商工会議所 …… 846
 東京消防庁 …… 945
 東京市立商業学校 …… 179
 東京大会 …… 460、579、664
 東京大学 …… 25、37、170、342、421、
536
 東京第二陸軍造兵廠板橋工場 …… 307
 東京地方裁判所 …… 207、382
 東京帝国大学 …… 5、25、33、37、40、
46、52、149、170、205、240
 東京電灯株式会社 …… 98
 東京都議会 …… 1138
 東京都教育局 …… 374
 東京都教育庁 …… 1048
 東京都高等学校春季剣道大会 …… 1064
 東京都公文書館 …… 869
 東京都財務局 …… 1139
 東京都サッカートーナメント …… 1116
 東京都私立中学高等学校協会 …… 383、
1065
 東京都知事 …… 377、395、418、419、
427、589、590、595、690、1051、1052、
1054、1055、1057、1059、1060、1121
 東京都地方労働委員会 …… 702
 東京都中学校秋季剣道大会 …… 1064
 東京都中等学校野球連盟 …… 382
 東京都防災総合訓練 …… 1123
 東京日日新聞 …… 33、84
 東京農業大学 …… 14、58、63、67、
170、242、742、1095
 東京ビッグサイト …… 1123
 東京府 …… 7、25、27、49、53、111、
112、131、132、139、143、153、188、
219、271、307
 東京府下中学校連合演習 …… 153
 東京府師範学校 …… 86

122、124、125、130~132、136、138~
 145、147~150、152、154~166、169、
 171、172、174、176、199、200、205、
 207、208、211、213、218、225、243、
 249、261~264、266、267、270、272~
 275、279~281、284、289、305~307、
 309、310、313、317、320、322、325、
 326、328、331、350、355~357、359、
 368~384、388、389、395、408、411、
 455、469、492~494、547、548、550、
 555、559、563、565、578、580、585、
 587、591、597~602、604、611、612、
 626、629、638、640、680~685、687、
 689~692、696、737、741、744、751~
 760、774、787、789、790、792、794、
 796、798、800、856、857、861、863、
 881、904、914、915、988、1047~1053、
 1056、1062~1065、1072、1098、1124~
 1126、1131、1132、1134、1137、1142
 中学校令 …… 11、12、119、138、139、
 141、148、154、156、369
 中華人民共和国 …… 887、903、904、
 933
 中華民国 …… 150、720
 中京大学 …… 541
 中近東文化センター …… 1152
 中国 …… 5、17、20、30~32、74、75、
 114、144、149、206、217、247~250、
 296、304、315、316、488、546、902、
 938、941、1017、1033
 中国社会科学院社会科学研究所 …… 931
 中国文化大学 …… 721
 中支那方面軍司令官 …… 294
 中禪寺湖 …… 163
 中等学校令 …… 156、313、316~318
 長州藩 …… 54
 長春 …… 39、251、252
 長春寺（浄土宗） …… 252
 朝鮮新聞 …… 39
 朝鮮中高級学校 …… 567、568、616、
 617、680~682

調布 …… 219、1123
 徴兵検査 …… 322
 徴兵適齡臨時特例 …… 323
 千代田区 …… 26、105、109、139、270、
 1152
 青島 …… 17、39、75、150、938
 青島求实職業技術学院 …… 938
 青島新聞社 …… 75
 青島青洲桜花日本語学校 …… 938

【つ】

津上製作所 …… 397
 築地東劇シネマ・サロン …… 495
 津田沼 …… 1104、1105
 土浦 …… 312
 鶴川駅 …… 517~519
 鶴川団地 …… 515、518、519
 鶴川村 …… 309、341、390、391、436、
 514、520
 弦巻 …… 170

【て】

デ・ラ・サール大学 …… 936、1153
 帝国教育会 …… 294
 帝国芸術院 …… 294
 帝国大学 …… 5、11~13、24、25、33、
 37、40、46、52、76、149、170、205、
 240
 帝国大学令 …… 11
 帝国ホテル …… 105、933
 帝室林野局 …… 170
 逓信大臣 …… 130、171
 丁未倶楽部 …… 7、25
 デイヤラ川 …… 663
 デカンショ節 …… 35、36、242
 鉄道大臣 …… 397
 寺子屋 …… 49、330
 テル・グッパ円形神殿跡 …… 712
 テル・タバン遺跡 …… 664
 天狗倶楽部 …… 39
 電子計算機 …… 344、469、470、533、

台湾銀行 …… 37、39、46、104
 台湾総督府 …… 38、131
 台湾中央研究院 …… 1033
 高崎 …… 1105
 高田馬場 …… 616
 高津町 …… 190
 高松 …… 572
 拓殖大学 …… 112、249、294、
 拓務省 …… 237、239、256
 拓務大臣 …… 244、294
 太宰府市 …… 18、523、526、737、836、
 839～841、847、849、851～853、1151
 太宰府市公文書館 …… 852
 太宰府天満宮 …… 848、1151
 太宰府町 …… 339、341、523、524、
 836、838
 タスマニア州 …… 719
 タスマニア大学 …… 719
 橋樹郡 …… 245
 ダットサン …… 326
 辰村組 …… 478、528、805
 田中土建会社 …… 418
 タブロイド判 …… 292、456
 多摩川 …… 153、163
 玉川学園前駅 …… 519
 玉川大学 …… 461、519
 玉川電気鉄道 …… 89、144、168、170
 玉川村 …… 171
 多摩キャンパス（中央大学） …… 514
 多摩市 …… 344、520、522、661、801、
 806、891、896、955、1120～1122、1124
 多摩センター …… 896
 TAMA-TLO …… 958
 多摩帝国美術学校 …… 310
 多摩ニュータウン …… 801
 多摩美術大学 …… 310
 多摩よこやまのみち …… 896
 短期大学審査報告書 …… 387、403
 短期大学制度 …… 338、348、387、402、
 403
 短期大学設置基準 …… 818

男爵 …… 123、199、294
 男女雇用機会均等法 …… 923、1100
 団地都市 …… 519

【ち】

治安維持法 …… 22
 チェンマイ大学 …… 936
 千ヶ瀬町 …… 328
 筑紫郡 …… 339、341、523、836
 筑紫女学園大学（筑紫女学園短期大学）
 …… 524、851
 筑前学生会 …… 27
 筑前勤王党 …… 18
 筑前琵琶 …… 64
 治山課 …… 838
 知事 …… 132、143、147、233～235、
 238、243、245、247、248、255、274、
 291、315、377、395、418、419、427、
 525、589、590、595、690、837、841、
 842、851、852、1051、1052、1054、
 1055、1057、1059、1060、1121
 秩父支部（大民倶楽部） …… 113
 秩父セメント …… 416
 「知的財産推進計画二〇〇四」 …… 1027
 千歳船橋 …… 638
 千葉県 …… 91、444、685、1056、1059
 千葉商科大学 …… 413
 千葉ロッテマリーンズ …… 1116
 地方創生担当大臣 …… 1153
 中央教育審議会 …… 588、893、1027、
 1068～1071、1074、1075、1077、1086、
 1089、1092、1095、1103
 中央公論 …… 24、42
 中央新聞 …… 33、76
 中央大学 …… 383、514
 中央亭 …… 56
 中央労働委員会 …… 355、710
 中外商業新聞社 …… 407
 中外商業新報 …… 294
 中外日報 …… 33
 中学校 …… 3、10、13、82、98、119～

- 第一経済大学（日本経済大学） …… 524、851
- 第一高等学校 …… 37、170
- 第一次護憲運動 …… 17、25
- 第一次世界大戦 …… 4、17、22、23、79、86、95、102、106、150、198、293
- 第一生命 …… 294
- 第一相互貯蓄銀行 …… 294
- 大学院設置基準 …… 818、1002、1013
- 「大学横断のかつ競技横断の統括組織創設事業」 …… 1114
- 大学改革実行プラン …… 1071、1072
- 大学学術局 …… 616
- 大学ガバナンス …… 1071、1072、1074
- 大学基準協会 …… 386、828、1079、1080、1093
- 大学教員 …… 511、742、747、774、827、898、926、1015、1070、1096
- 大学審議会 …… 740、797、818、819、822、826、1002、1005、1039、1068、1089、1093、1095、1103、1109
- 大学設置・学校法人審議会 …… 932、945、1032
- 大学設置基準 …… 386、437、440、479、514、648、651、654、733、736、741、765、817～819、822、825、826、829、898、984、992、1068～1070、1074、1077、1079、1082、1103
- 大学設置基準の大綱化 …… 733、736、741、817～819、822、825、829、898、984、1068、1079、1103
- 大学設置審議会 …… 404、436、437、463、478、825
- 大学設立基準設定に関する協議会 …… 386
- 大学選手権（大学選手権大会） …… 674、676、1116
- 大学専門部 …… 5、22、30、34、158、205、389、392、615
- 大学における知的財産権研究プロジェクト …… 973
- 大学紛争 …… 342、543、544、569
- 大学予科 …… 12、13、158、205、338、386
- 太神楽 …… 64
- 大学令 …… 11、12
- 代官 …… 120、169、170
- 大韓民国 …… 17、887、903、933
- 第三次高等学校開設計画 …… 525
- 大松閣 …… 5、32
- 大乘淑徳学園 …… 21、60
- 大正製麻株式会社 …… 270
- 大正大学 …… 205
- 大戦景気 …… 23
- 大東亜共栄圏 …… 316
- 大東亜省 …… 206
- 大東亜戦争 …… 206、297
- 「大東亜戦争終結ノ詔書」 …… 206
- 大道学館 …… 205
- 大道館 …… 112
- 泰東日報 …… 39
- 大東文化学院 …… 14、205、294
- 大東文化大学 …… 821
- 第二次憲政擁護運動 …… 111
- 大日本水産 …… 397
- 大日本生産党 …… 76
- 大日本青年党 …… 25
- 大日本麦酒会社 …… 294
- 大廟嶺 …… 253
- 台風 …… 71、839
- 太平洋戦争 …… 246
- 大本营 …… 296
- 大洋漁業 …… 397
- 大陸研究会 …… 218
- 大陸浪人 …… 250
- 大連 …… 30、31、39、108、250、254、902、941、1033、1035
- 大連外国語学院（大連外国語大学） …… 902、941、1033、1035
- 大連合会 …… 108
- 台湾 …… 37～39、46、104、131、415、489、721、933、1033

世田谷領 …… 120
 設置構想審査委員会 …… 945
 セブンイレブン …… 1144
 全アラブ空手道連盟 …… 717
 全関東中等学校選手権大会 …… 164
 全共闘（全学共闘会議） …… 342、543
 選挙権拡張論 …… 6、41
 『全国学校総鑑』 …… 376、379
 『全国学校総覧』 …… 597、598、600、690
 全国高等学校サッカー選手権大会 …… 1064
 全国高等学校柔道選手権 …… 1064
 全国高等学校野球選手権大会 …… 382、1064
 全国小学校剣道大会 …… 163
 全国体育スポーツ系大学協議会 …… 1153
 全国地区対抗大学ラグビーフットボール大会 …… 675
 全国中学校柔道大会 …… 1064
 全国優勝雄弁大会 …… 577
 戦時統制 …… 304、327
 専修大学 …… 6、38
 戦陣訓 …… 324
 仙台 …… 29、163、241、1099、1104
 セント・ジョーンズ大学 …… 719
 全日本学生剣道大会 …… 578
 全日本学生剣道優勝大会 …… 673、1115
 全日本学生柔道選手権大会 …… 579
 全日本学生柔道体重別団体優勝大会 …… 1114
 全日本学生柔道優勝大会 …… 672、1114、1115
 全日本学生新体操選手権大会 …… 675
 全日本学生選手権 …… 674、1116
 全日本剣道選手権大会 …… 579、673
 全日本柔道選手権大会 …… 673
 全日本女子学生剣道優勝大会 …… 673、1115
 全日本女子剣道優勝大会 …… 673

全日本書道連盟賞 …… 1065
 全日本選手権 …… 672、674、675、1116
 全日本大学サッカー選手権 …… 674
 全日本大学選手権大会 …… 676
 全日本徒手体操競技選手権大会 …… 578
 全日本陸上競技選手権大会 …… 673
 専任教員 …… 204、213、453、474、478、479、481、496、502、589、647、793、828、844、917、926、930、943、972、1091、1134
 選抜高等学校野球大会 …… 1064、1065
 鮮満支大旅行団 …… 74
 専門学校令 …… 12、13、134、196、314
 占領政策 …… 337、340、348、349、354、355、361、368、373、391、545
 善隣書院 …… 68

【そ】

創基 …… 393、394、404
 葬儀 …… 142、610
 総裁 …… 33、38、40、123、250、294、316、392、611、718、770、1152
 増上寺 …… 151、250、254
 総選挙 …… 25、111、244
 早大国士館会 …… 166
 早大国会 …… 165
 相談会 …… 106、120、124、143、172
 曹洞宗 …… 108、138、422、558
 総理大臣杯 …… 1116
 ソウル …… 673、675、677、679、848、1117
 租税資料館 …… 1042
 卒業認定・学位授与の方針（ディプロマ・ポリシー） …… 1070、1081
 ソビエト（ソビエト連邦、ソ連） …… 23、258、294、460、510、545、559、679

【た】

タイ …… 424、904、930、933、935、936
 『体育論』 …… 536

鈴木商店 …… 98、158
 ストライキ …… 264、272、330、361、
 362、734、751
 スポーツ振興基本計画 …… 952
 スポーツ庁 …… 1114
 住友軽金属工業株式会社 …… 321
 住友合資会社 …… 246
 住友石炭鉱業 …… 397
 相撲 …… 7、35、36、39、46、47、55、
 64、72、103、125、152、153、441、528、
 576、579、671、807、950
 スリランカ民主社会主義共和国 …… 933
 スローガン …… 17、23、29、545、744、
 1132、1146、1147
 駿東郡 …… 462、523

【せ】

西安 …… 488
 政教社 …… 37、39
 成蹊高等学校 …… 598
 躰壽堂道場 …… 324
 成城学園 …… 383
 成城大学 …… 742、1095
 「青少年学徒ニ賜ハリタル勅語」 …… 314
 正則英語学校 …… 20、407
 生存同盟会館（大民倶楽部会館） ……
 109、110、115、116、120、139
 生徒理科研究発表会 …… 1065
 西南戦争 …… 18
 青年訓練所 …… 181～183
 「青年訓練所規程」 …… 181、182
 青年訓練所訓練要旨 …… 182
 青年訓練所令 …… 181
 青年伝導会 …… 108
 政府開発援助外国人留学生修学援助費補助
 金 …… 900、1077
 制服 …… 224、227、344、378、563～
 565、602、621、624、632、633、668、
 669、737、1053
 政務官 …… 933
 政友会 …… 17、34、40、42、108、111、

294
 清遊会 …… 103
 政友本党 …… 111
 精養堂 …… 575、576、633、1154
 青龍山勝国寺 …… 55
 精錬証 …… 205、206
 世界学生柔道選手権大会 …… 579
 世界空手選手権大会（WFK） …… 717
 世界恐慌 …… 23、263
 世界柔道選手権大会 …… 672
 世界選手権 …… 1116
 世田谷（世田谷区） …… 3、6、9、10、
 51、54、56、57、59～61、63、70、73～
 75、77、86、89、95、99、101、115、
 116、130、131、142、160、168～171、
 179、180、186～188、191、202、208、
 261、286、288、298、319、322、324、
 328、355、382、383、407、418、420、
 424、493、495、513、519、528、529、
 687、691、895～897、1095、1105、1122、
 1124、1136、1148
 世田谷駅 …… 168
 世田谷街道 …… 518
 世田谷学園 …… 138
 世田谷区旧厚生会館 …… 208
 世田谷区教育委員会 …… 742、892、
 896、982
 世田谷区民会館 …… 493、495
 世田谷区役所 …… 74、861
 世田谷区リカレント学習連携講座 ……
 895、896
 世田谷警察署 …… 1136
 世田谷城 …… 169、309
 世田谷消防署 …… 1136
 世田谷信用金庫（世田谷信用販売購買組合）
 …… 170、980
 世田谷線 …… 89、144、168、170
 世田谷都税務所（旧剣道場） …… 382
 世田谷福祉事務所 …… 406
 世田谷プラットフォーム …… 1095
 世田谷町 …… 131、171、172

城北学園 …… 145
 上毛新聞 …… 38
 浄瑠璃 …… 64
 昭和医科大学 …… 428
 昭和恐慌 …… 188
 昭和鉱業株式会社 …… 294
 昭和女子大学 …… 742、1095
 昭和肥料株式会社 …… 294
 食費 …… 90、528、529
 叙勲 …… 610
 徐敬道 …… 164
 女子柔道選手権大会 …… 1115
 暑中休暇 …… 382、449
 シラバス …… 733、824、827、1070、
 1078、1081、1082、1086、1087
 シリア国 …… 663、1094
 私立学校教育助成金 …… 469、591
 私立学校振興・共済事業団 …… 865、
 900、1094
 「私立学校設立許可暫行弁法」 …… 251
 私立学校建物戦災復旧貸付金 …… 327
 私立学校令 …… 11、133、234、315
 私立大学 …… 13、341、342、383、404、
 407、436、437、448、456、460、461、
 463、469、471、478、514、533、540～
 544、569、570、646～648、650、659、
 709、733、754、777、817、819、822、
 825、865、874、945、1008、1062、1072、
 1073、1093～1095、1099、1103、1140
 私立大学学術研究高度化推進事業 ……
 1008、1094、1140
 私立大学協会 …… 865
 私立大学研究設備整備費助成金 …… 647
 私立大学庶務課長会 …… 865
 私立大学審議会 …… 404、407、436、
 437、463
 私立大学退職金財団 …… 754
 私立大学等改革総合支援事業 …… 1073、
 1095
 私立大学等経常費特別補助(特色ある教育研
 究) …… 817

私立大学理科学助成金 …… 469、533
 私立短期大学協会 …… 437
 信越化学工業 …… 396
 信越窒素肥料 …… 281、294
 辛亥革命 …… 17
 新学制 …… 337、339、368、370、371、
 373、374、376、395、540、585
 進学率 …… 541、597、605、690、819、
 874、923、924、956、1060、1068、1069、
 1100
 新型コロナウイルス感染症 …… 1065
 新規中等学校卒業生ノ勤労働員継続ニ関ス
 ル措置要綱 …… 321
 新京(満州) …… 252～254
 新興国競技大会(GANEFO) …… 579
 真光寺村 …… 514
 新国民練成 …… 546
 神社総代 …… 170
 新宿駅 …… 168、327、616
 新宿中村屋 …… 34、67
 尋常小学校 …… 19、83、84、138、140、
 169、174、175、184～186、288
 新人会 …… 25、26、40
 新制大学 …… 338、348、386、387、
 402、439、540、651
 新撰組 …… 71
 新日本建設国民運動 …… 365
 新日本製鉄 …… 636
 新派浪花節 …… 58
 新聞事業令 …… 297
 神武天皇祭 …… 173
 瀋陽 …… 250

【す】

水交社 …… 251
 スイス …… 79、355、720
 枢密院 …… 26、128、131
 枢密顧問官 …… 132、163
 菅平高原 …… 444
 スクールバス …… 954
 須古村 …… 38

- 111、114、130、171、199、237、244、
266、281、294、356、397、417、442、
523、610、613、616、709、747、752、
753、806、866、1153
- 衆議院議員 …… 21、31、33、34、37、
39、40、46、63、65、71、101、111、
114、130、171、199、237、244、266、
281、294、397、442、523、613、806、
866、1153
- 衆議院文教委員会 …… 616、709、747、
752、753
- 衆議院法務委員会 …… 616
- 秋季東京都高等学校野球大会 …… 1064
- 自由協会 …… 34
- 宗教教育禁止令 …… 12
- 修業年限 …… 11、12、19、21、65、76、
83、84、133~135、138、140、174、175、
184~186、189、190、196、197、201、
217、221、233~235、239、304、311~
313、315~318、321、323、351、369、
370、372、375、378、379、403、411、
424、428、438、439、451、472、502、
506、594、836、843、1038、1054、1056、
1057、1061
- 修業年限短縮 …… 11、304、311、312、
316、317、323
- 修士号 …… 1035、1039
- 終戦の詔書 …… 330
- 宗秩寮 …… 316
- ジュート（黄麻） …… 246
- 自由党 …… 392
- 柔道整復師 …… 525、836、837
- 柔道部 …… 5、27、29
- 修文練武 …… 314、351
- 自由民主党（自民党） …… 392、611
- 修猷館（修猷館高等学校、中学修猷館）
…… 33、392
- 修養団 …… 5、86、88
- 祝賀提灯 …… 162
- 塾長 …… 6、40、161、289、465
- 淑徳大学 …… 21
- 受験料 …… 145、180、410、439、454、
475、507、571、599、690
- 出陣学徒壮行会 …… 323
- ジュネーブ …… 355
- 春季講習会 …… 91
- 春季例祭 …… 162
- 焼夷弾 …… 328
- 松陰祭 …… 125
- 松陰神社 …… 9、54、55、74、78、89、
124、125、144、162、163、170、226、
227、288、291、575、633、686、1147、
1152、1154
- 松陰神社前駅 …… 144
- 生涯学習 …… 637、742、848、850、
876、891、893~897、944、968、980、
981、1002、1040、1068、1070、1110、
1120、1139、1140
- 松下村塾（松陰塾） …… 8、48、54、55、
64、162、229、230、284、289、290、417
- 小学校 …… 11、12、19、20、83、84、
91、138、140、154、163、169、170、
174、175、180、182、184~186、190、
211、288、338、368、374、382、418、
459、486、487、489~492、572、638、
951~954、1085、1117、1124
- 小学校令 …… 11、19
- 唱歌用歌詞楽曲 …… 159
- 商工大臣 …… 130
- 城子河（満州） …… 258
- 正志会 …… 393
- 上智大学 …… 14、461、543、1033
- 浄土宗 …… 52、108、252
- 浄土真宗 …… 108、711
- 常任幹事 …… 125、166
- 少年少女ドラム隊 …… 721
- 松柏学園 …… 716
- 消防官 …… 475
- 情報局 …… 297、392
- 情報処理 …… 470、533、665、666、
785、817、904、906、907、936、969、
978

山西大学 …… 936
 さんとす丸 …… 242
 サンパウロ …… 246、714～716、771
 サンパウロ柔道連盟 …… 715
 サンパウロ州立総合大学 …… 714
 サンパウロ新聞社 …… 716
 サンフランシスコ平和条約 …… 337、
 391
 参謀本部 …… 69、142、250
 サンロッセ市 …… 715、772
 三和銀行 …… 449

【し】

CIE (民間情報教育局) …… 353、354、
 386
 GHQ/SCAP (連合国軍最高司令官総司令部)
 …… 337、340、348、349、353、355、
 356、358、361、368、369、373、375、
 390
 GPA (Grade Point Average) ……
 1078、1081、1087
 JFL (日本フットボールリーグ) ……
 674、881
 自衛官 …… 475
 自衛隊 …… 471、475、519、676
 Jリーグ (日本リーグ) …… 674
 資格検定試験 …… 506、1014、1015
 私学振興 …… 356、610、646
 私学振興助成法 …… 646
 シカゴ …… 711、719、770
 時局研究会 …… 106
 時事新報 …… 33
 試写会 …… 495
 静岡県 …… 321、361、444、462、523
 静岡県立島田商業学校 …… 321
 時代革新講演会 …… 101
 七高 …… 38
 実業学校 …… 179、182、185、189、316
 実業学校令 …… 11、12、121、138、174
 実業専門学校 …… 13、158
 実業同志会 …… 111

実践女学校 …… 205
 實相院 …… 170
 自転車 …… 326
 自動車学校 …… 521、522、628、661、
 801、805
 自動車教習所 …… 522、801
 児童福祉法 …… 881
 シドニー …… 1113、1119
 信濃毎日新聞社 …… 294、296
 芝区 …… 102、190、254
 芝公園 …… 251
 芝中学校 …… 20、21、63、151、205、
 354、355
 師範学校 …… 11、13、14、29、69、86、
 158、205、209、210、338、386
 師範学校令 …… 11
 渋沢史料館 …… 869
 渋沢邸 …… 10、121、122、124、126
 渋谷駅 …… 168、567
 シベリア …… 258
 司法制度改革審議会 …… 1027
 司法制度改革推進計画 …… 1027
 司法大臣 …… 294、397
 『資本論』 …… 536
 島根青年新聞社 …… 614
 ジムナストラータ (世界体操祭) …… 675
 下高井戸駅 …… 168
 下高井戸線 …… 144
 下関 …… 38
 JICA …… 664
 社会教育協会 …… 614
 社会教育局 …… 893
 社会教育連合 …… 365
 『社会契約論』 …… 536
 ジャカレイ日本語学校 …… 716
 写真機 …… 527
 上海 …… 39、76、115、294、304
 上海支部 (大民倶楽部) …… 115
 上海派遣軍司令官 …… 294
 衆議院 …… 21、25、31、33、34、37、
 39、40、46、63、65、71、101、107、

349、368、372、373、382
 国民勤労報国協力令 …… 319
 国民勤労報国隊 …… 319
 国民新聞 …… 91、197、296
 国民精神総動員運動 …… 290、304
 国民精神文化研究所 …… 291
 国民政府 …… 216
 国民党 …… 292
 国民同盟 …… 294
 国務大臣 …… 392、417、429、611
 国立安東大学校 …… 936
 国立公文書館 …… 869
 国立サマルカンド外国語大学 …… 938
 国立情報学研究所 …… 911
 国立大学 …… 341、514、542、733、
 1069、1095
 国立ブータン研究所 …… 931
 国立文化センター（オペラハウス） ……
 718
 黒龍会 …… 41、271
 黒竜江省 …… 251
 護憲三派 …… 42、111
 「個人情報保護に関する法律」 …… 914
 国歌 …… 147、359、560、684、1152
 国会議事堂 …… 26、327、382、450
 国家公務員 …… 636、696
 国家試験 …… 481、533、924、944、
 946、948、981
 国家総動員法 …… 304
 小塚原 …… 54、55
 後藤寺町 …… 38
 近衛師団 …… 152、153
 駒澤大学 …… 456、541、742、1094
 駒沢町 …… 172
 駒場練兵場 …… 153
 コミンテルン …… 292
 米騒動 …… 4、23、43
 コロンビア大学 …… 205、340、355、
 612、711
 コンスタンツ大学 …… 930
 懇談会 …… 108、121～124、126、127、

165、196、395、405、682、816、1049、
 1099、1139

【さ】

在学徵集延期臨時特例 …… 322
 最高裁判所 …… 382
 埼玉県 …… 91、487、1059
 サイドカー …… 326
 済南 …… 38
 在日朝鮮人総聯合会 …… 616
 裁判員制度 …… 971
 サイパン島 …… 323、324、721
 在ベレン総領事 …… 714
 佐賀 …… 36、38、215、249、841
 相模原市 …… 891
 桜小学校 …… 170
 桜農商補習学校 …… 170
 鮭川村 …… 965
 笹原小学校 …… 638
 佐世保 …… 38
 札幌 …… 572、1104
 薩摩藩 …… 71
 佐渡おけさ …… 226
 佐野市 …… 488
 サブウェイ …… 1142
 サン・ルイス・オビスポ …… 711
 三河（満州） …… 258
 産学共同 …… 546、958
 産官学連携 …… 955、1095、1120、1121
 参議院決算委員会 …… 749
 参議院文教委員会 …… 616、617、704、
 709、710、722
 産業教育振興財団 …… 589
 産業経済新聞 …… 397
 『産経新聞』 …… 420
 三軒茶屋 …… 89、168、170、381
 三国同盟 …… 299
 三州倶楽部 …… 102
 三州日日新聞 …… 84、113
 算術競争 …… 147
 賛助員 …… 103、144

- 校歌 …… 37、159、323、359、364
 校外研修 …… 488
 筭町 …… 7、35、46、168
 高学歴 …… 338、339、658
 校歌制定委員会 …… 159
 皇居 …… 125、363、561
 公債証書 …… 79、115、158、163、250、
 291、294、312、321、322、420、442、
 550、551
 甲子園球場 …… 1064、1065
 皇室 …… 289、450、545
 麴町 …… 26、105、109、139、270
 公爵 …… 147
 侯爵 …… 61、174、187、292
 交詢社 …… 393～395、404、405、416、
 417、423、433
 公職追放 …… 340、354、356、390～
 392、404、515、547、548、585、612
 公職復帰 …… 390
 厚生省 …… 317、319、840、842、843、
 845、846、947
 厚生大臣 …… 30、836、837、842、950、
 1117
 厚生労働省 …… 840、1123
 講談社(大日本雄弁会) …… 7、25、224、
 416
 耕地整理技術者 …… 170
 校長(他校) …… 21、52、63、174、180、
 205、220
 皇典講究所 …… 109
 高等学校長会議 …… 305
 高等学校野球連盟 …… 382
 高等学校令 …… 66、138、156、159、
 313、316、317
 講道館 …… 33、37、39、204～206、
 454、1153
 江東区 …… 1033、1123
 高等小学校 …… 19、20、174、175、184
 ～186、190
 高等女学校令 …… 11、12、138
 豪徳寺 …… 9、58、74、169、172、174、
 208、219
 高度経済成長 …… 338、339、341、342、
 448、456、460、471、513、540～543、
 569、588、595、597、648、659、923、
 956
 甲文堂書店 …… 381
 神戸港 …… 79、237
 神戸高等商業学校 …… 31、236、240
 神戸商業大学 …… 241
 神戸大学 …… 31、241
 光明学園 …… 91
 公民科 …… 155、183
 公務員 …… 431、511、636、696、739、
 744、894、980、982、1022、1108、1109
 高野山競書大会 …… 1065
 高麗大学校 …… 936
 公立専門学校 …… 205
 郡山 …… 29、572
 五箇条の御誓文 …… 29
 國學院(國學院大学) …… 14、109、124、
 205、383
 国際アマチュア空手連盟 (IAFK) ……
 720
 国際協力事業団 …… 715
 国際基督教大学 …… 219、355
 国際実業ビル …… 255
 国際電気通信株式会社 …… 322
 国際文化会館 …… 930
 国際連盟 …… 23
 国士塾 …… 47
 国書刊行会 …… 495、614
 国体 …… 67、150、163、198、220、
 221、225、228、279、285、286、289、
 369、379
 国体明徴運動 …… 220、228
 国体明徴声明 …… 228
 国鉄 …… 616
 国土交通省 …… 960
 『国富論』 …… 536
 告別式 …… 71、254、610
 国民学校 …… 305、318、320、327、

空襲 …… 3、11、298、324、327～330、
339、356、364
苦学生 …… 430、472
九段 …… 291
宮内省 …… 132、170、316、363
国登録有形文化財 …… 1146、1148、
1151
熊本 …… 31、38、92、113～115、236、
241、244、249
熊本海外協会 …… 114
熊本商業会議所 …… 113
熊本藩士 …… 114
久米建築事務所 …… 805
区役所庁舎 …… 382
グライダー …… 326
グラン・クルス章 …… 716
繰上卒業 …… 225、311、351
クリチバ日本語学校 …… 716
グリナード永山 …… 896
久留米市 …… 38
久留米第一八師団 …… 110
グレコローマンスタイル …… 677、1115
黒川 …… 523
黒田藩 …… 18
群山鮮銀（朝鮮銀行群山支店） …… 39
軍事演習 …… 152
軍事教練（教練） …… 110、146、148、
152、153、180～182、203、221、244、
248、249、287、305、306、309、326、
349、351、352、370、372
軍人会館 …… 291
群馬県 …… 91、288、1059

【け】

慶應義塾（慶應義塾大学） …… 5、6、12、
14、37、38、40、43、69、91、205、245、
418、437、460、465、541、543、564
京王線 …… 805
京王永山駅 …… 805
京王バス …… 806
京王プラザホテル …… 701、702

経済産業省 …… 740、960、994
経済団体連合会 …… 397
警察 …… 150、205、211、361、382、
420、471、475、616、617、1123、1135、
1136
警察官 …… 150、475
警察署 …… 361、420、471、1136
警察庁 …… 616、617
警視庁 …… 205、262、275、298、327、
616、881、1114
経常費補助（経常費助成費補助） ……
645、646、709、721、748、760、777、
795、1050、1070、1072、1073、1077、
1099
決議文 …… 43、172、265、266、272
決戦教育措置要綱 …… 305、327、329、
368
決戦非常措置要綱 …… 320
検閲制度 …… 297
研究生 …… 273、406、793、973
健康実践指導者 …… 948、950
研修旅行 …… 488、489
原子力発電 …… 460
県人会 …… 495、496
憲政会 …… 111
憲政擁護青年団 …… 25
建設者同盟 …… 25、26
建築都市部都市計画課 …… 840
剣道師範 …… 76、205
剣道部 …… 5、27、31
現代GP（現代的教育ニーズ取組支援プログ
ラム） …… 1093、1094
玄洋社 …… 21、26、30、33、36、40、
57、58

【こ】

興亜海上火災運送 …… 397
興亜協会 …… 219、220
興亜専門学校 …… 219、220
公安委員会 …… 522
興安北省 …… 258

- 技師 …… 149、170、205、240、963
 貴族院 …… 33、101、107、111、132、
 171、197、205、220、281、294、296
 木曾工業 …… 397
 北多摩郡 …… 190、219
 北多摩工業株式会社 …… 322
 北マリアナ諸島 …… 720
 吉祥寺 …… 9、53～55、58
 吉林省 …… 251、252
 吉林大学 …… 887、888
 君が代 …… 47、63
 九州劇場 …… 51
 九州大学 …… 48、848
 九州帝国大学 …… 205
 九州電灯会社 …… 38
 九州日報 …… 38
 宮城（皇居） …… 162、307
 旧制大学 …… 338、482、540
 旧蔵本 …… 535、536
 教育課程編成・実施の方針（カリキュラム・
 ポリシー） …… 1070、1081
 教育基本法 …… 337、340、348、359、
 368、371、374、377、436、532、765、
 951
 教育訓練給付金 …… 1040
 「教育研究施設の総合整備事業計画」 ……
 857
 教育再生実行会議 …… 1072
 教育刷新委員会 …… 337、348、375
 教育職員免許法 …… 434、491、819、
 984、1023
 教育職員免許法施行規則 …… 819
 教育GP（質の高い大学教育推進プログラム）
 …… 1093
 教育勅語 …… 63、148、198、320、561、
 569、637
 教育と産業経済研究会 …… 614
 「教育ニ関スル戦時非常措置方策」 ……
 312、314、317、371
 教育方針 …… 13、14、58、74、80、87、
 149、261、285、340、341、343、350、
 393、418、459、544、547、554～557、
 574、586、587、590、599～602、631、
 735、1071、1082
 教員検定常任委員会 …… 212
 「教員検定ニ関スル規程」 …… 210
 教員養成課程 …… 414、425、426、434、
 435、457、486、490、938
 教学IR …… 1074
 教学マネジメント …… 1071、1074、
 1092
 共産主義革命 …… 23
 共産党 …… 216
 教職追放 …… 358
 協調会 …… 86～89、96
 京都産業大学 …… 541
 京都文科専門学校 …… 356
 鏡泊湖 …… 248、251～253、257、258
 京橋区 …… 241、295
 教風会 …… 161
 教養課程 …… 439、463、496、514、
 516、589、659、660
 清浦内閣倒閣運動 …… 111
 教練査閲 …… 309
 極東国立工科大学 …… 887
 清瀬杯全日本大学選抜大会 …… 676
 ギリシャ …… 721
 キルギス …… 903、938、1033、1035
 キルギス国立ビシュケク人文大学 ……
 903、1033、1035
 キルギス国立民族大学 …… 938、1033
 禁煙 …… 226、527、563
 銀座 …… 241、295、298、393、862
 禁酒 …… 226、527、563
 勤王党 …… 18
 勤労学生 …… 430、431、471、472、
 923、973、974
 勤労動員 …… 304、306、319～322、
 324、325、329

【く】

宮司 …… 524、1152

笠戸丸 …… 236
 ガジヤマダ大学 …… 936
 加治屋町 …… 38、112
 柏（地名） …… 1105
 柏書房 …… 536
 仮装行列 …… 148、326、363
 楽器 …… 527
 香月村 …… 38
 学校運営の改善の在り方に関する調査研究
 委託事業 …… 1094
 学校教育法 …… 337～340、348、359、
 368、371、374、375、377、387、402、
 403、406、637、697、742、765、797、
 1054、1069、1072、1078、1079、1081、
 1082、1091、1095、1097、1137
 学校教練教授要目 …… 152
 学校施設の防災力強化プロジェクト事業
 …… 1123
 学校騒動問題大演説会 …… 7、43
 学校報国隊連合大会 …… 307
 学校報国団 …… 305、306、310～312、
 326
 「学校報国団体制確立方」 …… 305
 学校法人会計基準 …… 646、649、1072
 活動写真 …… 91、124、125
 金井村 …… 514、518、519
 神奈川県 …… 91、190、245、321、444、
 523、610、691、1049、1057～1059、1094
 金沢 …… 572
 カナダ …… 713、720、903、969
 鐘淵紡績株式会社 …… 236
 鎌倉 …… 487、610
 鎌倉街道 …… 518
 蒲田区 …… 190
 神倉家 …… 518
 鴨川小学校 …… 91
 烏山川 …… 243、328
 唐津 …… 215
 ガリュイ …… 720
 軽井沢 …… 355
 川越喜多院 …… 487

川崎（地名） …… 39、245、321、523、
 691、891
 川崎造船所 …… 38
 川島事務所 …… 39
 漢口 …… 39
 韓国併合 …… 17
 観樹將軍 …… 26
 関西学院 …… 14、541
 神田区 …… 39
 神田駿河台 …… 514
 神田青年会館 …… 35、43、51
 関東・関西学生サッカーチャンピオンカップ
 …… 674
 関東学生剣道新人戦大会 …… 578、673、
 1115
 関東学生剣道大会 …… 1115
 関東学生剣道優勝大会 …… 673、1115
 関東学生ラグビーフットボール連盟 ……
 675
 関東軍 …… 249～254、256、257、550
 関東女子学生剣道新人戦大会 …… 1115
 関東女子学生剣道優勝大会 …… 673
 関東大学サッカーリーグ …… 1115
 関東大学サッカー連盟 …… 674
 関東大学春季対抗戦 …… 674
 関東大学リーグ …… 674、675
 関東大震災 …… 23、26、85、108、109、
 116、141、168、173、198
 関東庁 …… 149
 関東ラグビー部フットボール協会 ……
 675
 幹部候補生 …… 182、322
 観兵式 …… 163
 漢陽大学校 …… 936
 官吏恩給制度 …… 107

【き】

紀元節 …… 163、295、495、559、560、
 602、632
 揮毫 …… 399
 帰国報告会 …… 79

岡山県師範学校 …… 205
 小川造園会社 …… 427
 沖縄 …… 415、572
 小田急線 …… 518、519、616、691、805
 小田原駅 …… 168
 小田原急行電鉄 …… 168
 鬼石小学校 …… 91
 小野路村（小野路町） …… 339、341、
 344、513、514、520～522、656、659、
 661、662、736、784、786～789、793、
 795、797、798、801～805、807、808、
 857、1004
 小山町 …… 462、523
 オランダ …… 79
 折尾町 …… 38
 オリックス・バップファローズ …… 1116
 オリンピック（五輪） …… 429、460、
 579、661、664、673～675、677、678、
 848、1021、1113、1115、1117～1119、
 1154
 オルレアン …… 720

【か】

外苑 …… 307
 海外植民学校 …… 235
 海外宣教懇談会 …… 108
 海軍 …… 79
 海軍記念日 …… 163、442
 海軍航空隊 …… 312
 海軍大学校 …… 163
 海軍大臣 …… 294
 海軍兵学校 …… 158
 皆香園 …… 100
 回顧記 …… 111、258
 カイザー・ヴィルヘルム第Ⅱ世大学 ……
 205
 貝島炭鑛 …… 397
 海城（満州） …… 39
 海城高等学校 …… 382
 海上ビル …… 56
 海上保安庁 …… 606

外部認証評価 …… 1079
 外務省 …… 17、61、65、150、236、
 237、239、242、256、281、316、418、
 771
 外務大臣 …… 128、131、242、244、
 249、294、397、418、717
 海洋社 …… 76
 カイロ市 …… 717、718
 カイロ大学 …… 717
 科学研究費補助金（科研費） …… 1096～
 1098
 加賀藩 …… 174
 抱屋敷 …… 54
 学園紛争 …… 544、611
 「学士課程教育の構築に向けて（答申）」
 …… 1070
 学事二課 …… 616
 学習院 …… 109、437
 学習指導要領 …… 361、375、592、593、
 599、683、684、808、951、952、1060
 学術研究振興資金 …… 1094
 学術フロンティア推進事業 …… 1094、
 1140
 革新倶楽部 …… 111、112
 学生運動 …… 7、25、26、198、342、
 544
 学生剣道大会 …… 578、1115
 学生募集要項 …… 571
 学生連盟主催国体明徴明治神宮祈願祭
 …… 228
 学長（他大） …… 6、7、40、42、44、46、
 58、63、67、205、294、1153
 学徒勤労働員 …… 319、320、324
 学徒勤労働令 …… 320
 学徒出陣 …… 322、324～326、362
 学納金 …… 572～574、599、690、758、
 759、1050
 角帽 …… 224、330、564
 香具山 …… 518
 鹿児島高等学校 …… 112
 鹿児島中学校 …… 112

伊豆大島 …… 163
 伊勢原市 …… 523
 伊勢原町 …… 523
 板橋 …… 190、307
 イタリア(伊国) …… 69、79、114、116、
 292、298、299
 イタリア親善使節団 …… 292
 一関 …… 115
 乙丑の獄 …… 18
 出光興産 …… 396、397
 稲城市 …… 383
 茨城県 …… 354、1059、1099
 イピランガ章 …… 716
 移民制限法 …… 107
 イラク …… 344、424、663、664、712、
 717、770、805、1094、1140
 イラク考古庁 …… 717
 イラン …… 424
 イリノイ州 …… 719
 岩井海岸 …… 444、685
 岩戸村 …… 18
 インド …… 33、67、79、246
 インドネシア …… 316、424、579、933、
 935、936、938、1036

【う】

ヴィラ・アマゾニア …… 237、241
 ウエストチェスター郡 …… 719
 上野駅 …… 323
 牛込区 …… 30
 牛津町 …… 38
 ウズベキスタン共和国 …… 933
 ウム・カイス遺跡 …… 664
 浦和高等学校 …… 205

【え】

映画 …… 125、242、493~495、577、
 723、724、938、1102
 回向院 …… 54、55、101
 エゴグラム …… 1063
 エジプト …… 345、424、717、718、721

~723、770、771
 エジプト政府 …… 717、718、770、771
 閩兵式 …… 153
 NHK …… 495
 江の島 …… 487
 荏原郡 …… 54、57、61、120、131、
 138、169~173、175、180、187、188、
 191
 荏原尋常小学校 …… 288
 愛媛県 …… 495
 円覚寺 …… 610

【お】

オイルショック …… 573、635、636、
 689
 王子製紙 …… 294、397
 青梅 …… 328
 大倉組 …… 30、144
 大倉集古館 …… 382
 大蔵省 …… 245
 大蔵大臣 …… 31、123、198、397、465
 大蔵村 …… 514
 大阪 …… 17、38、51、572
 大阪朝日新聞社 …… 38、131、135、392
 大阪医科大学 …… 241
 大阪高等医学専門学校 …… 241
 大阪市公会堂 …… 51
 大阪商船株式会社 …… 38、197、242、
 244
 大阪造船所 …… 321
 大阪毎日新聞社 …… 131、135、294
 オーストラリア …… 345、713、719、
 769、903、938、969
 大津事件 …… 150
 オープンセミナー …… 893
 大宮 …… 1104、1105
 大森町 …… 39
 大山(地名) …… 685
 大山住神社 …… 18
 小笠原流 …… 215
 岡山 …… 205、241、571、572

地名・法令・一般
【あ】

ILO …… 355
 IOC委員 …… 664
 愛敬島 …… 38
 愛国学生連盟 …… 218、219
 愛国社 …… 218
 愛国青年大演習 …… 110
 ICOM …… 664
 愛知県 …… 331
 青森大学 …… 1027
 青山学院 …… 456、461、541
 明石中学校 …… 241
 赤峰領事館 …… 65
 阿含経 …… 398
 麻生区 …… 523
 朝倉郡 …… 38、110、287
 朝稽古 …… 226、422、635
 『アサヒグラフ』 …… 568
 朝日新聞社 …… 38、91、131、294、
 316、408、455、568、1102
 朝日麦酒 …… 397
 麻布区 …… 7、8、35、46、53、58、59、
 99、101、105、109、111、168、513
 アジア・アフリカ会議 …… 424
 アジア競技大会 …… 675
 アジア選手権 …… 1116
 アジアソフトボール選手権 …… 675
 アジア大会 …… 673、674
 亜細亜大学 …… 220、453
 亜細亜聯盟 …… 110
 味の素 …… 158、397
 味の素スタジアム …… 1123
 芦屋町 …… 38、110、287
 飛鳥山 …… 10、122
 東興産社 …… 397
 安積中学校 …… 29
 麻生医療福祉専門学校 …… 850
 麻生鋳業 …… 397
 阿蘇国立公園期成会 …… 114

足立区 …… 1123
 熱海 …… 163
 厚木町 …… 190
 アテネ …… 1113、1118、1119
 アトランタ …… 674、1113、1119
 アナウンサー …… 495
 アパート …… 529
 アフガニスタン …… 679
 アマゾナス州 …… 235～238、240～242、
 244、245、247
 アマゾニア研究会 …… 241
 アマゾニア産業株式会社 …… 246
 アマゾニア産業研究所 …… 10、235、
 241～246
 アマゾニア産業研究所附属実業練習所
 …… 10、238、239、241
 アマゾン …… 10、31、76、235～237、
 242、246、714
 アマゾン移住五〇年祭 …… 714
 アメリカ(米国) …… 11、52、79、84、
 149、298、326、327、329、337、345、
 355、402、545、612、711、713、719、
 721、770、903、969
 アメリカ教育使節団 …… 337
 アメリカ軍 …… 11、298、326、327、
 329
 アメリカン・プディスト・アカデミー ……
 711
 アル・タール遺跡群 …… 663
 安政の大獄 …… 54
 安保闘争 …… 450

【い】

イギリス(英国) …… 64、73、79、81、
 246、326、559、969
 生田村 …… 245
 池貝鉄工所 …… 39
 池袋 …… 1105
 ICOMOS …… 664
 石巻市 …… 1123
 井尻高等小学校 …… 19

851、856～859、863、875、876、879、
 882～886、908、915、925～929、932、
 944、945、956、957、959、967、970、
 975、976、979、985、986、992、993、
 1002、1004、1005、1009、1011、1013、
 1017、1019、1021、1023、1025、1028、
 1038、1048～1050、1072、1075～1077、
 1086、1088、1091、1092、1108、1121、
 1131、1133、1135、1136、1138～1140、
 1145、1149、1150

理事会（大民） …… 103～106

理事刺殺事件 …… 525、734、746、837、
 866、1009、1047

理事辞職勧告運動 …… 262～266、272～
 275

理事長 …… 104～106、108、173、174、
 243、277、343、344、388、389、395、
 405、407～409、450、526、547、548、
 585、611、612、615、623、625、626、
 629、695、698、705、708、734、738、
 744、747、749、750、753～757、761～
 763、770、771、774、779、784、785、
 798、804、809、810、841、852、857、
 863、865、875、876、878～880、882、
 884、886、888、894、899、907～909、
 926、927、929、944、945、966、1047、
 1050、1051、1057、1075～1077、1099、
 1107、1111、1131、1132、1137、1139、
 1144、1149、1152、1154

理事長室 …… 456、841、868、876、
 879、885、886、1144、1145、1147～1149

留学生交流会 …… 1126

留学生座談会 …… 723

留学生支援課 …… 900、903

寮運営委員会 …… 635

寮歌 …… 230、323

寮監 …… 530、550、635

『寮生心得』 …… 530、563

寮長 …… 226、308、628

寮費 …… 528、529

寮務課 …… 630、631、635、636、761

寮務部 …… 623、625、630、790

臨海学校 …… 685

臨海実習 …… 444

【れ】

『礼法常識』 …… 559

歴史地理学科（構想） …… 476、477

連絡会議（連絡協議会） …… 624、695

【ろ】

労務課 …… 905、779、1106

六項目改善勧告 …… 746～749

『論語と算盤』 …… 994

【わ】

『WORKING GEAR』 …… 1085、1109、
 1110

『Working Gear JR.』 …… 1085、
 1109、1110

『我が対支意見』 …… 116、250

『若者たちは、いま…』 …… 723

『私の歩んだ道 風雪七十年』 …… 614

『和文天祥正気歌』 …… 559

『メイプル』 …… 1100、1106
名誉教授 …… 265、353、758、765
名誉博士 …… 933
名誉理事 …… 5、37
メディア情報構想検討委員会 …… 916

【も】

模擬裁判 …… 481、971
もみじ(紅葉) …… 77、686、687、1064
紅葉の会 …… 1065、1066
『文部省年報』 …… 13、14、202、222、
223

【や】

夜学塾 …… 8、9、65、170、171
夜間警固 …… 211、226、227
薬学部(構想) …… 459
夜警勤務 …… 531
山口県人会 …… 496
山田邸(山田悌一邸) …… 109、422、
526、528

【ゆ】

有限会社メンバーズ …… 1124
『雄弁』 …… 25

【よ】

養護教諭 …… 594、947
幼稚園(構想) …… 459、489、490
幼稚園教諭 …… 486、490
四徳目 …… 1153

【ら】

ラーニング・ポートフォリオ …… 1086
『ラーフィダーン』 …… 663
ライフサイエンス(生命と科学)コース
…… 957
落成祝賀式 …… 516
ラリー大会 …… 493
『LAMP』 …… 983

【り】

『リーディングス21世紀アジア』 …… 943
『理工学研究所報告』 …… 965
『理工学部紀要』 …… 965、1007
『理工学部創設五〇周年記念誌』 …… 965
『リサーチシリーズ』 …… 1124
理事 …… 21、22、31、61、124~127、
129、135、139、140、142、144、148、
156~158、166、171~173、186、187、
192、197、200、207、218~220、234~
236、238、245、248、254、255、262~
284、289、291、293、296、299、305、
340、343、351、355、356、359、388、
389、396、404、408、409、413、523、
525、612、615、617、622~625、628、
649、695~697、701、704、706~708、
710、718、722、724、746、747、749、
753~755、761、769、778、809、841、
858、863、866、869、877、901、909、
913、915、928、992、1005、1075、1121、
1125、1131、1132、1137、1144、1149、
1154
理事(大民) …… 5、10、11、37、39、
43、46、51、60、104、106、108、109、
113、114、250
理事会 …… 68、142、172~174、186、
214、219、220、254、262、267、269、
271~273、275、277、278、280~283、
317、318、343~346、350、359、377、
381、387~389、395、403~405、408、
409、416、419、425、449、456、461、
462、466、471、476~478、490、493、
501、515、516、521、526、547、570、
589、590、596、612、617、620~622、
624、627、661、691、695、697~704、
706~710、715、718~720、722、734、
735、743、746~751、753~756、759~
764、767~773、778、779、783~785、
789~791、795~799、801~804、807~
811、816、828、836、837、840、841、

【へ】

『別冊寮生心得』 …… 563
 ベッティヒアコレクション …… 535
 編集部（大民） …… 105

【ほ】

防衛研修生 …… 508
 法学研究科委員会 …… 1011
 『法学部三〇年誌』 …… 973
 『法学部創設四〇年記念誌』 …… 973
 『法学部創設五〇周年記念誌』 …… 973
 法制経済科（構想） …… 133
 防空壕 …… 327、328
 報国隊 …… 304～307、319～321
 報国団 …… 305、306、310～312、326
 防災・救助リーダー …… 1135
 防災教育 …… 913、955、1086、1122～
 1124、1135～1138
 防災拠点 …… 744、1123、1135
 『防災総研ニュースレター』 …… 1124
 放射線取扱主任者 …… 963
 法人事務 …… 549、622、625、695、
 696、738、747、757、761、762、778、
 862、883、907、915～917
 法人事務局 …… 550、761、762、840、
 883、926、1148
 法人事務室 …… 442、883、885
 法人代行理事 …… 156、157
 法曹等国家試験受験指導 …… 481
 法律相談会 …… 106
 法律相談室 …… 481
 法律討論会 …… 481
 法律部（大民） …… 105
 『VOIX DE KENDOU』 …… 720
 ホームルーム担任 …… 586
 募金事務局 …… 1131
 募金事務室 …… 1131
 募金趣意書 …… 8、53、56、395、418、
 427、857、862、1132、1133、1138
 「募金ニュース」 …… 1133

募金要綱 …… 459、461
 北東アジア五大学構想 …… 886、888
 北東アジア五大学代表会議 …… 888
 保健委員会（高等学校） …… 586
 保健体育教員（教諭） …… 425、808、
 947、950
 保健部長 …… 586
 「母校の紛擾再発に因みて」 …… 274
 補習夜学塾 …… 168、169、171
 墓所 …… 20、70
 補導係 …… 681
 本校教育改善会議 …… 1047、1049
 本部庶務（事務室） …… 105、161、549、
 550、628、629、1005、1131

【ま】

『まつかけ』（『松陰』） …… 192
 manaba …… 913、1086、1087
 真鍋文庫 …… 535
 満洲鏡泊学園（鏡泊学園） …… 11、21、
 77、158、247～249、251～258、263、
 269、289、309、316
 『満洲鏡泊学園建設経過報告書』 …… 256
 『満洲鏡泊学園建設進行報告書』 …… 254、
 256
 『満洲鏡泊学園建設中間報告書』 …… 248、
 256
 『満洲鏡泊学園第四次報告書』 …… 254、
 256
 『満洲鏡泊学園第五次経過報告書』 ……
 253、256

【み】

未公認団体 …… 669、706
 都城支部（大民） …… 84、106、113、115

【む】

Moodle …… 913、1086

【め】

明治祭 …… 493、580、620、632

『ヒットラー政権十年』 …… 298
 非暴力宣言 …… 880、881
 百年史編纂委員会専門委員会 …… 1149
 百年史編纂委員会 …… 1149、1150、1154
 百年史編纂事業 …… 743、1149、1150
 評議委員（財団法人役員） …… 21、61、64、104、139、140、197、218、245、263、267、268、270、271、273、276、278、281、283、388
 評議委員会（財団法人） …… 61、139、140、172、245、254、262、267、269～272、276、277、280～283、350、388
 評議員（学校法人役員） …… 277、388、409、614、615、617、618、695、708、723、747、753、754、761、877、975、1131、1154
 評議員（大民） …… 86、104、111、114、173、174
 評議員（商業学校維持会） …… 187、192
 評議員会（大民） …… 83、104、111、173、277
 評議員会（学校法人） …… 388、409、449、617、622、624、628、748、753、761、771、851、877、927、932、945、957、959、967、970、976、979、986、993、1005、1009、1011、1013、1017、1019、1021、1024、1026、1028、1038、1121、1139
 昼間巡視 …… 161
 弘前支部（大民） …… 113
 広島支部（大民） …… 113

【ふ】

『武・徳』 …… 664
 VIプロジェクトチーム …… 866
 楓門会 …… 229
 楓門祭 …… 580、632、688
 楓門土木会 …… 1126
 福岡支部（大民） …… 39
 副学長 …… 343、523、544、552、553、

610～612、615、822、901、927、1078、1079、1131、1144
 副校長 …… 376、380、389、595、599、914
 福祉住環境コーディネーター …… 846、962
 福祉専門学校設立準備室 …… 841、843
 福祉専門学校対策委員会 …… 851
 福祉専門学校同窓会 …… 850
 副室 …… 343、549～552、562、615、623、624
 『服装規定』 …… 565、624
 副部長 …… 713
 「服務提要」 …… 552
 副理事長 …… 754、755、763、1076
 父兄会 …… 603
 不時点呼 …… 227
 『藤原繁先生追悼集』 …… 218
 二人学部長問題 …… 345、640、697、699、702、704、706、765
 武道講習会 …… 211、286、288
 『武徳紀要』 …… 664
 父母懇談会 …… 816
 ブラジル訪問団 …… 714、720
 フレキシブル入試 …… 960、961
 フレックス制 …… 968、970
 『文化遺産学研究』 …… 664
 文化遺産プログラム …… 941
 『文学部創設二〇年記念論文集』 …… 991
 『文学部創設三〇年史』 …… 991
 『文学部創設四〇周年記念誌』 …… 991
 『文学部創設五〇周年記念誌』 …… 991
 『文学部便覧』 …… 484
 文化祭 …… 580、632、687
 分校 …… 516、659、715、801
 文書課 …… 779
 文学学部（構想） …… 460、467、476
 分列行進 …… 343、560、561、602、619、637
 分列式 …… 153

『肉弾』 …… 162
 25プロジェクト …… 911
 『二十世紀日本の断章』 …… 258
 『二一世紀の展望』 …… 983
 「21世紀アジア学」構想 …… 1030
 『21世紀アジア学研究』 …… 942
 『21世紀アジア学会紀要』 …… 942
 日曜遊園 …… 88、89
 二部制 …… 176～178、181、187、836
 日本学科（構想） …… 928、929
 日本語教員養成 …… 938
 日本政教研究所規則 …… 532、769
 『日本政教研究所紀要』 …… 532、982
 『日本帝国文部省年報』 …… 13
 『日本の経済発展と近代化』 …… 982
 『日本はこうすれば立直る』 …… 611
 『日本を如何にすべき』 …… 116、580、611
 『入学案内』 …… 441、544、575、576、968、1100
 入学課 …… 1100、1101、1106、1116
 入学金 …… 141、177、180、234、239、313、351、375、378、410、430、436、439、454、472、475、505、507、572、573、594、599、690、776、1105
 入学考査料 …… 313、375、378
 入学式 …… 219、243、329、363、381、410、411、454、495、508、560、632、684、734、752、842、933
 入学試験 …… 58、65、141、145、178、215、239、245、249、316、410、507、553、571、572、597、598、605、623、682、685、686、704、751、777、794、811、812、821、842、902、909、932、960、974、989、1014、1015、1017、1039、1040、1052、1083、1099、1101～1104、1106
 「入学者心得」(国史館専門学校) …… 224
 入試説明会 …… 816、1099～1101
 入試部 …… 1106
 入植祭 …… 241、244、237

入寮費 …… 528、529
 人間環境科学科（構想） …… 959
 任命学部長 …… 699～703、706

【ね】

年史編纂室 …… 1149

【の】

『野田大塊翁略伝』 …… 130

【は】

パーソナルリポジトリ …… 917
 パートナーシップ協定 …… 1124
 『ハイテク・リサーチ・センター研究報告書』 …… 1008
 博士（学位） …… 39、81、205、355、397、502、505、506、510、511、611、740、1003、1008、1011、1018、1021、1026、1034、1039
 博士課程 …… 502～506、508～511、740、1002、1003、1007、1008、1011、1017、1018、1021、1022、1025、1026、1031～1034、1038～1040、1042、1097、1121
 博士課程設置準備委員会 …… 1011
 博物館学芸員 …… 487、940
 馬術班 …… 326
 『八〇年を顧みる（写真集）』（構想） …… 863、869
 発会式 …… 26、48、100、102、103、106、113、114、569
 発刊披露会 …… 5、32、33
 『PANSEE』 …… 983

【ひ】

BM5 …… 941、1033、1035
 ビオトープ管理士 …… 963
 『比較法制研究』 …… 482、663、972
 東アジア学科（構想） …… 928
 秘書士 …… 924
 秘書室 …… 623、625

鶴川農場 …… 309、327、391

【て】

TA (ティーチング・アシスタント) ……
1089、1090
ティーチング・ポートフォリオ …… 1087
定時巡回 …… 531
定例学部長会 …… 831、907、945、967、
1104、1110
Digital Book Module …… 911
哲学科 (構想) …… 477
デリバリー入試 …… 1103~1105
田園都市構想 …… 9、73
電気会 …… 1126
電気工事士 …… 961
電気主任技術者 …… 962
電子計算機室 …… 469、470、533、665
~667
電子計算機センター運営委員会 ……
790、907
『電子計算機センター紀要』 …… 666
『電子計算機センタ利用案内書』 …… 666
『天皇親政』 …… 116
電話交換室 …… 779

【と】

『東亜連盟への途』 …… 298
『東京朝日新聞』 …… 141、173、178、
249、296、318、392
東京都大会 …… 689
陶軒文庫 …… 536
『陶軒文庫漢籍分類目録』 …… 536
統合学部事務課 …… 1092、1093
同志会 (大学同窓会前身) …… 641、702
「同志会だより」 …… 641
道場開き …… 454、517、724
銅像 …… 42、612~614、642
「同窓会会員名簿」 …… 1125
同窓会館建設準備委員会 …… 642
「同窓会だより」 …… 642
導入教育 …… 995、1083、

同盟休校 …… 255、262、264、265、272
頭山満 …… 4~6、21、25、26、33、34、
36、39、40、48~50、53、56、57、59、
61、63、71、74、77、95、96、114、115、
121~126、130、133、139、143、161、
196、197、262、265~268、273、274、
292~294、298、299、420
東洋史研究会 …… 488
『東洋道德教本』 …… 489、559
登録ランドスケープアーキテクト ……
963
特殊コレクション …… 535、536
特殊無線技士 …… 961
特別委員会 …… 618~621、623
特別講座 …… 135、492
徳目 …… 9、79、81、93、320、1153
図書館 …… 48、73、122、381、406、
421、459、487、496、505、520、534~
537、567、629、660、723、736、742、
785、788~790、792、805、808、856、
858~862、869、907~911、914~918、
954、1005、1021、1088、1095、1143、
1144、1146、1151
図書館・情報メディアセンター運営委員会
…… 917
図書館司書 …… 487、567、792、808、
954
図書館司書教諭 …… 487、567、808、
954
図書館長 …… 406、535、914
「図書館利用案内」 …… 535
図書部長 …… 586
土木施行管理技士 …… 962

【な】

内部質保証推進委員会 …… 1092
『中野菊夫全歌集』 …… 310

【に】

二級教員免許 …… 414、426、434、435、
657

103、116、291～299、310、390
 大民社清規 …… 62、102、103
 大民社宣言 …… 102
 大民新聞 …… 79、105、298、419、569
 大民新聞社 …… 298、569
 大民団 …… 6、27、62、71、86、88、
 92、99～102、105、114、116、250、292
 大民団歌 …… 35
 大民デカンショ節 …… 35、36、242
 大民文庫 …… 298
 『大民要覧』 …… 116、292
 大連事務所 …… 902
 『高橋是清経済論』 …… 31
 『高橋是清自伝』 …… 31
 宅地建物取引主任者（宅地建物取引士）
 …… 962、981
 『たけのこ』 …… 845
 多摩祭 …… 581
 TAMAフレイル予防プロジェクト ……
 1122
 『田村幸策論文集』 …… 456
 多目的運動場（構想） …… 789
 「短期大学案内」 …… 555
 短期大学改組転換準備委員会 …… 926
 短期大学将来構想委員会 …… 924
 「短期大学入学案内」 …… 557
 男女共学 …… 338、348、566、692、
 737、741、792、1050～1053、1056、
 1061、1062
 男女共学化 …… 566、692、1050～1053、
 1056
 『丹青』 …… 310
 団体訓練（団訓） …… 557、561

【ち】

地方自治コース（構想） …… 786
 中央委員会（近代化委員会） …… 618～
 620
 『中央公論』 …… 24、42
 中学・高校教員組合 …… 640、699、702、
 751

中学新築賛助員 …… 144
 『中学世界』 …… 77
 中学校・高等学校同窓会 …… 1125、1132
 中学校学友会 …… 163、165
 中学校校歌 …… 159
 中学校校友会 …… 158、165、166、192、
 274、305、349、379
 『中学校校友会報』 …… 158、165
 中学校友大会 …… 266
 中学校綱領 …… 159
 中学校秋季大演習 …… 152、153
 中学校創設基金 …… 120、140
 「中学校創設基金募集覚書」 …… 140
 「中学校日誌」 …… 162
 中学校父兄会 …… 274
 『中学校要覧』 …… 587、689
 「中間答申案の内容報告」 …… 621
 中間報告書 …… 620
 中期事業計画 …… 735、798、802、863、
 893、894、925、1003
 「中高教員組合ニュース」 …… 640
 中・高事務室 …… 774
 中長期事業計画 …… 1136、1137
 中等部設立趣旨 …… 84
 『中庸』 …… 70、77、125、206
 聴講生 …… 406、414、793
 調査部（大民） …… 105
 長老懇談会 …… 121～123、126、127、
 196
 『地理学教室創設五〇周年記念誌』 ……
 991
 『地理学報告』 …… 488、990
 地理巡検 …… 485、488

【つ】

対馬古文書 …… 488
 鶴川運動場（第二運動場） …… 436、515
 鶴川会館（構想） …… 795、798、803、
 856、858
 鶴川校舎事務課 …… 859
 鶴川祭 …… 580、581、939

- 『体育学部三〇年誌』 …… 442、956
 『体育学部五〇周年記念誌』 …… 956
 『体育学部紀要』 …… 445、811
 体育学部将来計画委員会 …… 807
 『体育学部創設六〇周年記念誌』 …… 956
 『体育学部メモリアル四〇』 …… 956
 体育館開館式 …… 429、443
 『体育研究所報』 …… 445、665、955
 体育祭 …… 493、580、603、604、620、632、685、847、849
 第一議案 …… 621～623、697
 「第一次対策試案」 …… 707、708
 第一情報サービス課 …… 915
 『大英帝国の致命線』 …… 298
 大学院委員会 …… 505、506、629
 「大学院学生募集要項」 …… 507～509
 大学院学則 …… 503、505、507、757、759、766、1003、1021
 『大学院紀要』 …… 510
 大学院工学研究科開設準備委員会 …… 1005、1007
 大学院設置検討委員会 …… 809、1019
 大学院設置準備委員会 …… 1009、1023
 大学院設置促進委員会 …… 1022
 大学院設立準備委員会 …… 1004
 『大学院便覧』 …… 506、510
 大学学位規程 …… 505、759
 大学学則 …… 436、439、505、553、554、625、626、653、697、698、701、735、757～759、764、768、830、964、968、971、1091
 大学学部規則 …… 697～699、705
 大学企画調査室 …… 532
 『大学機関別認証評価 評価報告書』 …… 1080
 『大学機関別認証評価自己点検評価書』 …… 1080
 大学規約集 …… 625
 大学研究教育支援プログラム …… 1096
 『大学生活』 …… 227、228、960、996
 大学長に関する規則 …… 758、762、763、1091、1092
 大学同窓会 …… 612～614、628、641、642、723、724、816、857、865、866、868、1099、1100、1124、1132
 『大学同窓会新聞』 …… 642
 『大学同窓会創設二〇年誌』 …… 642
 『大学同窓会創立三〇周年記念誌』 …… 642
 『大学同窓会通信』 …… 642、1124
 大学附置（附置研究所） …… 344、470、481、532、533、662、744、769、788、943、955、964、972、981、982、997、1031、1123、1135
 『大学問題研究』 …… 533
 『大興安嶺の落日』 …… 258
 第三運動場 …… 521
 『大支那は狂はん』 …… 116、250
 『対支文化事業の具体案に就て』 …… 116、250
 『大正の青年と帝国の前途』 …… 4、23、24
 第二議案 …… 621～623、627、630、633～635、680、682
 第二情報サービス課 …… 915
 大日章旗 …… 326
 代表教授 …… 522、554、617、618、626、627、648
 タイプ室 …… 779
 『大民』（雑誌） …… 5～7、27、28、32～38、40～43、46、47、49、50～52、59、62、65、73、78、80、82、83、88、92、99、100、102～106、108、109
 『大民』（新聞） …… 11、116、242、291～293、295～299、545、569
 大民倶楽部 …… 6、11、27、62、75～77、83、84、86、100～111、113～116、242、249、250、285～287、292、298、299、328
 大民倶楽部規約 …… 62、103、114
 『大民倶楽部とは何ぞや』 …… 114、115
 大民社 …… 6、11、27、30、62、102、

637、649、668、681、698、701、704～708、712～714、716～719、721、749、750～753、763、778、838
 総長室 …… 479、525、750、778、838
 総務主任 …… 683
 総務部 …… 105、192、456、623、625、649、667、710、779、905、906
 争友会 …… 562、563、632
 争友組 …… 562、563、632
 争友日誌 …… 562
 創立一〇周年記念祝典 …… 124、126、288
 創立三七周年記念式典 …… 419
 創立五〇周年記念式典 …… 493
 創立五〇周年記念事業 …… 461、471、493、546
 『創立五十周年記念論文集』 …… 496、545
 創立六〇周年記念事業 …… 722、723
 創立六五周年記念事業 …… 723
 創立八〇周年記念式典 …… 864～866
 創立八〇周年記念式典・同記念祝賀会 …… 865
 創立八〇周年記念事業 …… 735、762、763、816、817、1092
 創立八〇周年記念事業運営委員会 …… 860、863、864、866、869
 創立八〇周年記念事業計画 …… 799、863
 創立八〇周年記念事業募金委員会 …… 857
 『創立八〇周年記念事業募金だより』 …… 857
 創立八〇周年史編纂委員会 …… 869
 創立九〇周年記念誌編集部 …… 1149
 『創立者柴田徳次郎伝』 …… 614、723
 創立一〇〇周年記念式典 …… 1137、1150、1152
 創立一〇〇周年記念事業 …… 743、972、1086、1088、1131～1133、1135、1136、1139、1142、1144、1145、1148～1151

創立一〇〇周年記念事業委員会 …… 1144～1148、1150
 創立一〇〇周年記念事業推進課 …… 1144
 創立一〇〇周年記念事業戦略広報立案設計プロジェクト …… 1145
 創立一〇〇周年記念事業の実現に向けて（基本方針） …… 1086、1088、1133、1135、1136
 創立一〇〇周年記念事業プロジェクト …… 1146
 創立一〇〇周年記念事業募金 …… 743、1131
 創立一〇〇周年記念事業募金委員会 …… 743、1131、1132
 創立一〇〇周年記念募金事業対策委員会 …… 1131
 測量士 …… 487、962
 測量士補 …… 487、962
 組織検討委員会 …… 959
 卒業アルバム …… 159、227、310
 卒業研究 …… 492、935、937、950、961
 卒業式 …… 60、74、78、145、241～244、257、316、359、362、364、365、421、444、495、560、632、641、684、687、751、752、850、852、926、948
 卒業判定会議 …… 553、926
 卒業文集 …… 383、384
 卒業論文 …… 439、451、452、464、468、473、484、487～489、658、846、937、970、995、996
 外便所 …… 478

【た】

『大アマゾンを開く』 …… 242
 『体育・スポーツ科学関連三大学院合同研究発表会発表抄録集』 …… 1020
 『体育・スポーツ科学関連大学院連携事業報告書』 …… 1020
 『体育・スポーツ科学研究』 …… 445、811、956

『政経学会誌』 …… 458
 『政経論集』 …… 1018
 『政経論叢』 …… 458、475、982、1018
 生産工学科（構想） …… 459、461
 『政治研究』 …… 982
 『青春の日々国士館』 …… 495
 『生存同盟』 …… 92、106～110、115、
 116、139、285
 生存同盟宣言 …… 109
 生徒委員 …… 211、226
 生徒会 …… 688、1048
 生徒心得五箇条（五箇条） …… 149、150、
 160、163、369、378、379
 生徒指導主任 …… 683
 生徒指導部 …… 682
 生徒部長 …… 586
 青年大民団 …… 3、5～9、14、16、20、
 22、23、25～30、32～36、38～44、46、
 47、49、51～53、55、56、62、73、78、
 80、99～101、103、112、116、168、250、
 263、268、276、285、293、299
 青年大民団規約 …… 27、80、99、293
 青年大民団主旨 …… 27、285
 青年大民団清規 …… 51、99、112
 制帽 …… 78、224、227、564、602
 声明書 …… 262、266、267
 税理士 …… 511、533、981、997、1013
 ～1018、1041
 世田谷・梅ヶ丘キャンパス整備推進委員会
 …… 1139
 せたがやeカレッジ …… 742、897
 世田谷六大学コンソーシアム …… 742、
 1094、1095
 設置認可申請書 …… 98、135、141、
 148、204、239、405、406、435、450、
 453、454、462、464、471、472、476～
 478、502、505、534、535、546、841、
 932、948、967、968、1005、1019、1024、
 1028、1031、1032、1038、1057
 セメスター制 …… 933、986、987、
 1040、1081、1082

セレクトティブ入試 …… 960
 全学委員会 …… 670、876
 先覚者 …… 288、560
 全学集会 …… 750
 全学臨定後対策委員会 …… 822、874、
 875、925
 選科生制度 …… 176～178、181
 選挙管理委員会 …… 1092
 『選挙銀行倶楽部の栞』 …… 569
 選挙権銀行倶楽部（選銀クラブ） ……
 568、569
 選考委員会 …… 1092
 専攻主任 …… 629、988
 全国総合体育大会 …… 689
 『先師録』 …… 47
 センター主任 …… 832、906
 センター長 …… 817、833、894、900、
 904、906、907、910、914、917、930、
 1008、1108、1110、1121
 『センター広報誌FLOW』 …… 666
 『センタニュース』 …… 666
 『専任教員研究業績』 …… 828
 専門学校規則 …… 202、207
 専門学校同窓会館（構想） …… 229
 専門学校並実務学校創設計画書 ……
 134、233
 専門学校寮則 …… 307、308
 専門部（構想） …… 122
 全寮制 …… 65、68、72、160

【そ】

造園施行管理技士二級 …… 962
 『総経研』 …… 982
 総合大学化 …… 339、449、458、459、
 476、477、520、532、545～547、741、
 801
 総長 …… 21、207、244、252、273、
 277、278、280、343、344、389、407、
 452、465、479、493、525、547、548、
 574、577、604、611～613、615、616、
 620～623、625～627、629、632、634、

食堂部 …… 575
 女子部 …… 566
 暑中稽古 …… 163、229
 初等教育運動会 …… 492、685
 初等教育音楽祭 …… 492
 初等教育会 …… 657
 『初等教育学研究論叢』 …… 990
 『初等教育論叢』 …… 990
 除幕式 …… 258、613、852、1148、1151
 庶務部（大民） …… 105
 『新・東京裁判論』 …… 972、1152
 新学部検討委員会 …… 1076
 新学部設置準備委員会 …… 928、931、
 932、1075
 『審議会だより』 …… 877
 振興対策室（高等学校） …… 692、737、
 1047～1049
 審査委員会 …… 858
 『震災善後急務』 …… 116
 人事委員会 …… 623、628、779
 人事部 …… 623、625、667、779、1005
 『新制国士館への胎動』 …… 828
 新設等設置準備連絡会 …… 1003
 『身体運動学研究室修士論文集』 ……
 1020
 診断情報管理士 …… 963
 『新日本建設の道』 …… 365
 『新日本之青年』 …… 23
 『人物シリーズ（1）柴田徳次郎先生』 ……
 614
 『人文学会紀要』 …… 487、990
 シンボルマーク …… 864～866
 『新満洲への里標』 …… 76
 『新満蒙経綸私見』 …… 116、250
 進路指導主任 …… 683

【す】

水泳実習 …… 492
 水泳大会 …… 427、603、685
 推挙 …… 262、272、763、764、1091
 推挙管理委員会 …… 764

『随想録』 …… 31
 スキー実習 …… 444
 『すくすく』 …… 657
 スケート実習 …… 444、492
 スズカケノキ（プラタナス） …… 71
 スタディサポート …… 1063
 SA（スチューデント・アシスタント） ……
 1090
 『Student Law Journal』 …… 973
 『スポーツ・システム講座』 …… 956
 スポーツアジアプログラム …… 941
 スポーツアスリート憲章 …… 880、881
 スポーツ協議会 …… 672、812、879、
 1112、1114、1116
 『スポーツ国士』 …… 880
 スポーツ振興課 …… 1114
 スポーツ振興会 …… 880、1112
 スポーツ推薦制度・クラブ制度等検討委員会
 …… 812
 スポーツプロモーションセンター ……
 1114
 相撲部（大民） …… 37、39

【せ】

誠意・勤労・見識・気魄 …… 9、79～81、
 93、150、151、211、217、264、285、
 320、354、359、411、452、474、494、
 495、555～557、562、587、601、614、
 723、765、994、1153
 生活指導主任 …… 683
 生活指導部 …… 681、682
 生活と材料コース …… 957
 『政教研紀要』 …… 532、982
 聖經大学 …… 68
 『政経学会報』 …… 983
 「政経学部教授会再会声明」 …… 703
 『政経学部創設三〇年史』 …… 983
 『政経学部創設五〇周年記念誌』 …… 983
 政経学部特別運営委員会 …… 701～703
 『政経学部二部便覧』 …… 472
 『政経学部便覧』 …… 452

358、372、375、378、379、410、436、
439、454、475、505、507、543、572～
574、594、599、690、776、900、901、
1040
主将合宿 …… 766
『修証義』 …… 422、558、559
『樹人』 …… 991
受贈式 …… 215
出陣学徒壮行国史館大練成大会 …… 326
首都圏西部大学単位互換協定 …… 742、
1095
主筆 …… 5、34、37、39、43、46、48、
293、294、296、392
殉国祭 …… 288
順伏式 …… 262、268
小学校（構想） …… 459、489
商業学校維持会 …… 120、121、173、
174、178、180、185～188
商業学校学則 …… 183、373
商業学校規程 …… 174、175、179、183
商業学校々友会（校友会） …… 192
『商業学校十年小史』 …… 188～190
上棟式 …… 57、70、143、418、419、
427
常任理事 …… 220、612、761、863、
910、913、915、916、1075、1137、1154
『少年マレー読本』 …… 316
情報科学センター運営委員会 …… 906
情報化関連事業 …… 912
情報化推進委員会 …… 742、907～910
情報基盤センター …… 914、915
情報サイエンス学科（構想） …… 958
情報システム課 …… 915、918
情報政策委員会（仮称）設立準備委員会
…… 907、908
常務理事 …… 173、187、197、622、
623、625、628、649、695、696、706、
710、722、724、746、837、866、1047
将来計画 …… 60、463、526、735、737、
764、778、783、785～787、789～793、
795～797、799、802～804、808、816

～818、822、823、827、837、865、943、
974、992、1003、1004、1009、1048、
1050、1051、1054、1055、1098、1108
将来計画委員会 …… 526、692、735、
737、783～785、787、790、799、802、
837、1009、1050
将来計画第一次大綱 …… 526、735、
778、790、795、796、799、802～804、
816～818、837、865、974、1003、1004、
1048、1050、1054、1055、1098、1108
将来計画第二次大綱 …… 796、797、
822、823、1051
将来計画に関する答申 …… 785、787、
789、802、1009
将来検討準備会（工学部） …… 958
将来構想審議会（第一次～第三次） ……
738、811、862、874～876、882、886、
888、894、909、926、927、931、944、
956、966、975、985、992、1057、1075、
1106、1111
『将来之日本』 …… 23
所感文 …… 343、558、602、683
諸規定整備委員会 …… 625、692、735、
755～757、759、760、763～765、767、
769、772、778、783、1049、1106
諸規定整備委員会規程 …… 756
助教諭臨時免許 …… 434
職員会議 …… 382、629、680、687、
691、881、1047、1048
職員組合 …… 637、638、640、696、
699、702、710、734、750、751
『職員組合一〇年史』 …… 638
『職員組合結成三〇周年記念誌』 …… 638
『職員組合結成四〇周年』 …… 638
『職員組合年表二〇年史』 …… 638
職員制度改革準備委員会 …… 885
職員制度改革推進室 …… 780、799、886
職員寮（構想） …… 528
職業科 …… 182、375、592、593、1060
職業指導係主任 …… 586
植樹 …… 71、87、286、642、1151

- 至徳中学校学則 …… 369、375
『支那の宝庫』 …… 116
柴田総長杯 …… 493、577、604
『柴田徳次郎言論集』 …… 614、723
『柴田徳次郎伝』 …… 614、723
柴田杯 …… 714
「柴田理事辞職勧告書」 …… 264
『芝生は緑なり』 …… 436、611
始末書 …… 157、374
事務管理課 …… 915
事務機構改革検討委員会 …… 780、799、882、1106
事務局長 …… 550、552、612、615、696、710、747、841、863、910、913、914、1139
事務システム室 …… 907、908、910
事務組織規則 …… 756、758、761、770、778、779、799、883、884、886、1106
事務組織検討委員会 …… 778、779、799
事務長 …… 406、626、627、683、764、837、844、906
事務電算課 …… 667、905
事務取扱 …… 156、157、207、218、262、280、289、359、376、380、585、753
事務部長 …… 586、863、1110
事務分掌規程 …… 756～758、762、770、778、799、883、884、886
事務連絡協議会 …… 696、881
社会教育主事 …… 487、950
社会体育指導者資格 …… 808
社会部（大民） …… 103、105
舎監 …… 76、161、226、273、274、308、531、550、635
射撃班 …… 326
『写真でみる国士館の歴史』 …… 614
Jenzabar …… 913、1086
『趣意書・会則』 …… 569
就活！HOT SPACE …… 1111
秋季皇霊祭 …… 228
秋季武道大会 …… 229
『宗教研究所紀要』 …… 665
銃剣道班 …… 326
柔剣武道大会 …… 288
修士（学位） …… 502、505、506、941、1007、1010、1014、1016、1020、1022、1024、1029、1034、1035、1038、1039、1041
修士課程 …… 502～511、740、811、875、941、966、985、990、1002～1015、1017～1019、1021～1028、1031～1038、1040、1041、1111
修士候補者資格検定試験 …… 506、1014、1015
就職課 …… 630、631、635～637、792、797、817、894、1107、1108、1110
『就職心得』 …… 574
就職指導委員会 …… 637、1108
『就職資料 就職の手引き』 …… 1107、1109
就職センター …… 637、797、817、979、981、1076、1084、1085、1108～1110
就職促進委員会 …… 1107
就職対策本部 …… 574
就職フェア …… 1111
就職補導課 …… 575、635、1107
『就職マガジン Working GEAR』 …… 1109
「収書通報」 …… 535
『修士論文抄録集』 …… 1020、1038
柔道整復師養成校（構想） …… 525
柔道整復師養成校設立計画 …… 525
柔道部（大民） …… 37、39
修祓式 …… 215、290
週番学生 …… 531
秋楓祭 …… 685、687、688
主幹 …… 5、34、37、39、43、51、112、294
授業評価アンケート …… 1078、1086
授業料 …… 66、83、140、141、145、146、175、180、187、188、202、234、239、311～313、317、318、351、357、

国士村便り …… 73
黒板文庫 …… 535
国文学専攻（構想） …… 477
『国文学論輯』 …… 489、991
国文科長（短期大学） …… 755、765、875
国家の柱石 …… 8、10、14、27、29、
49、80、284、495、555、556、574
『湖畔の炬火』 …… 257
『コミュニケーション・マガジン』 ……
1100
コミュニケーションマーク …… 865
～868、1147
顧問総代 …… 398、409、429
『コンピエーンニュの今昔』 …… 298
コンピュータとシミュレーションコース
…… 957
コンピュータと数理コース …… 957

【さ】

再建感謝報告会 …… 415、423～425、
433
再建趣意書 …… 340、393、394、404、
418
最高顧問会 …… 622、623、629
「再興満洲鏡泊学園案内」 …… 258
「最終答申」 …… 621、622、624～627、
630、631、633～635、652、680、682、
695、697、824、893
在職卒業生会 …… 642、643、750
『最先端技術関連法研究』 …… 972、973
裁断書 …… 262、268、270、271、274、
278
財団法人国士館 …… 9、11、21、57、
61、62、92、95、96、104、118、121、
123、130、136、141、157、174、186～
188、245、248、254、256、261、273、
283、284、319、396
財団法人国士館維持会規約 …… 95
財団法人至徳学園 …… 314、319、340、
341、349～351、353、355～359、364、
368、374、377、387、388、395、404、
408、413、585
細部諸規程整備大綱 …… 759
『探訪対馬古文書目録・写真集』 …… 488
財務部 …… 769、774、779、915、1005
作業療法士 …… 959
五月会 …… 1125
サテライトキャンパス …… 902、903、
941、1033、1035
『The New Japan』 …… 664
『3号館物語』 …… 860、869
三ボリシー …… 1070～1072、1074、
1081～1083、
参与 …… 732、1132

【し】

事件対策本部 …… 616
『四庫全書』 …… 144
自己点検・評価委員会 …… 828、1079
自己点検・評価委員会規程 …… 828
『自己点検・評価報告書』 …… 828、1079、
1080
自己評価システム部会（高革審） …… 822
～824
自主教授会 …… 700～703
私塾 …… 3、9、10、13、50、66、68、
69、84、85、112、119、142、169、261、
289
『至心は四海へ』 …… 724
史跡見学会 …… 487
施設整備連絡会 …… 795、796
地鎮祭 …… 70、200、478、590、943
実践倫理 …… 203、252、315、343、
344、414、452、464、480、485、551、
557～559、561、570、620、623、627、
631、632
室長 …… 531
指導学生 …… 531
至徳高等学校学則 …… 377
至徳高等学校商業科学則 …… 379
至徳商業学校学則 …… 372
至徳短期大学（構想） …… 403

- 国士館正常化推進連合 …… 750、752
 国士館精神を護る会 …… 750
 国士館設立趣旨 …… 8、14、46、47～
 49、55、80、81、84、172、284
 国士館専門学校・同中学校連合教職員会
 …… 266
 『国士館専門学校要覧』 …… 214
 国士館葬（館葬） …… 69、142、254、
 262、281
 国士館騒動 …… 11、157、166、186、
 187、207、218、222、229、245、254、
 255、261、262、264、269～275、279、
 282～285、288、291、296、299、306、
 308、681、682
 「国士館大学」（広報映画） …… 494
 国士館大学維持委員会 …… 299、340、
 386、390、392、396、398、399、405～
 407、416、417、423、433、434、443
 国士館大学園 …… 409、424、928
 国士館大学園再建事務所 …… 409
 国士館大学開学感謝会 …… 416～418、
 425
 『国士館大学学生寮案内』 …… 527、529
 国士館大学剣道部問題検討委員会 ……
 880
 国士館大学産官学連携委員会 …… 1120
 国士館大学産官学連携事業化検討委員会
 …… 1121
 国士館大学使命及び教育指針検討委員会
 …… 1075
 『国士館大学新聞』 …… 430、449、455、
 456、458、460、465、477、478、495、
 501、515、555、556、571、589、601～
 603、605、611、614、618、621、641、
 672、677、749、803、869、916、1101、
 1108、1115
 国士館大学新聞編集局 …… 456
 国士館大学正常化推進協議会 …… 710
 国士館大学全学教員会 …… 747、750、
 751
 国士館大学全学教学委員会 …… 1092
 『国士館大学に学ぶ』 …… 459、817
 『国士館大学報』 …… 649
 『国士館哲学』 …… 488、990
 国士館同志会 …… 702
 『国士館東洋史学』 …… 488、990
 『国士館と教育』 …… 76、78～82、92、
 93、150、286
 『国士館年表』 …… 863、869
 『国士館八〇年史』 …… 863、869
 『国士館八〇年の歩み』 …… 864、868、
 869、1080
 国士館発展企画案 …… 350、394、404、
 417
 「Kokushikan Visual Identity System
 Manual」 …… 868、1147
 国士館一〇〇年祭 …… 1137、1146～
 1148、1150、1151
 『国士館百年史』 …… 370、743、1149、
 1150、1154
 『国士館一〇〇年のあゆみ』 …… 1150、
 1154
 国士館標語 …… 149、150、559
 国士館節 …… 323
 『国士館報』 …… 50、52、308
 『国士館法学』 …… 481、615、973
 『国士館法学会誌』 …… 481、973
 『国士館法研論集』 …… 1011、1030
 『国士館防災・救急救助総合研究』 ……
 1124
 国士館メンバーズ …… 1124
 国士館問題 …… 705、747、749
 『国士館要覧』 …… 149、286、1059
 国士館落成式並に開館式 …… 63、77
 『国士館朗吟集』 …… 559
 『国士館六五年のあゆみ』 …… 724
 国士祭 …… 9、54、55、57
 国士の家 …… 494、1153
 KOKUSHIBA …… 1147、1148
 国士村 …… 9、70、72、73、77、82、
 83、85～87、207、261、534
 国士村憲法 …… 72

- 高等学校工業科（構想） …… 458、459、
461～463、469、588～590、596
- 高等学校設置計画 …… 524
- 高等学校同窓会 …… 1125、1132
- 『高等学校入学案内』 …… 605
- 高等教育改革審議会（高革審） …… 736、
775、798、816、819、822、823、825、
827、829、831、898、984
- 『高等教育改革審議会答申』 …… 823、
825、984
- 高等部中学校々友会 …… 274
- 公認会計士 …… 533、981、997、1013
- 広報課 …… 456、868、1144、1145、
1147～1149
- 公務員&キャリアガイダンス …… 982、
1084
- 高齢者家庭介護講習会 …… 849
- コース制 …… 464、970、974、978、
979、986、988、989、1012、1014、1018、
1022、1025、1026
- 国一会 …… 193
- 国空会 …… 1126
- 国語国文学科（構想） …… 476
- 国際関係委員会 …… 770、773～775、
823、898、899
- 国際交流課 …… 900、903
- 国際交流検討委員会 …… 769、772、
773、897、898
- 国際交流政策会議 …… 901～903
- 国際交流センター …… 741、775、824、
828、898～901、903、904、980
- 国際交流センター設立準備委員会 ……
899
- 国際交流部会（高革審） …… 775、822、
823、899
- 国際ビジョン …… 901～903
- 国際ビジョン検討会 …… 902、903
- 国際ビジョンワーキンググループ ……
901
- 国際部 …… 105、712、713、721、723、
762、770、897
- 国際武道シンポジウム …… 664
- 「国士」 …… 59、64、80～82、151、350、
546、564、1153
- 『国士』 …… 229、230、664
- 国士館維持委員会 …… 10、88、95～99、
118～123、126～131、133～136、139～
141、143、196、197、199、233、238、
261、263、270、286、391、396
- 国士館移設趣旨 …… 53、54
- 『国士館々報』 …… 76、92
- 国士館規則 …… 65、66
- 『国士館規程集』 …… 760
- 『国士館九十年』 …… 1080
- 国士館教育総合改革検討委員会 ……
1137
- 国士館教養文庫 …… 559
- 国士館憲則 …… 293
- 『国士館高校新聞』 …… 686～689、1049
- 『国士館広報』 …… 625、628、636、649、
650、672、696、706、761、775、776、
803、810、825
- 国士館コミュニケーションフェア ……
1099
- 国士館GP（教育・研究支援プログラム）
…… 1096
- 『国士館史学』 …… 488、990
- 国士館地固め …… 57
- 国士館資料室 …… 797、869、1149
- 国士館史資料室 …… 298、569、1149
- 国士館実務学校計画案 …… 133
- 国士館出版部 …… 92、455、456、559
- 国士館巡回夏季講演会 …… 51
- 「国士館商業学校要覧」 …… 175
- 国士館上棟式 …… 57、70、143、418、
419、427
- 国士館新計画 …… 134、135、197、201
- 国士館新築記念号 …… 59、80
- 国士館新築趣旨 …… 56
- 国士館新築発起人会 …… 56
- 『国士館人文科学論集』 …… 1026
- 『国士館人文学』 …… 990

792、964、981
 研究条件整備部会（高革審） …… 822～824
 研究助手 …… 676、812、1089、1090、1112
 研究所長 …… 764、822、911、972、1122、1144
 研究所長会 …… 881
 『研究成果報告書』 …… 1035、1036、1097
 研究図書部（大民） …… 103
 健康運動実践指導者資格 …… 808
 健康管理室 …… 1088、1144
 健康福祉医療デザイン学科（構想） …… 958
 建築CAD検定 …… 962
 建築基準適合判定資格者検定 …… 962
 建築士 …… 962
 建築施行管理技士 …… 962
 剣道部（大民） …… 37、39
 剣道部関西武者修行 …… 163
 言道大会 …… 493、577、604、606、685
 兼任教員 …… 204、213、474
 「玄洋社々史」 …… 40

【こ】

講演会 …… 7、35、51、84、100、101、113、114、242、292、445、458、488、489、533、663、724、779、793、811、825、848、956、973、982、983、997、1020
 講演部（大民） …… 37、39、103、105
 公開講座運営委員会 …… 892
 公開ヒアリング …… 533
 『工学研究科教育・研究活動紀要』 …… 1007
 『工学部紀要』 …… 469、965、1007
 『工学部三〇年誌』 …… 965
 工学部の将来を考える会 …… 1004
 『工学部便覧』 …… 464、467、560
 『工学部四〇年誌』 …… 965

「講義要項」 …… 827、1082
 工業高等専門学校（構想） …… 459、588
 航空科（構想） …… 318
 航空工学科（構想） …… 519
 剛健遠足 …… 163
 高校・中学教員協議会 …… 640
 『考古学研究室報告』 …… 488
 興国青年大演習 …… 287
 『校史』 …… 371、376、382、383
 校史資料室 …… 723、869
 校章 …… 9、77、78、82、309、310、633、686、866、867、1147、1154
 『向上』 …… 86、87
 『公職追放に関する覚書該当者名簿』 …… 390
 厚生課 …… 631、779
 高拓会 …… 246
 『高拓会々報』 …… 246
 高拓生 …… 76、242～246、714
 校地拡張記念秋季大運動会 …… 132、147、325
 校長 …… 11、31、120、125、134、135、142、148、154、156、157、162、165、169、171～173、176、177、186、187、192、197、198、206、207、210、218、225、229、233、234、238、240、244、247、261～264、266、269、270、272～275、278～281、289、305、306、310、315、318、320、340、344、353～355、359、360、362、364、365、368、373、375～377、380、382、388、389、418、547、548、585、586、594、599、601、603、604、606、611、616、623、625、626、680、681、691、708、734、753～755、763、843～845、847、849、852、857、863、914、1047、1056、1063、1085、1131、1132
 校長事務取扱 …… 156、157、207、218、262、280、289、359、376、380、585
 高等学校運営規程 …… 586
 高等学校学則 …… 594、757、759

教養部事務室 …… 654
教養部設置研究会 …… 651
教養部長 …… 554、626、652、654、
660、697～700、755
『教養論集』 …… 653
『極東国際軍事裁判関係資料集成』 ……
536、972、1150、1152
極東国際軍事裁判研究プロジェクト ……
972、1150、1152
『極東国際軍事裁判審理要録』 …… 972
『霧分け 卒業記念誌』 …… 383、384
緊急学生監会議 …… 637
緊急教職員大会 …… 262、272
近代化委員会 …… 339、344～346、532、
554、562、563、568、576、580、586、
615、617～622、624～627、630、631、
633～635、643、649、652、667、668、
680～683、691、695、697、705、734、
746
近代化委員会規程 …… 618、694

【く】

『クーイング (KUing)』 …… 1100
KUTIS …… 667
『愚者物語』 …… 47
楠本文庫 …… 535、536
『楠本文庫漢籍目録』 …… 536
『楠本正継先生中国哲学研究』 …… 536
熊本支部 (大民) …… 113～115
『熊本大民』 …… 114
「組合ニュース」 …… 640
『クラブ&サークルガイド』 …… 881
『グラフ国士館』 …… 568
クラブ部長 (監督) 連絡会 …… 766、767
ランドデザイン策定委員会 …… 915、
1075、1076
『グローバルアジア研究科論文抄録集』
…… 1036
グローバルビジネスプログラム ……
941、1034
訓育 …… 211、226、307、343、550、

551、556、557、561、602、630、633、
634
軍楽班 …… 326
訓話 (館長訓話、総長訓話) …… 47、
150、343、382、414、422、452、459、
473、495、557～559、563、603、620、
627、634、637
『訓話資料 憲法』 …… 559
『訓話資料 吉田松陰附録井伊大老』 ……
559
『訓話の栞 修証義・山上の垂訓』 ……
559

【け】

K-Improve …… 1062、1063
経営学検定 …… 995
経営学部設置準備委員会 …… 993
『経営経理』 …… 981
『経営研究所紀要』 …… 981、997
経営問題調査研究会 …… 762
『経営論叢』 …… 997
『経済学原理』 …… 536
『経済研紀要』 …… 982
軽車隊 …… 326
経理課 …… 641、769
『経理研究』 …… 344、533、629、662、
768、981、997
経理室 (本部経理) …… 549
経理部 …… 623、625、650、710
建学の趣旨 …… 555
建学の精神 …… 77、290、452、474、
483、494、495、527、557、563、614、
640、764、765、783～785、791、793、
817、876、887、932、1080、1150、1153
研究科委員会 …… 505、506、629
研究科委員長 …… 509、510、554、766、
822、911、1003、1005、1007、1010、
1017、1019、1024、1032
研究科長 …… 752、1003、1028、1037、
1144
研究機関検討委員会 …… 768、769、

- 教育課程 …… 377、379、587～589、
592、599、683、825、843～846、932、
989、1056、1064、1070、1081
- 教育協議会（高等学校） …… 586
- 教育後援会 …… 1125、1142
- 『教育後援会だより』 …… 1125
- 教育条件整備部会（高革審） …… 822～
825、829
- 教育組織協議会 …… 831
- 教育部（大民） …… 105
- 教員会 …… 629、697、698、747、750、
751、756
- 教員組合 …… 345、553、638～640、
643、696、699、702、710、722、734、
750、751、756
- 『教員組合広報』 …… 639
- 『教員組合二〇年史』 …… 553、639
- 『教員組合の歩み』（二〇年誌） …… 639
- 教員専修免許 …… 819、1007、1023、
1024、1041、1042
- 教員一種免許 …… 819、1041、1024
- 『教員日誌』 …… 380～382
- 教員無試験検定 …… 10、205、209、
210、212、214、215
- 業界研究フェア …… 1111
- 教学事務 …… 549、622、623、625、
695、738、747、762、778、916、917、
1092
- 教学組織 …… 344、548、549、552、
624、625、779、816、822、828、876、
877、882、886、1137、1144
- 強化クラブ …… 879、941、1112、1114、
1116、1118
- 教科主任 …… 586、680、683
- 教科主任会議（高等学校） …… 586、680
- 教授会 …… 201、344、345、406、437、
490、544、552～554、619、624、626、
627、629、639、652、697～709、724、
733、756、759、764、765、807～811、
827、829、832、878、881、883、884、
891、892、906、907、911、924～926、
929、930、944、945、957～959、966、
967、970、976、988、992、1009、1013、
1019、1023、1072、1091、1104
- 「教授会開催要望書」 …… 703
- 教職員会議（高等学校） …… 586、680、
750
- 教職員組合協議会 …… 640、699、702、
704、706、750、751
- 教職支援室 …… 1085
- 行政コース（構想） …… 786、978
- 教頭 …… 176、375、376、594、595、
599、680、681、691、751、1132
- 『今日のイタリヤ』 …… 298
- 鏡泊学園鏡友会 …… 258
- 『鏡泊学園調査報告書』 …… 257
- 「鏡泊学園の歌」 …… 255
- 「鏡泊学園防備計画」 …… 252
- 『鏡泊誌』 …… 257、258
- 教務事務電算化作業委員会 …… 745、
905
- 教務主任 …… 627、629、652、680、
683、789、829、831、833、891、892、
1009
- 教務主任会 …… 789、829、1009
- 教務助手 …… 1090
- 『教務必携』 …… 683～685、691
- 教務部 …… 623、762、773、774、779、
816～818、833、883、892、899、900、
905、906、910、1005、1090、1092、
1096、1100、1106
- 教務部長 …… 586、651、701、765、
774、822、833、841、893、905、910、
913、914、1125
- 「業務分担表」 …… 550
- 教諭一級免許（一級普通免許） …… 434、
453、458、468、474、480、486、490、
503
- 『鏡友会創立六〇周年記念誌』 …… 258
- 教諭仮免許 …… 434
- 教諭二級免許（二級普通免許） …… 434、
453、458、468、474、480、486、487

125、126、165、166、254、294、396、
397、618、641、710
監事 …… 57、61、63、104、111、139、
173、187、267、269～271、294、389、
409、615、695、734、748、751、755、
1092
館長 …… 68、79、92、121、125、142、
147、150、153、174、187、205、244、
263、288、293、306、308、310、329、
330、343、389、409、473、494～496、
524、531、548～552、554～561、564、
565、567、574、578、595、600、602、
603、610～612、615、624、631、637、
641、680、724、734、738、753
館長代理 …… 550、595、602、615
『官報』 …… 89、140、173、184、212、
213

【き】

企画調査室 …… 755、761、762、774、
779
危機管理学部（仮称）検討委員会 ……
1076
危険物取扱者 …… 963
起工式 …… 57、469、478、590、1140
機甲隊 …… 326
寄宿舎 …… 9、57、58、66、68、70～
73、77、81、82、85、89、135、136、
160、161、200、201、207～209、211、
216、219、223、225、226、228、245、
249、261、285、287、307、308、327～
331、478、526、575
技術士 …… 962
技術士補 …… 963
技術職員 …… 463、470、626、787、
792、1089、1090
気象予報士 …… 963
「雉救林火」 …… 398、399、420
kiss …… 742、911、916、917
貴重書 …… 535
記念事業委員会 …… 1144～1148、1150

「記念事業募金報告書」 …… 1133
記念誌編纂事業 …… 869、870、1149
記念誌編纂プロジェクト …… 869
記念樹 …… 286
記念論集 …… 943、991
寄附行為 …… 61、80、135、139、140、
172、173、197、200、233、238、262、
267、275、277～280、282、283、340、
341、350、351、368、388、389、405、
408、423、435、436、438、462、471、
477、478、501、548、585、587、708、
735、753、755～758、760、761、959、
967
寄附行為施行規則 …… 757、758、761
寄附講座 …… 971、980、997
寄付者芳名録 …… 1133
基本情報技術者 …… 964
キャップ制 …… 1081、1082
キャリア教育 …… 637、972、981、997、
1074、1083～1085、1088、1109、1110、
1136
キャリア形成支援センター …… 894、
979、980、1076、1085、1109、1110
キャリア支援課 …… 1110
『キャンパスガイド』 …… 881
キャンプ実習 …… 492
救急救命士 …… 809、810、944、946～
948、1022、1036、1037、1039、1090、
1123
救急保健学科（構想） …… 810、875、944
『弓道上達法』 …… 215
給費生 …… 180、571
給費制度 …… 66、1105
救命健康学科（構想） …… 809、810
給与課 …… 779
旧寮 …… 528、529
教育改善会議（高等学校） …… 1047、
1049
教育学部（構想） …… 459、460、467、
476
『教育学論叢』 …… 488、990

- 学部・学科等改編整備検討委員会 ……
1075、1077
- 学部学科等設置準備室 …… 929、1076
- 学部学科等設置申請事務課 …… 1076
- 学部事務室 …… 627、629、630、634、
738、767、779、788、882～886、906、
1086、1088、1092、1093、1141
- 学部将来計画検討委員会 …… 956
- 学部代表教授 …… 626
- 学部長 …… 345、445、552、554、626、
627、634、697～704、706、710、735、
751、752、755、765、809、812、822、
825、831、875、911、933、951、958、
959、972、976、978、993、994、1013、
1023、1028、1030、1107、1132、1140、
1144
- 学部長会 …… 623、625、628、707、
803、809、829、831、832、876、883、
907、945、958、967、1104、1106、1110
- 学部フォーラム …… 1030
- 学務課 …… 779、905、1106
- 学務部 …… 623、625、650、762、1106
- 『革命は如何にして起こるか』 …… 611
- 学友会 …… 163～165、192
- 学寮規定 …… 526
- 鹿児島支部（大民） …… 112～114
- 学科課程 …… 9、13、58、65、66、83
～85、148、154、163、174、175、178、
179、181、183～186、203、216～218、
234、235、239、240、243、247、248、
252、351、352、362、369、370、372、
374、375、378～380、411～414、428、
436、439、440、444、451、457、463、
466、467、472、479、480、483、491、
492、508、509、545、553、557、561、
576、592、593、627、630、657、658、
671、934、939、968、983、994
- 学科主任 …… 629、946、948、952、
967、988
- 学科等設置準備委員会 …… 929、1075
- 滑空班 …… 326
- 『学校案内』 …… 239、599、686、688、
689、849、850
- 学校報国隊 …… 304～307、319～321
- 学校法人国士館 …… 16、405、408、
427、456、587、716、749、756～758、
852、914、1133、1135～1137
- 学校法人至徳学園 …… 387、395、404、
408、413、585
- 『学校要覧』 …… 587
- 『活青年』 …… 37
- 「門出の歌」 …… 241、242
- 神川文庫 …… 535、536
- 借上寮 …… 528
- カリキュラム …… 702、733、739、783、
785～787、790、793、794、797、798、
808、818、823～827、829～833、879、
899、924、928、934、938～944、946、
948～950、954、957、959、964、970、
971、975、977、979、980、984、986～
989、992～994、996、1006、1008、1010
～1015、1018、1021、1029、1035～1038、
1051、1063、1070、1071、1081～1084、
1102、1134、1137、1139
- カリキュラム検討委員会 …… 797、818、
823
- カリキュラム調整会 …… 959
- 仮校舎 …… 143、416、591
- 館歌（国士館々歌） …… 9、36、77～79、
82、125、159、242、560、562、559、
684、852、1153
- 『漢学紀要』 …… 489、990
- 漢学研究会 …… 489
- 館旗 …… 309、310、438
- 環境計量士 …… 963
- 寒稽古 …… 163、558、685
- 「関係諸先生の御批評」 …… 127
- 頑固会 …… 36
- 頑固倶楽部 …… 7、35、36、101
- 頑固茶話会（茶話会） …… 7、35、36、
87、90、101、103、112、152、153、308
- 幹事 …… 69、75、83、104、105、113、

463、472、480、482、934、941、946、
949、953、960、968、977、995、1035、
1070
 学術研究支援課 …… 1095～1098
 『学術研究年報』 …… 1097
 学術交流協定校 …… 741
 学術国際課 …… 761、762、770、864、
899、900、1096
 学術情報リポジトリ …… 911
 学生課 …… 43、549、550、630、631、
779
 学生会議 …… 750
 学生係 …… 552、767、787、788、792、
883、884、1088、1093、1107
 学生監 …… 273、343、550～553、558、
561、562、565、579、617～619、623、
625、627、630～633、637、638、641
 『学生監一般業務の参考』 …… 551
 学生教育管理事務電算化大綱計画 ……
904
 学生協議会 …… 750
 学生・厚生課 …… 779、879、885、1141
 『学生心得』 …… 563、565、624、631
 学生指導委員会 …… 629、630、667、
668
 学生主事 …… 218、308、552、625、
630、633、634、767、787、788、792、
883、884、1088、1093、1107
 学生主任 …… 627、629、668、806、
881、1107
 学生主任会 …… 881
 『学生生活のしおり』 …… 631
 学生相談室 …… 629、885、1088
 学生隊 …… 307、308
 学生部 …… 549、575、623、625、630、
631、635、637、660、667～672、704、
710、738、765～767、779、790、797、
812、817、822、858、879、883、1107、
1108、1112、1114
 学生部長（学生部部長） …… 668、669、
710、765、822、824

学生募集課 …… 1106
 学生補導班 …… 668
 学生寮 …… 341、459、517、518、526、
527、529、530、623、634、792、805、
806
 『学生論集』 …… 943
 学則変更 …… 176～178、186、214～
217、220、221、243、248、307、308、
312、313、351、357、359、361、380、
440、451、589、590、595、596、598、
652、655、658、763、820、877、878、
942、957、959、964、970、971、975、
976、979、986、1052、1054、1055、
1057、1059、1060、1082
 学長 …… 64、68、69、71、81、84、
125、142、289、343、344、389、406、
411、414、421、422、429、437、439、
442、449～451、454、458、465、472、
489、502、508、521、532、535、547、
548、552、553、586、611、612、623、
625、626、635、701、708、733～736、
751、753、754、758、762～764、766、
771、773～775、795、798、802、806、
809～812、817、818、822、823、825、
826、829、831、857、863、869、870、
875、876、879、880、882、886、897～
899、901、903、905、907～910、912～
914、916、917、927、928、930、944、
958、964、981、988、992、993、1004、
1047、1072、1075、1077～1079、1091、
1092、1099、1107、1108、1131、1132、
1137、1144、1153
 「学長就任に対する決議録」 …… 553
 学長選挙 …… 735
 学内意向聴取 …… 1092
 学内公募型競争的資金 …… 1096
 学内諸問題対策委員会 …… 345、346、
670、691、703、707～710、746
 学内理事懇談会 …… 1139
 学年主任 …… 586、604、683
 学年担任 …… 1088、1107

FD (Faculty Development) …… 742、
895、1035、1070、1074、1076～1079、
1081、1086、1088、1091
FD委員会 …… 1078、1079、1081、
1086、1088、1091
『FD委員会二九年度活動報告書』 ……
1078
『FDシンポジウム』 …… 1078
FD推進課 …… 1079
FD推進室 …… 742、1076、1078、1079
FDポリシー …… 1078
ME技術実力検定 …… 963
演劇 …… 383、605
演習担当者会議 …… 553
遠足 …… 382、685

【お】

おいでな祭 …… 847～849
応用スポーツ研究科（構想） …… 809、
1019
大太鼓 …… 72、147、226、227、422
オープンキャンパス …… 939、1101、
1102
緒方先生一年祭 …… 429
OPAC …… 742、916
オフィシャルマーク …… 866、1147
オフィシアワー …… 1088、1134
思いやり会 …… 27
オリエンテーション …… 488、753
音楽会 …… 493

【か】

海外協定校 …… 741、865、901～904、
1152、1153
海外研修 …… 741、828、903、936、
938、980
海外事業小委員会 …… 773、774、898
海外事業適正化委員会 …… 769、772、
773
海外支部 …… 345、712、713、722、769
～771、774、777

改革・改善検討会（経営学部） …… 993
開学記念式典 …… 478、559、560
開学式 …… 410、411、442、443、454、
455、465、507、508
会計課 …… 779
会計部（大民） …… 105
開校式（開餐式） …… 46、48、135、141、
173、174、198、220、521、806、842、
943
介護福祉士 …… 737、840～843、845、
850
開所式 …… 309
開設記念剣道大会 …… 517
『懐中日記』 …… 57
回天剣友会 …… 1126
「会報」 …… 494、527、548、549、565、
660、695、696、754、956
『会報録』 …… 549
海洋班 …… 326
Kaede-i …… 917
楓会館（構想） …… 796、798、856、860、
864、908
KAEDEネット …… 741、909
楓の会 …… 1065
課外活動指導委員会 …… 669、670、
706、766、767
『輝く湖畔』 …… 256
夏季講習会 …… 90、91、106、286
夏季文武講習会 …… 286、287
『学園々報』（鏡泊学園） …… 257
学園記念日（創立記念日） …… 8、153、
244、288、494、559、560、580、594、
604、632、1150
学園祭 …… 344、580、632、642、685、
687、1146、1147
学園葬 …… 610、611
学園封鎖 …… 734、753
学監 …… 68、71、83、220、229、258、
265、281、289、375
学際コース …… 957
学士（学位） …… 39、434、439、451、

事項 【あ】

IR課 …… 1092
IT短期・中期計画案検討プロジェクト ……
912
『IRデータブック』 …… 1092
ITスタッフ …… 910、911
IT政策会議 …… 742、913、915
IT戦略委員会 …… 909
IT戦略会議 …… 742、910～915
『アカデミア叢書』 …… 896
アカデミックアドバイザー …… 960
アカデミックアドバイザー・ポートフォリオ
…… 1087
アジア学部（構想） …… 880、926～931
アジア産業科（構想） …… 424、928
『Asia Japan Journal』 …… 931
『亜細亜時論』 …… 41
Asia21 Festa (Asia21) …… 938
アセスメント・ポリシー …… 1087
『アドミッションズ・オフィス入試ガイド』
…… 1104
『アマゾン産業研究所月報』 …… 242
「アマゾン産業研究所の歌」 …… 241
ALC Net Academy …… 913、1086
『AL-TAR1 EXCAVATIONSIN IRAQ』
…… 663

【い】

e-learning …… 742、897、912、913、
1086
『委員会だより』 …… 864
意識調査 …… 533
『石の上にも六十年』 …… 614
一法会法学研究会 …… 577
一枚岩論 …… 547
一成塾OB会 …… 1126
一般計量士 …… 963、964
『移転の手引き』 …… 806
IVUSA（NPO法人国際ボランティア学生協

会） …… 1117
『いま、介護の在り方を考える』 …… 982
医務室 …… 549
イラク・エジプト武道友好使節団 ……
717
医療情報技士 …… 963
慰霊碑 …… 258
印刷室 …… 779
インテリアプランナー …… 962

【う】

Webシラバス …… 1082
運営委員会 …… 629、635、666、701～
703、790、860、863、864、866、868、
869、876、892～894、896、906、907、
917、1121
運営委員会（高等学校） …… 586
運営協議会 …… 906、907
運営組織 …… 68、100、104、275、277、
278、280、343、548～550、586、621～
626、629～631、635、639、670、680、
683、692、695、697、710、736、737、
746、761、762、798、906、907、1079
運転免許 …… 521、522、801
運動会 …… 132、147、148、325、326、
363、490、492、604、685
運動クラブの在り方検討委員会 ……
1111

【え】

英語村 …… 904
AJフォーラム …… 931
AO入試 …… 1083、1103、1104
『ACTA SUMEROLOGICA』 …… 664
『A・Jレポート』 …… 931
SD (Staff Development) …… 1074、
1079
NPO法人多摩ウエルネスセンター ……
1121、1122
荏原郡西部六カ町村 …… 120、169、171
～173、178、180、187、188、191

- 発明部 (物理・化学) …… 164
- バドミントン部 …… 577、671、688、
849
- バレーボール部 …… 441、576、607、
671、688
- ハンドボール部 …… 577、671
- 美術部 …… 577、688、689
- フェンシング部 …… 577、671
- 武士道連合会 …… 670
- 文芸部 …… 164、577
- 弁論部 …… 72、192、577
- 放送部 …… 577、688
- 報道部 (報道研究会) …… 455、577
- ボーイスカウト (青年隊) …… 577
- マンドリン研究会 …… 577
- 模型同好会 …… 688
- 野球部 …… 382、383、515、530、576～
578、606、661、671、676、688、807、
849、1064、1065、1116
- 野球部 (高等学校) …… 382、383、515、
530、578、606、661、807、1064、1065
- 大和皇親会 …… 670
- 謡曲研究会 …… 577
- 謡曲部 …… 227
- 落語研究会 …… 688
- ラグビー部 …… 576、607、671、675
- ラジオ部 …… 605
- 陸上競技部 …… 441、576、578、671、
673、688、1116、1151
- 陸上部 …… 164、528、689
- 輪光会 …… 227
- レスリング部 …… 529、576、607、671、
675、688、807、1151
- ロシア研究会 …… 577

- 吟詠部 …… 227
 軽音楽部 …… 688
 原動機研究会 …… 577
 剣道部 …… 72、163、164、324、421、
 441、528、529、576、578、606、671、
 673、688、689、720、849、880、881、
 1115、1126、1151
 言道部 …… 577、578、604、606、688、
 689
 後期中等教育研究会 …… 577
 皇国塾（皇国会） …… 670、706
 皇道研究会 …… 577
 講読討論研究会 …… 577
 国際ボランティア部 …… 1116、1117
 国際問題研究部 …… 577
 国士会 …… 83、229
 国士館精神研究会国心会 …… 670
 国士拳（千唐会） …… 670
 国士連合会 …… 670
 国防研究部 …… 670、706
 国防部 …… 605、670、706
 座禅会 …… 577
 サッカー部 …… 441、576、607、671、
 674、688、849、881、1064、1115、1151
 茶道部 …… 567、577、849
 山岳部 …… 606
 参禅会 …… 227
 史学研究会 …… 577
 詩吟部 …… 577
 思想研究会 …… 577
 自動車工業研究会 …… 577
 自動車部 …… 493、521、577、688
 射撃部 …… 577
 写真部 …… 605
 蹴球部 …… 164
 柔道部 …… 72、164、441、455、529、
 576、578、606、671、672、688、689、
 1064、1114、1118、1126、1151
 重量拳部 …… 577
 準硬式野球部 …… 671、676
 杖道部 …… 577
 乗馬部 …… 227
 少林寺拳法部 …… 766
 昭和維新会 …… 670
 書道研究会 …… 577
 書道部 …… 227、1065
 シンクロナイズドスイミング部 ……
 1116
 新体操部 …… 671、674
 新聞部 …… 455
 水泳同好会 …… 688
 水泳部 …… 529、576、671、675、689
 吹奏楽部 …… 495、688、721
 スキー部 …… 576、671、688
 スケート部 …… 577、671
 スポーツ新聞部 …… 880
 相撲部 …… 72、441、529、576、671
 政治研究会 …… 577
 ソフトボール部 …… 577、671、675
 体育研究部（野外活動部） …… 671、672
 体育部 …… 72、73
 大学硬式野球部 …… 578、661、671、
 676、688、1116
 体操競技部 …… 578、579、671
 体操同好会 …… 688
 大日本国士拳 …… 670
 大日本国友会 …… 670、706
 卓球部 …… 576、671、689、849
 短歌研究会 …… 227
 短歌部 …… 577
 ダンス部 …… 577、671
 鉄道同好会 …… 688
 庭球部 …… 577
 テニス部 …… 671、688、689
 読書研究会 …… 577
 徒手体操部 …… 577、578、672
 図書部 …… 72、103、534
 薙刀部 …… 576、577
 軟式野球部 …… 577、688
 日本拳法部 …… 688、691、704、706
 バスケットボール部 …… 441、576、
 607、671、688

柔道場（九号館内） …… 518
 準備室 …… 479
 資料室 …… 298、723、724、797、869、
 1149
 診療室 …… 575
 スカイラウンジ …… 1140
 図工実習室 …… 491
 スポーツパフォーマンスセンター ……
 744、954、1143
 ゼミ室 …… 788
 体育館 …… 401、406、426、427、429、
 433、442、443
 第三剣道場（第三体育館内） …… 660
 第三柔道場（第三体育館内） …… 660
 大食堂 …… 479、516、530
 体操場 …… 805
 多目的フロア …… 805、1142
 地下食堂 …… 633
 調理実習室 …… 491
 鶴川練成場 …… 309、391、514
 テニスコート（八号館屋上） …… 689
 図書室（専門学校校舎内） …… 534
 図書室（正気寮内） …… 381
 図書室（図書館、旧柔道場内） …… 357、
 534
 図書室（図書館、五号館内） …… 534
 大学院図書室（六号館内） …… 617、619、
 703
 図書館（一〇号館内） …… 479、496、
 535、869
 図書館分室（九号館内） …… 537
 図書室（一三号館・一四号館内） …… 658、
 660
 鶴川図書館（鶴川分館） …… 537、660、
 858
 鶴川図書館（鶴川メイプルホール内） ……
 789、856、859、908、909、1088、1143、
 1146
 多摩図書館 …… 805、1088、1144、1146
 図書室（太宰府校舎） …… 525
 トラック（世田谷校舎） …… 426、427

トラック（多摩校舎） …… 805
 トレーニングルーム …… 744、805、
 954、1143
 売店 …… 479
 ピアノ練習室 …… 490、987
 ピアノ室（一・二号館内） …… 530
 被服室 …… 491、660
 フィールド（世田谷校舎） …… 426
 フィールド（町田校舎） …… 1089、1143
 フィットネスセンター …… 1089、1142
 プール（MCH内） …… 1089、1142
 模擬法廷室 …… 971
 浴室 …… 479
 ラーニングコモンズ …… 859、1074、
 1088、1143、1144、1146
 理科実験室 …… 490
 臨床実習室 …… 807
 レスリング道場 …… 805

クラブ・課外活動

合気道部 …… 529、577
 アジア研究会 …… 577
 囲碁・将棋同好会 …… 688
 ウェイトリフティング部 …… 671
 英会話研修部 …… 577
 映画研究会 …… 577
 応援団 …… 493、668、670、706
 応援部 …… 577、616
 音楽部 …… 577
 会計学研究会 …… 577
 海洋部 …… 605、606、689
 科学研究会 …… 1065
 学芸部 …… 164
 華道部 …… 567、577
 空手同好会 …… 688
 空手道部 …… 577、671、1116、1126
 機械工作部 …… 688
 器械体操部 …… 441、576
 企業経営研究会 …… 577
 騎道部 …… 606
 弓道部（弓術） …… 72、214、577

清節寮 …… 528、529、635、741、900
第一成蹊寮 …… 209、225
大学ゲストハウス …… 528、741、900、
901、903
第二成蹊寮 …… 209、225
多摩球心寮 …… 807
男子寮 …… 528
常盤寮（旧山田悌一邸） …… 258、422、
526、528
図南寮（斗南寮） …… 223
富士見寮 …… 528
望岳寮（望嶽寮、鶴川寮、一二号館） ……
516、529、530、628、635、657、659
明誠寮 …… 209

海外支部関連

アメリカ合衆国教育法人国士館 …… 719
アメリカ支部 …… 770
サンフランシスコ支部 …… 711、719、
770
シカゴ支部 …… 719
ニュージャージー支部 …… 719
ニューヨーク支部 …… 711、719
フロリダ支部 …… 711
米国西部連絡支部 …… 711
アラブ・アフリカ支部 …… 717、770
カイロ支部 …… 770、771
国士館カイロ武道センター …… 718、
722
日本武道センター国士館 …… 718、770
オセアニア支部 …… 719、769
サンパウロ支部（サンパウロ分校） ……
714、715、772
ベレン支部 …… 714、715
ブラジル支部 …… 714、771、772
ブラジル国士館大学協会 …… 715、722、
771、772
パラ国士館大学協会 …… 715、771
武道体育館（サンパウロ支部） …… 715、
716、772
国士館大学スポーツ・センター（旧サンパウ

ロ支部） …… 772
フランス支部（パリ支部） …… 720

施設・設備

アリーナ …… 805、806、861、1142
医務室 …… 549
階段教室 …… 525、838
学生研究室 …… 533、981
学生食堂（カフェテリア） …… 288、530、
575、576、788、862、1154
格納庫 …… 518
館長室 …… 343、549、551、624、724
寄宿室 …… 208
教員室 …… 411、479、601
教室 …… 122、136、143、144、157、
161、199、200、208、219、330、331、
339、342、356、357、361、362、370、
381、406、411、419～421、433、442、
454、479、516、518、520、525、543、
544、561、603、647、655、658、660、
736、788、805～807、821、827、987、
988、991、1055、1057、1087、1141、
1142
教務部電算室 …… 905
研究室 …… 122、420、454、471、479、
488、530、533、648、660、736、788、
826、827、909、981、987
研修室 …… 481、724
剣道場（一〇号館内） …… 479、558、
561、610、684、751、752、821、864、
1099
購買部 …… 575
茶道実習室 …… 933
自動車学校（自動車練習所） …… 521、
522、628、661、801、805
事務室 …… 200、421、442、479、549、
601、625、627、629、630、634、683、
738、767、774、779、788、792、862、
882～885、906、1088、1092、1108、
1109、1131、1141
柔道場（六号館内） …… 454、558、561

一六号館 …… 789、858
 三〇号館 …… 933、934、952
 鶴川メイプルホール …… 515、538、
 736、857、859、1101
 鶴川剣道場（第二剣道場） …… 517
 鶴川柔道場（第二柔道場） …… 517
 第三体育館 …… 660
 第四体育館 …… 660、661、1102
 鶴川野球場（グラウンド、野球場） ……
 515～518、530、580、606、659、661
 屋内野球練習場 …… 1143
 屋外プール …… 661、860
 サッカー場 …… 517、518、659
 テニスコート …… 518、661
 弓道場 …… 517、659
 中央広場 …… 743、1089、1143
 合宿所 …… 515
 大浴場 …… 516、530
 国旗掲揚塔 …… 661
 東門 …… 518、531、750、752
◆校舎（多摩）
 教室・管理棟 …… 736、805、857、1144
 教室・研究棟 …… 806
 教室・実習棟（スポーツ医科学科棟） ……
 807、946
 体育館棟 …… 805、806、857
 武道棟 …… 805、806、857、860、864
 相撲道場 …… 807
 食堂棟 …… 805、857、1144
 セミナーハウス …… 633、661、801、
 1143
 メイプルセンチュリーセンター多摩 ……
 744、954、1089、1143
 管理A棟 …… 807
 管理B棟 …… 807
 管理D棟 …… 807
 陸上競技場（グラウンド） …… 521、522、
 736、789、805、807、857
 野球場 …… 661、801
 ラグビー場 …… 736、789
 テニスコート …… 807

多目的グラウンド …… 736、807、1143
 救助実習訓練塔 …… 946
 防災ダム …… 661、662
 調整池 …… 661、662
◆校舎（太宰府）
 管理棟（教室棟） …… 525、662、664、
 838、842
 実習棟 …… 737、841、842
 体育館 …… 525、836、847、852
 グラウンド …… 525、838、839、852

寮・寄宿舎（音順）

維新寮 …… 209、225
 一般寮 …… 628、631、634、635
 回天寮（第二寄宿舎） …… 70、73、161、
 207、209、225、422
 楓寮 …… 528、628、635
 菊寮（高等学校野球部寮） …… 517、530
 旧館宅寮 …… 528、628
 錦楓寮 …… 528
 クラブ合宿寮 …… 628、631、634、635
 敬神寮 …… 528
 敬天寮 …… 208、225、307
 桜寮 …… 528、642
 時習寮 …… 11、201、225、307、328、
 330、357、361、362、421、478、526、
 528
 女子寮 …… 528
 殉国寮 …… 307
 松陰寮（二四号館） …… 528、628、635、
 806、1055、1057、1142
 尚綱寮 …… 70、71、73、77、161、207
 松柏寮 …… 528
 振武寮（旧食堂、体操部寮） …… 528
 水泳寮 …… 528、628、635
 すみれ寮（董寮） …… 517、530、531、
 1101
 青雲寮 …… 209、421、528、628、860
 正気寮（二号館） …… 11、136、200、
 208、225、307、328、357、381、526、
 528

- 363、376、407、426、427、442、465、
469、478、492、493、560、561、604、
685、718、736、789、860、861、988、
1050、1052、1142、1150
- 柔剣道場（道場兼雨天体操場） …… 9、
11、57、58、70、136、200、201
- 剣道場（屋内体操場） …… 201、328、
331、349、357、360、370、382、406、
420～422、478
- 柔道場（第一校舎、一号館） …… 201、
328、357、360、370、406、421、462、
469、526、534、537、589、590
- 弓道場 …… 215、328、433、517、659
- 第二剣道場 …… 328、517
- 国士神社 …… 227、288～290、328、839
- 景松塾（国士館景松塾） …… 289～291
- 正門 …… 200、315、420、421、447、
531、558、562、565、613、632、736、
750、752、796、861、1053、1151
- ◆校舎（世田谷・戦後）
- 一号館（建学の森会館） …… 422、528、
738、862、877、883、885
- 三号館（短期大学校舎、青雲寮） ……
399、411、418～421、427、428、528、
601、642、736、788、796、860
- 五号館（体育学部校舎） …… 357、381、
436、438、442、443、528、534、589～
591、619、736～738、750、827、860～
862、883～885、1092、1141、1151
- 六号館 …… 70、288、454、455、474、
508、558、560、591、617、619、639、
736、827、860、981
- 七号館 …… 462、463、465、466、469、
533、575、666、742、907、964
- 八号館 …… 71、201、290、422、462、
463、469、528、534、575、576、590、
591、595、597、599、602、633、666、
687、736、827、860、964、1052、1108、
1109、1125、1147、1154
- 一〇号館 …… 70、477～479、535、558、
561、610、620、684、736、751、752、
821、827、860、864、882、885、964、
972、987、1099
- 二四号館（松陰寮・国士館高等学校東校舎）
…… 528、1055、1057、1058、1142
- 三三号館（教育棟） …… 743、951、971、
979、987、988、1076、1088、1102、
1138、1140、1141、1151、1152
- 中央図書館 …… 421、536、736、742、
788、792、856、858、860～862、907、
911、915、916、918、1151
- 第一体育館 …… 427、429、493、495、
528、796、860
- 第二体育館 …… 469、519、743、789、
964、1141
- 国士館大学地域交流文化センター ……
743、894、895、1138、1139
- メイプルセンチュリーホール（MCH） ……
743、964、988、1089、1141、1146
- ハイテク・リサーチ・センター …… 964
- 柴田会館 …… 528、642、724、752、
869、892、894、964、1099、1108、1125、
1139、1142
- 中学・高等学校校舎 …… 215、736、858、
860、1051、1052、1055、1142
- 体育・武道館 …… 736、858、860、861、
1142
- テニスコート …… 88、89、469
- プール …… 427、528、661、860
- 建学の森 …… 738、862、877、883、885
- ◆校舎（鶴川・町田）
- 九号館 …… 516～520、529、530、537、
576、656、657、659、660、743、859、
885、1077、1135、1142、1143
- 一一号館 …… 344、537、654、656、
657、660、858
- 一二号館（望岳寮、望嶽寮、鶴川寮） ……
516、529、1035、1101、1143
- 一三号館 …… 344、517、518、654、
656、658、660、858
- 一四号館 …… 344、491、518、654、
656、657、660、858、885、1143

校地・キャンパス

世田谷キャンパス …… 339、738、741、743、798、826、827、856、858、860～862、864、882、885、887、896、900、930、931、943、951、971、972、979、987、991、1076、1088、1092、1102、1104、1109、1132、1133、1138、1141、1142、1147、1150、1151、1154

世田谷校舎 …… 56、116、127、309、454、462、478、490、492、493、502、513、514、516、521、525～529、534、560、571、572、604、620、633、635、654、657、658、664、672、685、704、718、724、746、750～752、796、804～806、837、892、1051、1099、1141

梅ヶ丘校舎 …… 743、951、958、985、1133、1134、1138、1140、1141

世田谷校地 …… 53、57、58、61、63、69、71、74、85、86、90、123、142、168、200、249、258、329、339、341、478、513、528、657、659、736、786、788、793、796、802、804

町田キャンパス …… 309、339、743、744、801、952、1032、1076、1077、1142

鶴川キャンパス …… 738、743、798、826、856～858、885、891、923、925、926、928、931、933、938、939、951、952、971、979、983、987、1032、1035、1076、1089、1101、1102、1141、1142

鶴川校舎 …… 391、467、478、483、490、491、516～520、529、530、537、551、561、576、580、589、606、620、648、651、652、654、656～661、665、676、685、704、712、724、761、859、891、892、905、923

鶴川校地 …… 339、341、344、466、478、491、513～516、518、519、529、591、659、736、789、793、796、801～803

多摩キャンパス …… 339、514、522、

662、744、798、802、809、856～858、943、954、955、965、988、1019、1037、1089、1102、1120～1122、1132、1143

多摩校舎 …… 581、803～806、892

多摩校地 …… 633、659、662、736、801、805～807、1051

小野路校地 …… 339、341、344、520～522、659、661、801

多摩・小野路校地（小野路・多摩校地） …… 339、344、513、522、656、661、662、736、786、789、793、795、797、802～805、857、1004

太宰府キャンパス …… 850～852、1151

太宰府校舎 …… 524、526、628、664、758、761、796、837、839、840

太宰府校地 …… 341、344、513、523～526、659、662、737、787～789、794、836～841、851～853

国史館楓の杜キャンパス（楓の杜キャンパス） …… 744

校舎・建物（キャンパス別）

◆校舎等（世田谷・戦前）

本部棟 …… 71、87、89、328

大講堂（四号館） …… 9、11、57～59、63、68、70～72、77、82、89、91、92、96、97、101、124、130、135、147、152、161、172、173、198、219、227、242、244、254、268、269、274、281、286、291、325、328、330、349、353、355、357、360、370、398、399、411、418、420、422、478、558、610、613、685、1099、1146、1148、1151

館宅 …… 70～72、89、142、327、328、528、628、862

中学校校舎 …… 120、140、143、144、199、200、328、357、370

専門学校校舎 …… 136、157、199、200、219、240、328、420、534

グラウンド（運動場） …… 132、147、209、215、240、244、309、326～328、

1062～1065、1072、1098、1124、1131、
1132、1134、1137、1142

●国士館大学福祉専門学校

福祉専門学校 …… 524、526、737、836、
839、841～843、845～852、1058
介護福祉学科 …… 737、843、851

◆研究所（附置等）

日本政教研究所 …… 344、532、629、
662、713、764、768、769、982

電子計算機センター …… 344、470、
533、629、665、666、741、761、768、
788、790、792、793、797、817、904～
907、1099

イラク古代文化研究所 …… 344、662、
663、712、768、1030、1031、1094、
1120、1140、1152

武道・徳育研究所 …… 344、525、662、
664、713、747

アジア・日本研究センター …… 877、929
～931、938、943、1030、1031、1120

防災・救急救助総合研究所 …… 744、
896、913、955、1120、1122、1123、
1135、1136

情報科学センター …… 470、534、666、
741、742、768、790、792、797、817、
832、833、856、861、906～908、910、
914、915

生涯学習センター …… 637、742、876、
877、893～897、980、981、1110、1120、
1139、1140

ウエルネス・リサーチセンター …… 955、
965、1120、1123

図書館・情報メディアセンター …… 742、
915～917、1151

◆研究所（附属）

政治研究所 …… 533、982

経済研究所 …… 768、982

体育研究所 …… 445、665、768、809、
955、1019

理工学研究所 …… 470、662、768、964、
965、1004

比較法制研究所 …… 344、481、662、
663、768、972、1150、1152

最先端技術関連法研究所 …… 972、973

経営研究所 …… 553、768、981、997

21世紀アジア学研究所 …… 931、943、
1120

ハイテク・リサーチ・センター …… 964、
965、1008

◆研究所（その他）

安全保障研究所 …… 662、768

海外子女教育研究所 …… 662、768

経理研究所 …… 344、533、629、662、
768、981、997

宗教・文化研究所 …… 665、768、838

宗教研究所 …… 662、664、665、768、
838

スポーツ研究所 …… 662、768

総合経済研究所 …… 662、768、981

東西文化研究所 …… 662、768

ブラジル研究所 …… 662、768

◆学会

政経学会 …… 458、475、510、982、
1018

体育学会 …… 444、445、811、955

体育・スポーツ科学学会 …… 811、955、
956

法学会 …… 481、973

人文学会 …… 487、990

教育学会 …… 488、990

哲学会 …… 488、990

初等教育学会 …… 990

史学会 …… 488、990

東洋史学会 …… 488、990

地理学会 …… 488、990

漢学会 …… 488、990

国文学会 …… 489、991

21世紀アジア学会 …… 942

経営学会 …… 997

教養学会 …… 653

1024
 教育史・教育思想コース …… 1024
 グローバルアジア研究科 …… 740、931、
 938、941、1003、1030～1036
 グローバルアジア専攻 …… 740、
 1003、1033
 グローバルアジア研究専攻 …… 740、
 1033

●国史館短期大学

短期大学 …… 82、338～341、344、348、
 387、394、395、399、402～431、433～
 441、444、448、453～455、471、472、
 474、476、479、482、490、493、519、
 524、526、528、530、534、535、540、
 541、547～549、551、554～558、564、
 566、567、572、585、587、601、611、
 612、619、620、628、636、642、646、
 648、654～656、658～660、696、735、
 739、741、752、755～759、761、765、
 774、775、785～790、792～794、798、
 818～822、824、827、833、837、840、
 850、858、874、875、877、884、891～
 893、899、905～907、923～927、934、
 1058、1068、1069、1079、1098、1100、
 1101、1103、1108

国文科 …… 205、403、405、410～
 416、421、422、428、431、435、476、
 482、529、530、566、567、572、655、
 658、739、755、765、820、875、891、
 923、934、1108

経済科（二部） …… 405、408、410～
 416、422、428、430、431、435、453、
 454、471、472、474、549、572

体育科 …… 423、425～431、433～
 441、444

●高等学校

至徳商業高等学校 …… 373、374、377
 至徳高等学校 …… 359、370、373、377
 ～380、383、384、395、408、585
 全日制課程普通科 …… 377～379、
 383、585

定時制課程商業科 …… 373、379～
 381、585

国史館高等学校 …… 384、408、585、
 592、594、595、597、680、681、686、
 744、1057、1058、1065

全日制課程普通科 …… 589、592～
 598、683、684、686、690、737、1052、
 1060、1062、1063

工業科（工業に関する学科） …… 459、
 460～463、469、588～598、680、683、
 687、690、741、1050、1055

電気科 …… 461、589、590、592～
 594、596、741、1051、1061

機械科 …… 461、589～596、741、
 1051、1052、1055、1061

機械コース …… 595、596

自動車コース …… 595、596

土木科 …… 590、592～596

建築科 …… 590、592～594、596、
 741、1051、1061

全日制課程情報理数科 …… 741、
 1055、1056、1060

定時制課程商業科 …… 381、594、
 596、602、690、741、1053、1054

定時制課程普通科 …… 741、792、
 1050、1053～1055、1061

通信制課程普通科 …… 877、1055～
 1057、1059～1061

●中学校

至徳中学校 …… 340、357、359、368、
 371、374～376、379～381、383、384、
 389、408、585、598

国史館中学校 …… 368、370、408、411、
 419、425、455、469、492～494、548、
 550、555、559、563、565、578、580、
 585、587、591、597～602、604、612、
 638、640、680～685、687、689～692、
 696、737、741、744、751～753、755、
 756、760、774、777、787、789、790、
 792、794、796、798、800、856、861、
 881、904、915、988、1047～1053、1056、

- 832、833、907
- 国士館大学大学院
- 大学院 …… 501～511、555、587、611、
617、619、623、625、629、665、703、
738、740、741、744、752、756、757、
759、764、766、784～789、792～794、
798、804、809、811、818、875、877、
887、899、917、931、938、941、944、
955、966、971、985、992、993、1002～
1010、1012、1013、1018～1023、1025～
1028、1030～1032、1037、1039、1040、
1042、1090、1097、1101、1120、1121、
1137
- 政治学研究科 …… 448、474、501
政治学専攻 …… 501～504、507～
511、740、766、1002、1013、1039～
1041
- 経済学研究科 …… 448、501～504、
507、509～511、554、740、752、766、
1002、1012、1014、1015、1017、1039
～1041
- 経済学専攻 …… 502、504、507、
508
- 経営学研究科 …… 511、740、992、
993、1003、1012～1015、1017、1018
経営学専攻 …… 740、1003、1013～
1015、1018
- スポーツ・システム研究科 …… 445、
511、740、811、877、1003、1008、
1019～1022、1036～1038、1090、1116、
1118、1120
- スポーツ・システム専攻 …… 1021、
1022、1036
- スポーツ・教育システムコース ……
1019、1021
- スポーツ・トレーニングシステムコー
ス …… 1019、1021
- スポーツ・コーチングシステム ……
1019～1021
- 社会システムコース …… 1022
- 救急救命システムコース …… 1021、
1022、1036
- コンディショニングシステムコース
…… 1022
- スポーツ教育コース …… 1022
- スポーツ科学コース …… 1022
- 救急システム研究科 …… 740、1003、
1022、1036～1038、1090
- 救急救命システム専攻 …… 740、
1003、1037、1038
- 工学研究科 …… 511、740、965、1002、
1003、1005～1008、1012、1094、1096
- 機械工学専攻 …… 740、1003、1005、
1006
- 電気工学専攻 …… 740、1003、1005、
1006
- 建設工学専攻 …… 740、1005、1006
- 応用システム工学専攻 …… 740、
1003、1008
- 法学研究科 …… 511、740、875、965、
966、970、971、1003、1009～1012、
1017、1030
- 法学専攻 …… 740、1003、1010、1011
- スポーツ法コース …… 1012
- 基幹法コース …… 1012
- 税法・ビジネス法コース …… 1012
- 総合知的財産法学研究科 …… 740、965、
970、971、1003、1011、1027～1030
- 総合知的財産法学専攻 …… 740、1003
- 人文科学研究科 …… 511、740、877、
985、990、1003、1023～1026
- 人文科学専攻 …… 740、985、1003、
1023～1026
- 日本史・東洋史学コース …… 1024、
1025
- 文学・文化論コース …… 1024、1026
- 地理・地域論コース …… 1025、1026
- 日本史・東洋史学コース …… 1025、
1026
- 考古・歴史学コース …… 1025、1026
- 教育学専攻 …… 1003、1023～1026
- 教育問題・理論と実践コース ……

- 546、547、551、554、559、567、573、
626、627、629、634、636、654、657、
660、663、685、739、743、755、765、
786～788、790、826、830、832、853、
858、869、875、878、884、905、906、
925、926、951、983～991、1023～1026、
1076、1082、1103、1116、1123、1136、
1141、1152
- 教育学科 …… 477、482、483、486、
489、490、530、657、685、739、951、
983、985、988、989、1025
- 教育学専攻 …… 477、482、484、
486、487、489、490、492、740、983
～985、987、988、990
- 倫理学専攻 …… 477、482、484、
486、488、489、492、983～985、987
～990
- 初等教育専攻 …… 483、486、489～
492、530、654、657、660、685、
743、826、951、983～985、987、
988、990、1076、1141
- 教育学コース …… 989、1025
- 倫理学コース …… 989
- 初等教育コース …… 989、1022、
1025
- 史学地理学科 …… 477、482、483、
739、983、985、988、989、1024、1025
- 国史学専攻 …… 477、482、484、
486、488、739、983、985、986、990
- 考古・日本史学専攻 …… 739、986、
989、990、1025
- 東洋史学専攻 …… 477、482、484、
486、488、983、985、987、989、990
- 地理学専攻 …… 477、482、485、
486、488、739、983、985、986、990
- 地理・環境専攻 …… 739、988～991、
1025
- 考古・日本史学コース …… 989、
1025
- 地理・環境コース …… 989、1025
- 文学科 …… 477、482、483、536、
739、983、985、988、989、1025
- 漢学専攻 …… 477、482、483、485、
486、488、489、536、559、983、990
- 中国文学専攻 …… 483、488、739、
983～987、990
- 中国語・中国文学専攻 …… 739、
987、989、990
- 国語国文学専攻 …… 477、482、
485、486、489、739、983、985～
987、991
- 日本文学・文化専攻 …… 739、987～
989、991、1024、1025
- 日本文学・文化コース …… 989、
1025
- 21世紀アジア学部 …… 738、739、859、
877、900、902、926、927、931～934、
938～942、964、986、1030～1032、1075、
1082、1084、1102、1120
- 21世紀アジア学科 …… 739、934、
942、
- アジア地域デザインコース ……
739、934、939
- 21世紀日本理解コース …… 739、
934、939
- アジアビジネスコース …… 739、
934、939、941、942
- 交流アジアコース …… 739、939、
942
- アジア探究コース …… 739、939、
941、942
- アジア社会コース …… 942
- アジア文化コース …… 942
- 経営学部 …… 740、980、981、991～
997、1082、1085、1090
- 経営学科 …… 740、993、994
- 教養部 …… 345、626、629、651～654、
656、657、659、660、663、697、699、
700、712、736、755、765、786、787、
789、790、792、793、826、829、831、
832、905～907、984
- 全学教養教育運営センター …… 736、

- 体育学科 …… 438、439、738、804、
 808、942、943、948、954
 武道学科 …… 738、786、804、811、
 877、878、942、944、945、948～950、
 954、1021、1116、1118
 スポーツ医科学科 …… 738、807、
 811、846、877、944～946、948、954、
 955、1021、1022、1036、1037、1085、
 1090、1135
 こどもスポーツ教育学科 …… 738、
 951～953、1076
 工学部 …… 205、341、448、458～471、
 476、493、513、516、519、521、523、
 533、542、543、546、551、554、560、
 567、570～572、589～591、596、626、
 629、636、655、656、665、666、710、
 735、736、739、751、752、755、764、
 765、768、773、786～789、792、795、
 803、804、817、818、820、824、832、
 852、875、877、878、884、898、901、
 905～907、910、914、942、956～960、
 964、965、973、1004～1008、1028、
 1056、1075、1076、1082、1084、1089、
 1090、1094、1103、1126
 機械工学科 …… 459、461、463、464、
 466、467、956、957
 機械情報工学科 …… 957、958
 電気工学科 …… 459、461、463～466、
 469、533、877、956、957
 電気電子工学科 …… 877、957、958
 土木工学科 …… 463、466～468、591、
 956、957、1006
 都市システム工学科 …… 956、958
 建築学科 …… 463、466～468、591、
 956、957、1006
 建築デザイン工学科 …… 957、958
 電力コース …… 464
 通信コース …… 464
 回路・基礎コース …… 464
 材料・電子コース …… 464
 制御・電力コース …… 464
 情報・通信コース …… 464
 理工学部 …… 461、465、739、787、
 942、956、958～960、964、965、1082、
 1084、1090、1142
 理工学科 …… 739、942、959、960
 機械工学系 …… 739、959～961
 電子情報学系 …… 739、959～961
 建築学系 …… 739、959～961
 都市ランドスケープ学系 …… 739、
 959、960、962、964
 まちづくり学系 …… 739、964
 健康医工学系 …… 739、959、960、
 963～965、1122、1142
 人間情報学系 …… 739、964、1122
 基礎理學系 …… 739、959、960、
 963、964
 法学部 …… 22、341、343、344、448、
 460、467、476～482、516、521、535、
 544、546、551、553、554、567、570、
 573、629、636、648、654、657、663、
 704～706、736、738、755、756、765、
 768、786、787、789、820、826、830、
 832、858、877、878、884、896、905、
 951、966、967、970～973、975、987、
 1009、1010、1027～1029、1076、1082、
 1084、1085、1103、1107、1108、1141、
 1150、1152
 法律学科 …… 476、477、479、739、
 878、966、968、971
 現代ビジネス法学科 …… 738、740、
 877、878、966～968、970～972、975、
 1028
 昼間主コース …… 967、968
 夜間主コース …… 967、968、970
 企業法コース …… 972
 公共安全コース …… 972
 知財コース …… 972
 国際ビジネスコース …… 972
 文学部 …… 341、344、448、459、460、
 476～479、482～487、489、490、516、
 517、519、521、529、530、535、536、

255、714
 南米科 …… 247、248、255
 満蒙科 …… 11、247、248、255、316
 国史館高等拓殖学校 …… 315、316
 満蒙支科 …… 11、315
 南洋科 …… 11、315、316

◆学校（新制）

●国史館大学

政経学部（一部） …… 344、345、448～
 455、457、458、460、472～474、476、
 479、501、502、508～510、513、516、
 521、527、533、534、542、545、546、
 551、554、558、561、567、571～576、
 591、605、610、626、634、636、639、
 640、648、654、657、672、674、676、
 678、699～704、706、710、713、736、
 739、740、747、755、765、768、773、
 774、778、786、787、789、816、817、
 822、824、826、831、832、858、875、
 878、884、894、898～900、902、905、
 910、914、916、927、929、951、967、
 973～981、983、987、991～994、997、
 1012、1013、1018、1028、1075、1076、
 1082、1084、1085、1088、1091、1092、
 1103、1108、1116、1117、1119
 政治学科 …… 448、451～453、457、
 476、479、509、739、974～980、982、
 983、991、1012
 政治行政学科 …… 739、980、982
 経済学科 …… 448、451～454、457、
 510、739、974、976～982、991、1012
 経営学科 …… 341、448、456～458、
 542、546、740、786、900、974～981、
 991～995、997、1012、1013
 昼間主コース（フレックスA） ……
 976、977
 夜間主コース（フレックスB） ……
 976、977、979
 政治・行政コース …… 978
 国際関係コース …… 978
 情報経済コース …… 978

国際経済コース …… 978
 総合経済コース …… 979
 理論・情報コース …… 979
 国際経済コース …… 979
 財政・税務コース …… 979
 ファイナンス経済コース …… 979
 政治と人間コース …… 739、980
 公務員養成コース …… 739、980
 国際関係・地域研究コース …… 739、
 980
 政経学部二部 …… 341、430、431、448、
 451、460、471～476、551、554、567、
 572、626、629、654、679、717、739、
 755、765、787、789、792、793、820、
 832、905、906、967、973～976、979、
 983、992
 政治学科 …… 471～474、820、967、
 968、973～976
 経済学科 …… 471～474、820、973～
 976
 経済コース …… 974
 経営情報コース …… 974
 政治コース …… 974
 行政コース …… 974
 国際関係コース …… 974
 体育学部 …… 341、344、425、430、
 431、433～436、438～440、442～445、
 448、451、454、513、521、522、527、
 529、531、546、551、554、566、567、
 571、572、574、576、579、591、605、
 626、629、630、632、634～636、641、
 643、648、652、653、655、656、662、
 665、667、669、671、672、676、678、
 700、707、736、738、755、765、768、
 786～789、795、797、801、803、804、
 806～812、830、833、846、856、857、
 860、875、877～879、884、892、896、
 905～907、943～946、948、951、952、
 954～956、1008、1019、1021、1036、
 1051、1082、1089、1104、1111、1112、
 1120～1122

学校組織

◆学校（私塾）

私塾「国士館」…… 7、8、16、44、46、149

国士館高等部…… 9、58、60、64～78、81、83～88、105、109、118、119、122、124、125、130、133、142、149、160、161、199、205、207

国士館中等部…… 60、82～85、119、138、141、142、149、261

中等夜学部（夜間部）…… 75、82、83、138

農商補習夜学塾…… 168～171

◆学校（旧制）

国士館専門学校…… 13、14、75、76、134、135、196、197、199、201、202、210、212、214、218～220、224、227、228、313、314、320、322、324、340、350、381、404、420、437、482、526
本科…… 122、134、197、201～203、214、217、359

国漢剣道科…… 10、11、202、214

国漢柔道科…… 10、214

国漢弓道科…… 10、214、215

研究科…… 201、202、217、221

別科…… 133、359

武道国漢科…… 10、11、217、219、221、222、308、313、321、324、331

興亜科…… 10、217～220、222、283

武道地歴科…… 11、220～223、313、323

剣道科…… 11、221、313、340、351

柔道科…… 11、222、313、321、323、328、340、351、363、381

弓道科…… 11、222、313、340、351

国語専攻…… 313

地理専攻…… 313

歴史専攻…… 313

至徳専門学校…… 314、350、351、354、355、357、359、363、364、381、388、

389、395、405、408、410、413、414、423

国語科…… 340、351、352、359、362、363、381、410、413

地理科…… 340、351、352、359、361、362

歴史科…… 340、351、352、359、362

国士館商業学校…… 10、119～122、124、130～132、147、168、169、171～

192、205、211、235、236、240、249、261、305、306、309、317～319、325、

326、350、368、371、372、377、381、1125

第一本科…… 186

第二本科…… 185、186

国士館工業学校…… 317～320、350、368、372

機械科…… 318

土木科…… 318

至徳商業学校…… 319、350、355、368、370～374、377

国士館中学校…… 3、10、13、85、98、119～122、124、125、130～132、136、

138～150、152、155～166、169、171、172、174、176、205、207、208、211、

213、218、225、243、261～264、266、267、270、272～275、279～281、284、

288、289、304、306、307、309、310、313、317、320、322、325、326、330、

350、368、378、389

至徳中学校…… 350、355、359、368～376、379、380、382～384、389、408、

585、598

至徳商業学校併設中学校…… 370、371、374

国士館実務学校…… 134、135、197、233～235、238、

商工科…… 134、233～235
拓植科…… 134、233～235、238、250
国士館高等拓植学校…… 10、11、31、76、234～245、247、248、252、254、

凡例

- ・『国士館百年史 通史編』（学校法人国士館、2021年3月30日）の中から事項・地名等の語句（人名を除く）を取録し、該当するページ数を抽出・表記した。なお、人名は「人名編」を参照されたい。
- ・各節に付した注記、また口絵や巻末「資料」は除いた。
- ・事項編は、利用の便に鑑みて、次の通り分類・区分した。
 - (1) 分類して適宜に配列した。
 - 「学校組織」、「校地・キャンパス」、「校舎・建物」、「寮・寄宿舍」、
 - 「海外支部」、「施設・設備」、「クラブ・課外活動」
 - (2) 上記分類に含まない語句は、二分して配列した（五十音順）。
 - 「事項」（主に国士館関連）、「地名・法令・一般」
- ・事項の読みを推測した部分もある。また組織・団体名等の冠称は、一部略記した。
- ・別称・補足説明は（ ）内で示した。『通史編』に誤記がある場合も、該当ページを表記した。

『国士館百年史 通史編』
索引

事項編

国士館史資料室

令和6年事業報告

国士館史資料室の活動

1 調査・収集

(1) 主たる資料調査

令和6年1月から12月までに実施した資料調査並びに収集の主な活動は以下の通りである。

学内調査

(1) 経理課保管資料調査

日 時…令和6年1月24日

調査者…熊本好宏・村瀬貴彦

(2) 文学部史学地理学科(地理・環境)長谷川均教授

研究室調査(於世田谷キャンパス10号館2階)

日 時…令和6年2月14日

調査者…熊本好宏

(3) 文学部学部長室調査(於世田谷キャンパス5号館

2階)

日 時…令和6年2月14日

調査者…熊本好宏

(4) 中学校・高等学校調査

日 時…令和6年2月21日

調査者…熊本好宏・鈴木正博

(5) 教務課保管資料調査

日 時…令和6年4月12日

調査者…熊本好宏・村瀬貴彦・鈴木正博・梶原紗千

(6) 学内発行物印刷データ収集調査

学内部課室で定期に発行される発行物のうち発行物原本とあわせて印刷製本後の印刷データ(PDF)を収集した(随時実施・部課室及び印刷製

本業者)。

(7)イラク古代文化研究所資料調査

昨年に引き続き、資料の整理・電子化等について、大学デジタルアーカイブセンターの業務支援を行った。

調査者：熊本好宏

学外調査

(1)上塚司関連資料調査

日 時：令和6年1月24日、1月29日、2月10日、
2月16日、2月29日、3月6日、3月8
日、3月21日、3月23日、3月27日、4
月6日、4月18日、4月23日、6月24日、
6月28日、7月1日、7月23日、9月2
日、9月18日、9月27日、10月22日、10
月29日、11月15日、11月22日、12月6日、
12月13日、12月15日、12月16日、12月25
日

調査者：熊本好宏

(2)世田谷平和資料館『学徒出陣80年』調査見学

日 時：令和6年1月31日

調査者：熊本好宏・鈴木正博

(3)創立地現地調査(港区南青山7丁目(旧麻布区筈町)周辺)

日 時：令和6年3月9日

調査者：熊本好宏

(4)朝倉正昭元学長資料調査

日 時：令和6年6月27日

調査者：熊本好宏・村瀬貴彦

(5)山中湖文学の森徳富蘇峰館調査

日 時：令和6年9月18日～20日、11月13日～14
日

調査者：熊本好宏・清水邦俊

(2)オーラル調査

(1)アンケート調査

本年は関係者へのアンケート調査を実施しな
かった。

(2)オーラル・ヒストリー調査

本年は関係者へのオーラル・ヒストリー調査を
実施しなかった。

(3) 主な寄贈資料

- ・ 国士館業務記録資料寄贈
- ・ 寄贈者…菊地眞行氏（昭和52年3月法学部卒・学校法人国士館元職員）
- ・ 大講堂模型、柴田徳文前国士館館長旧蔵カメラ並びにレンズ等寄贈
- ・ 寄贈者…柴田徳重氏（国士館館長）
- ・ 『歴史公論』 昭和13年6月号（昭和13年6月1日、雄山閣）、『文藝春秋』（昭和24年8月1日、文藝春秋新社）等寄贈
- ・ 寄贈者…寺島正芳氏（映画史研究家）
- ・ 職員制服、柴田徳次郎色紙、大学体操部等資料寄贈
- ・ 寄贈者…朝倉正昭元学長ご遺族
- ・ 国士館主催全国中等学校年別柔道大会優勝旗（沼津東高等学校同窓会蔵）写真データ等寄贈
- ・ 寄贈者…渡辺雄二氏
- ・ 「高拓会会報」複写データ並びに上塚司等写真データ等寄贈
- ・ 寄贈者…上塚芳郎氏
- ・ 昭和58年頃学内写真パネル等寄贈

寄贈者…安西博見氏（昭和50年3月法学部卒・学校法人国士館元職員・現評議員）

・ 『法律新聞』 2203号（大正13年1月8日発行）
 複写物寄贈

寄贈者…山田兼一郎氏（たましん地域文化財団学芸員）

2 整理・保存

(1) 資料目録作成状況

本年（令和6年12月31日現在）の国士館史資料室の所蔵資料、調査収集資料、参考図書等の目録（データベース）作成状況は別表の通りである。

(2) 資料電子化・保存処置

本年は、主に以下の資料について電子化及び修復・保存処置を専門業者に委託した。

- ・ 財務部資料経理元帳（平成10年代後期）電子化
- ・ 教務部資料政経学部（昭和40～50年代）成績原簿電子化

収蔵資料及び目録化の進捗状況

名称	内容	令和4年度 目録化済	令和5年度 目録化済	令和6年度 目録化済
法人記録史料	法人（教学を含む）組織が作成・発行したか、または外部機関より受領した文書	19,141	20,183	20,905
発行物	学内で刊行される出版物	10,406	11,294	11,950
写真・その他の映像・音声資料	国士館に関わる写真その他の映像・音声資料	12,666	12,789	12,791
物品資料	国士館に関わる物品資料	1,451	1,569	1,670
調査収集資料	学内外の関係資料所蔵機関への調査収集資料	6,439	7,159	7,245
参考図書	主に各関係機関が発行している出版物	2,217	2,321	2,374
合計		52,320	55,315	56,935

（令和6年12月31日現在）

3 利用・公開

(1) 収蔵資料の公開（収蔵資料検索システム運用状況）

国士館史料室は、収蔵資料利用者へのサービス強化のため、平成23（2011）年4月に閲覧室を整備し、同時に資料室ホームページ上で収蔵資料検索システムのWEB公開を開始している。収蔵資料検索システムは、資料閲覧のために来室する利用者にとっても利便性を高めている。

平成28年10月3日に学内教職員向けに公開した「国士館アーカイブズ」は、令和6年12月現在、収蔵資料検索システム（26120件）、基礎年表検索システム（3508件）、基礎データ集（略年表など）を有し、学

- ・ 上塚司関連資料電子化
- ・ 卒業アルバム電子化及び写真切出
- ・ 中高発行物・写真データ（平成中期～令和）電子化
- ・ 大判写真及び時間割電子化
- ・ 学部長会ほか学内会議資料電子化
- ・ 多摩校舎保管建物図面電子化

内限定で利用できる。

(2) ホームページ(令和6年更新)

「お知らせ」

- ・ 梅ヶ丘校舎で「国士館の歴史」展を開催(令和6年3月5日)
- ・ 国士館大講堂(国登録有形文化財)見学ツアーのご案内(参加者募集)(5月14日)
- ・ 国士館大講堂見学ツアーを開催しました(5月18日)
- ・ 国士館大講堂(国登録有形文化財)見学ツアーのご案内(参加者募集)(6月3日)
- ・ 『国士館百年史 通史編』の索引(人名編)を公開(6月3日)
- ・ 『国士館百年史』(通史編・史料編上・下)の正誤表を公開(6月3日)
- ・ 梅ヶ丘校舎で「大正昭和期の国士館学生」展を開催(6月5日)
- ・ 国士館大講堂見学ツアーを開催しました(6月15日)
- ・ 収蔵資料検索システムをバージョンアップ(6月20日)
- ・ 夏季の一時閉室について(7月19日)
- ・ 博物館実習を実施しました(8月3日)
- ・ 梅ヶ丘校舎で「武道からスポーツ」展を開催(8月3日)
- ・ 梅ヶ丘校舎で「学園祭の歴史」展を開催(9月25日)
- ・ 東京文化財ウィーク2024 国士館大講堂を特別公開します(9月30日)
- ・ 国士館大講堂(国登録有形文化財)見学ツアーのご案内(参加者募集)(10月1日)
- ・ 中高大接続行事・国士館中学1年生に国士館史学習会を実施しました(10月10日)
- ・ 創立記念展「国士館生のよそおい―大正から令和―」を開催(10月18日)
- ・ 国士館大講堂見学ツアーを開催しました(10月19日)
- ・ 国士館大講堂(国登録有形文化財)見学ツアーのご案内(参加者募集)(10月29日)
- ・ 創立記念展「国士館生のよそおい―大正から令和―」を開催しました(11月8日)
- ・ 国士館大講堂見学ツアーを開催しました(11月18日)
- ・ 国士館大講堂(国登録有形文化財)見学ツアー

2024は全日程を終了しました(11月18日)

・梅ヶ丘校舎で「国士館大講堂」展を開催(11月26日)

〔刊行物〕

・『国士館史研究年報 楓原』第15号の全頁(PDF)

掲載(3月)

アドレス

<https://www.kokushikan.ac.jp/research/archive/index.html>

(3) 教育普及活動

(1) 常設展示

国士館史資料室では、柴田会館4階に展示室を設け、国士館の歩みを示す関係資料を一般公開している。国士館の創立者柴田徳次郎にゆかりの資料や、創立以来の支援者、各時代の学生生活に関する貴重な資料などを展示している。

開室日時 月曜～土曜10:00～16:00

(日曜祝祭日、学園の定める休日等を除く)

※観覧無料

令和6年1月～12月の観覧者数は、以下の通りである。

・学内者数 342名

・学生・生徒 311名

・教職員 31名

・学外者数 358名

・卒業生 59名

・一般 299名

・総観覧者数 700名

(2) 梅ヶ丘校舎展示コーナー企画展(出張展示)

世田谷キャンパス34号館(梅ヶ丘校舎)1階の展示コーナーにおいて、次の企画展を開催した。

・令和6年3月～5月「国士館の歴史」展

・令和6年6月～7月「大正昭和期の国士館学生」展

展

・令和6年8月～9月「武道からスポーツへ」展(博物館実習成果展示)

・令和6年9月～11月「学園祭の歴史」展

・令和6年11月～令和7年3月「国士館大講堂」展

(3) イベント企画展(出張展示)

令和6年のオープンキャンパス(除く3月26日)、本学主催高等学校教員対象入試相談会並びに教育懇

談会開催日に、国士館大講堂において写真パネルによる企画展示「国士館の歴史」を開催し、国士館の歴史を写真で紹介した。また、オープンキャンパス時（除く3月26日）には、本学受験希望者及びその保護者に本学への理解を深めてもらうべく「国士館100年の軌跡」(DVD)等の上映もあわせて行った。なお、それぞれの実施日及び入場者数は、次の通りである。

・3月24日(日) オープンキャンパス (大講堂開放のみ実施 自由見学)

・5月10日(金) 本学主催高等学校教員対象入試相談会 58名



創立記念展ポスター



創立記念展

を会場に、学生や生徒の「よそおい」に着目し、学園の歴史とともに服装の変遷を振り返った企画展「国士館生のよそおい―大正から令和」を開催した。

展示期間は、楓原祭(大学学園祭)と

- ・5月19日(日) 教育懇談会 239名
 - ・6月9日(日) オープンキャンパス 492名
 - ・7月28日(日) オープンキャンパス 29名
 - ・8月3日(土) オープンキャンパス 263名
 - ・8月4日(日) オープンキャンパス 333名
 - ・8月31日(土) オープンキャンパス 314名
 - ・12月1日(日) 教育懇談会 345名
- (4) 創立記念展「国士館生のよそおい―大正から令和」(出張展示)

国士館の創立107年を記念して、国士館大講堂

秋楓祭（中・高文化祭）の実施にあわせて、10月30日（水）～11月4日（月）とした。また、11月2日

（土）・3日（日）は「東京文化財ウィーク」に参加して、大講堂の一般公開事業とあわせた位置づけで、この企画展を実施した。あわせて11月3日には、ホームカミングデイも実施され、卒業生をはじめ多くの来場者が訪れた。昨年に引き続き大講堂グッズガチャ（カプセルトイ）も設置し、期間中316件の参加を得るなど今年も盛況であった。

入場者は、全期間で1868名、うち東京文化財ウィーク・楓門祭・秋楓祭の開催期間（11月2日・3日）は1738名であった。

（5）文化財「国士館大講堂」愛護啓発（定期開放等）

本年も学内外に国登録有形文化財「国士館大講堂」の意義や特徴を周知し、あわせて文化財保全への啓発等を行った。昨年6月に開始した学外者対象の大講堂「見学ツアー」は2年目の実施となった。

また本年から、中高卒業式及び入学式並びに学部別学位授与行事の開催日には大講堂の開放を行った。それぞれ学生・生徒・保護者らが来場して、記

念の写真撮影などの場としても利用された。実施日及び入場者数は、次の通りである。

3月8日…中学校・高等学校卒業式 17名
3月19日…学部別学位授与行事 180名
4月7日…中学校・高等学校入学式 322名
・国士館大講堂「開放週間」の実施

学生・生徒が大講堂内に入って建造物に親しみ、その意義や特徴の理解を高める機会を設けるため、昨年に引き続き大講堂「開放週間」を実施した。各月の1週間（月曜～金曜日・各日2回実施）大講堂を定時に開放し、参加者に対して学生キャスト（学生ガイド）が15～20分程度の解説を行った。学生キャストの有志学生は、必要となる知識をオンデマンド等で修得し、模擬解説を経て大講堂のガイドに臨んだ。なお大講堂キャスト（12月末現で11名）は、オープンキャンパス等の出張展示でも、大講堂での解説・対応を行った。開放週間の実施日及び入場者数は、次の通りである。

4月15日～19日 44名
5月13日～17日 21名

6月10日～14日 101名
 10月14日～18日 39名
 11月11日～15日 18名

・国士館大講堂「見学ツアー」の実施

昨年に引き続き、主に学外者を対象として大講堂「見学ツアー」と称する定期開放イベントを行った。午前・午後の2部制とし、各回1時間程度、定員10名で実施した。学生キャストが大講堂の特



大講堂見学ツアー

徴を案内し、多くの人々が文化財としての大講堂に親しみ、その存在価値を理解する機会を創出した。併せて柴田会館4階展示室も学生キャストが案内・解説し、国士館の歴史を紹介した。見学ツアーの実施日及び入場者数は、次の通りである。

5月18日 25名
 6月15日 16名
 10月19日 20名
 11月16日 14名

・国士館大講堂グッズ(含ガチャ)

国登録有形文化財としての建造物保全への啓発を図る一環として、大講堂グッズ制作を学生キャストの企画のもとで実施した。本年は大講堂イラストをあしらったポーチを作成して、学内外に配付するなどした。また、大講堂ガチャ(カプセルトイ)も年間を通して大講堂に設置し、メモ帳・一筆箋・付箋・ポーチの4種の大講堂グッズをはじめ、先の記念事業で制作された「コクシバ」グッズも交換品とした。なお全投入金は、創立110周年記念事業募金(大講堂の保存および防災対



グッズ制作企画会議

策」を含む)として取り扱った。

(6) レファレンス(含資料閲覧)

令和6年1～12月のレファレンスは、学内・学外合わせて89件であった。また、資料閲覧延べ6件に対応した。

(7) 講義等支援

平成21年4月の国士館史資料室発足後、資料室を

利用する講義支援等の依頼は、毎年増加傾向にある。特に、大学各学部で開講する初年次教育関連ゼミの支援依頼や、博物館学関連の講義支援については、毎年恒例となっている。

加えて大学では教養教育の見直しが図られ、令和6年度から新たに「全学共通教育科目」(5科目群)として再編成された。このうち新たに開講した必修科目「国士館を知る」において自校史に関する3コマ分9ファイルのオンデマンド教材を担当・作成した(詳細は後述)。

これとは別に、従前から各学部・学科で開講する初年次教育への支援も実施した。昨年度に引き続き、政経学部開講「初年次ゼミナール」、経営学部開講「フレッシュマンゼミナール」、文学部教育学科開講「教育学の基礎A」に設けられた自校史教育のコマについて講義支援を実施した。また講義支援に留まらず、新採用教職員研修への支援なども随時実施した。

主な講義等の支援と担当者は、次の通りである。

・新採用教職員研修支援…4月4日職員7名(於大

講堂等)、4月6日教員29名(於大講堂)(熊本好宏)

・政経学部「初年次ゼミナール」講義支援(講義・大講堂見学、1年生)・・・4月25日柴田徳光ゼミ・

石山健一ゼミ・柴田怜ゼミ合同(2限1年生74名)

(熊本好宏・村瀬貴彦)、4月25日上村信幸ゼミ・

竹市勝ゼミ・本間良則ゼミ合同(5限1年生72名)

(熊本好宏・村瀬貴彦)、4月26日山田亮介ゼミ・

三輪晋也ゼミ・今喜史ゼミ合同(2限1年生72名)

(鈴木正博・清水邦俊)、4月26日鈴木佑記ゼミ・

鈴木智行ゼミ・関田誠ゼミ合同(5限1年生72名)

(鈴木正博・清水邦俊)、5月1日桑名祐樹ゼミ・

横須賀柳子ゼミ・佐藤恵ゼミ合同(2限1年生72名)

(村瀬貴彦・梶原紗千)、5月1日織田健志ゼミ・

関口博久ゼミ・胡杰ゼミ合同(5限1年生50名)

(村瀬貴彦・梶原紗千)、5月6日小池亜子ゼミ・

赤石秀之ゼミ・助川成也ゼミ合同(2限1年生61名)

(鈴木正博・清水邦俊)、5月6日板山真弓ゼミ・

北村仁代ゼミ・生方淳子ゼミ合同(5限1年生66名)

(鈴木正博・清水邦俊)

・体育学部体育学科自校史教育支援・・・4月5日新入生オリエンテーション(於多摩キャンパス、1年生260名)(熊本好宏・鈴木正博・梶原紗千)

・文学部教育学科教育学コース江川陽介教授・郡司

菜津美准教授・本間貴子准教授「教育学の基礎A」

講義支援・・・5月16日(講義及び大講堂見学、1限

1年生90名)、6月13日(講義、1限1年生90名)

(熊本好宏)

・経営学部「フレッシュマンゼミナール」講義支援

(講義・大講堂見学、1年生)・・・4月25日田淵泰男

ゼミ・山下修平ゼミ・栗野直之ゼミ合同(1限1

年生115名)(熊本好宏・鈴木正博)、4月26日

三谷華代ゼミ・伊藤直樹ゼミ・水師裕ゼミ・平本

奈央子ゼミ合同(1限1年生147名)(村瀬貴彦・鈴木正博)

・4月9日文学部史学地理学科考古・日本史学コー

ス1年生学外研修「国士館大学の周辺をめぐる散

策」大講堂及び展示室見学ほか対応(1年生

110名)(熊本好宏・村瀬貴彦・鈴木正博・梶

原紗千)

・4月25日経営学部山下修平教授「専門ゼミナール」資料展示室見学対応（4限3年生14名）（熊本好宏）

・5月15日政経学部織田健志教授「初年次ゼミナール」授業支援（講義・展示室見学）（5限1年生23名）（熊本好宏）

・5月25日21世紀アジア学部小口和美教授「博物館実習」講義支援（展示室・収蔵庫等見学、2・3年生10名）（熊本好宏）

（8）「国士館を知る」3コマ分教材作成

大学では、建学の精神や教育理念との整合性、3ポリシーとの整合性、各学部専門科目との融合性の3つを高める目的で、いわゆる教養教育の見直しが行われた。従来の「総合教育科目」「外国語科目」は、令和6年度から新たに「全学共通教育科目」（5科目群）に一本化・再編成された。その5科目群は、「国士館を学ぶ」「人間と社会」「サイエンスと情報」「スポーツ・健康・芸術」「グローバル社会に対応した外国語を学ぶ」で構成され、「国士館を学ぶ」群の科目「国士館を知る」および「サイエンスと情報」

群の科目「AIとサイエンス」は必修科目（各2単位）に設定された。

本年度から開講する必修科目「国士館を知る」（オンデマンド）において、自校史を内容とする3コマ分を国士館史資料室で担当することとなり教材9ファイルを作成した（熊本好宏）。なお合成音声用に作成した原稿は約5万文字となった。教材作成の経過は、次の通りである。

・令和5年6月12日 全学共通教育科目担当者委員会委員長名での「国士館を知る（建学の精神と教育理念）」コンテンツ作成に関する依頼文書を受理

・8月2日 同授業コンテンツ作成の依頼および説明会の開催（担当者委員会委員長名での開催通知文書は7月19日付）、全15回シラバス案のうち第3～6回の4コマを担当・オンデマンド教材（12ファイル）作成の依頼通知

・9月21日 全15回のうち担当3コマ（9ファイル）に変更通知

（6～9月間、担当者委員会の調整会にも参加）

・12月25日 第3～5回オンデマンド教材（3コマ

分9ファイルPDF）の提出（業者入稿）

・令和6年2月6日 同回の小テスト案の提出

・4月3日 同回のオンデマンド教材と小テストの
校了

教材は合成音声での動画ファイルに生成され、各
回のオンデマンド教材を全1年次生が受講する形式
となった。第3～5回の概要は次の通りである。

・第3回国士館のあゆみ①国士館の理念・伝統

第1動画・国士館の現在位置、現在に見える理念・

伝統、第2動画・国士館の略歴、「建学の精神」、

理念の形成、第3動画・創立者柴田徳次郎、創立
者3つの特徴

・第4回国士館のあゆみ②創立期の理念の形成

第1動画・国士館の創立、世田谷への移転、創立

期の教育、第2動画・発展への支援（維持委員会）、

中学校／商業学校の創設、専門学校の創設、他の
諸学校、第3動画・校風「文武両道」の形成、戦

時下での国士館、占領下での国士館

・第5回国士館のあゆみ③大学創設から創立100

年

第1動画・国士館の再建（再建趣意書）、国士館

大学の創設、総合大学への途、第2動画・特色あ

る教育（大学の大衆化／学園紛争の時代）、館長
訓話、創立者柴田徳次郎の死去、第3動画・学園

改革の進展、創立80周年に向けて、創立100年
へ

(9) 発行者

・令和6年3月10日『国士館史研究年報 楓原』第
15号発行

・令和6年3月8日 国士館大講堂オリジナルポー
チ制作

(10) 講演会

令和3年に百年史編纂事業後の成果周知の一環で
開催した学園史講演会は、昨年と同様、職員研修委

員会（SD・総務部人事課）に企画を委ねたが、担

当課の諸事情によって実施されなかった。

(11) 博物館実習の受け入れ

博物館学芸員資格課程の資格取得要件である博物
館実習（館園実習）を実施し、実習生の受け入れを



博物館実習

行った。博物館実習は、資料室の業務を通じて博物館の一連の諸業務に対する理解を深めるとともに、主に公開業務である企画展示の立案から展示作業までの業務を実践する内容とした。その成果は、梅ヶ丘校舎の展示コーナーにおける企画展示として一般公開を実施した。

・7月26日(金)～8月3日(土) 博物館実習文

学部4年生1名

(12) 中学生の職場体験学習の受け入れ

世田谷区内の中学校から職場体験学習の依頼を受けて、生徒の受け入れを行った。資料室の職場や社会マナーについて学び、このうち「展示」を主な課題として取り組んでもらった。

・9月9日(月)～11日(水) 世田谷区立桜木中学校2年生2名

・9月30日(月)～10月2日(水) 世田谷区立梅丘中学校2年生3名

4 室の構成

(1) 職員(令和6年)

室長 長谷川 均(参与)

事務長 熊本 好宏

担当事務長 村瀬 貴彦(令和6年6月末退任)

職員 齊藤 英樹

鈴木 正博

準職員 清水 邦俊

堀田 理沙 (令和6年3月31日退職)
 梶原 紗千 (令和6年4月1日着任)
 アルバイト学生

角田優衣 丸山藍花 鈴木怜亜
 馬場英梨香 諸川涼 山口杏里

山崎大輔 田村りな 木村玲

小林稟奈 佐田葵

(限大講堂キャスト)

丹澤麻樹 山本哲史 河端勇人

佐藤絵磨 柳原綾佳 小野乃愛

羽場武蔵

(2) 施設の概要

所在地 〒154-0023

東京都世田谷区若林4-31-10

名称 柴田会館

構造 鉄骨鉄筋コンクリート造、地下2階、地上4階

資料室施設面積

2階・館史事務室15・3㎡、館史研究室38・4㎡、

第1史料収蔵庫63・8㎡、第2史料収蔵庫

21・5㎡ (平成23年3月設置)、第3史料収蔵庫16・2㎡ (平成28年8月設置)、第4史料収蔵庫21・1㎡ (平成28年8月設置)

4階・室長室13・7㎡、閲覧室13・7㎡、展示室119㎡

34号館 (梅ヶ丘校舎B棟1階)

展示コーナー・13・1㎡

5 活動日誌

(令和6年1月～12月)

【1月】

10日 資料室担当「国士館を知る」(令和6年度開講)

教材案提出 (3コマ分9ファイル) (熊本好宏)

24日 経理課保管資料調査 (熊本好宏・村瀬貴彦)

25日 『国士館大学新聞』第535号「国士館史資料

室だより52 新出中学校アルバム (熊本好宏)

掲載

31日 世田谷平和資料館『学徒出陣80年』視察 (熊本

好宏、鈴木正博)

【2月】

14日 文学部長谷川均教授研究室調査・受贈、文学部

学部長室調査・受贈（熊本好宏）

21日 中学校高等学校調査・資料移管（熊本好宏、鈴木

正博）

【3月】

6日～5月31日 企画展「国士館の歴史」展開催（於

34号館B棟1階展示コーナー）

8日 大講堂（国登録有形文化財）グッズオリジナル

ポーチ学内配付

中高卒業式・大講堂開放（17名）

9日 創立地現地調査（港区南青山7丁目（旧麻布区

筈町）周辺）（熊本好宏）

10日 『国士館史研究年報 楓原』第15号発行

17日 大講堂見学対応（東京シティガイドクラブ歴史

グループ研修会B）

19日 学部別学位授与行事・大講堂開放（180名）（鈴木

正博）

24日 オープンキャンパスにて大講堂開放（自由見学）

31日 室長長谷川均退任

準職員堀田理沙退職

【4月】

1日 室長長谷川均参与再任

準職員梶原紗千着任

4日 新採用職員研修大講堂見学対応（7名）（熊本

好宏）

5日 体育学部体育学科新入生オリエンテーション自

校史教育支援（於多摩キャンパスMCCCT、1

年生260名）（熊本好宏、鈴木正博、梶原紗千）

6日 新採用教員研修大講堂等見学対応（29名）（熊

本好宏）

7日 中高入学式・大講堂開放（322名）（鈴木正博）

9日 文学部史学地理学科考古・日本史学コース1年

生学外研修「国士館大学の周辺をめぐる散策」

大講堂及び展示室見学ほか対応（110名）（熊

本好宏、村瀬貴彦、鈴木正博、梶原紗千）

12日 教務課保管資料（成績原簿等）調査（熊本好宏・

村瀬貴彦・鈴木正博・梶原紗千）

15日～19日 大講堂「春の開放週間」（学生ガイド、

入場者44名）

23日 中・高校発行物データ収集（熊本好宏）

25日 経営学部田淵泰男ゼミ・山下修平ゼミ・栗野直

之ゼミ合同「フレッシユマンゼミナール」講義
支援(講義・大講堂見学)(1限1年生115名)

(熊本好宏・鈴木正博)

政経学部柴田徳光ゼミ・石山健一ゼミ・柴田怜
ゼミ合同「初年次ゼミナール」(2限1年生74名)

(熊本好宏・村瀬貴彦)

経営学部山下修平ゼミ「専門ゼミナール」資

料展示室見学対応(4限3年生14名)(熊本好宏)

政経学部上村信幸ゼミ・竹市勝ゼミ・本間良則

ゼミ合同「初年次ゼミナール」(5限1年生72名)

(熊本好宏・村瀬貴彦)

26日

経営学部三谷華代ゼミ・伊藤直樹ゼミ・水師裕

ゼミ・平本奈央子ゼミ合同「フレッシユマンゼ

ミナール」講義支援(講義・大講堂見学)(1

限1年生147名)(村瀬貴彦・鈴木正博)

政経学部山田亮介ゼミ・三輪晋也ゼミ・今喜史

ゼミ合同「初年次ゼミナール」講義支援(講義・

大講堂見学)(2限1年生72名)(熊本好宏・清

水邦俊)

政経学部鈴木佑記ゼミ・鈴木智行ゼミ・関田誠

ゼミ合同「初年次ゼミナール」講義支援(講義・
大講堂見学)(5限1年生72名)(鈴木正博・清

水邦俊)

27日

『国士館大学新聞』第536号「国士館史資料
室」日より53・専門学校新入生日記(熊本好宏)

掲載

【5月】

1日

政経学部桑名祐樹ゼミ・横須賀柳子ゼミ・佐藤

恵ゼミ合同「初年次ゼミナール」講義支援(講

義・大講堂見学)(2限1年生72名)(村瀬貴彦・

梶原紗千)

政経学部織田健志ゼミ、関口博久ゼミ、胡杰ゼ

ミ合同「初年次ゼミナール」講義支援(講義・

大講堂見学)(5限1年生50名)(村瀬貴彦・梶

原紗千)

政経学部小池亜子ゼミ、赤石秀之ゼミ、助川成

也ゼミ合同「初年次ゼミナール」講義支援(講

義・大講堂見学)(2限1年生61名)(鈴木正博・
清水邦俊)

- 政経学部板山真弓ゼミ、北村仁代ゼミ、生方淳子ゼミ合同「初年次ゼミナール」講義支援（講義・大講堂見学）（5限1年生66名）（鈴木正博・清水邦俊）
- 10日 本学主催高等学校教員対象入試相談会にて「国士館の歴史」展開催（於大講堂、入場者58名）
- 13日～17日 大講堂「新緑の開放週間」（学生ガイド、入場者21名）
- 15日 政経学部織田健志ゼミ「初年次ゼミナール」授業支援（講義・展示室見学）（5限1年生23名）（熊本好宏）
- 16日 文学部教育学科教育学コース江川陽介教授・郡司菜津美准教授・本間貴子准教授「教育学の基礎A」講義支援及び大講堂見学対応（1限1年生90名）（熊本好宏・鈴木正博・梶原紗千）
- 18日 大講堂見学ツアー（学生ガイド解説2回、参加者計25名）（鈴木正博・梶原紗千）
- 政経学部熊迫真一ゼミO B会大講堂見学対応（10名）
- 19日 教育懇談会にて「国士館の歴史」展開催（於大講堂、入場者239名）（熊本好宏、村瀬貴彦、梶原紗千）
- 25日 21世紀アジア学部小口和美教授「博物館実習」支援（2・3年生10名）（熊本好宏）
- 30日 ワンビシアーカーイズ新入社員研修対応（熊本好宏）
- 【6月】
- 3日 資料室ホームページに『国士館百年史 通史編』の索引（人名編）及び同『通史編』・『史料編』上・下の正誤表を公開
- 5日～7月28日 企画展「大正昭和期の国士館学生」展開催（於34号館B棟1階展示コーナー）
- 9日 オープンキャンパスにて「国士館の歴史」展開催（於大講堂、入場者492名）
- 10日～14日 大講堂「初夏の開放週間」（学生ガイド、入場者101名）
- 13日 文学部教育学科教育学コース江川陽介教授・郡司菜津美准教授・本間貴子准教授「教育学の基礎A」講義支援（1限1年生90名）（熊本好宏）
- 15日 大講堂「見学ツアー」（学生ガイド解説2回、

参加者計16名（鈴木正博・梶原紗千）

（佐々博雄稿）掲載

19日 資料室ホームページ公開用収蔵資料検索システムほか更新（データベースバージョンアップ）

2日～9月21日 企画展「武道からスポーツへ」展開
 催（於34号館B棟1階展示コーナー、博物館実習企画）

27日 朝倉正昭元学長資料調査（熊本好宏・村瀬貴彦）

【7月】

1日 担当事務長村瀬貴彦退任（異動）

3日 オープンキャンパスにて「国士館の歴史」展開
 催（於大講堂、入場者263名、兼博物館実習）

セブラスマル大学訪問対応（於展示室、熊本好宏）

4日 オープンキャンパスにて「国士館の歴史」展開
 催（於大講堂、入場者333名）

17日 政経学会講演会講師大講堂見学対応（鈴木正博・梶原紗千）

9日 学内ドキュメントステーション受託発行物資料データ収集

26日～8月3日 博物館実習実施（文学部4年1名受入）

武道系クラブ学生「自校の伝統を学ぼう」講話（於柴田会館、杖道部・至徳会空手道部・剣道部・居合道部学生12名）（熊本好宏）

27日 『国士館大学新聞』第537号「資料室だより」

54・新出の専門学校アルバム（熊本好宏）掲載

31日 オープンキャンパスにて「国士館の歴史」展開
 催（於大講堂、入場者314名）

28日 オープンキャンパスにて「国士館の歴史」展開
 催（於大講堂、入場者29名）

【9月】

9日～11日 世田谷区立桜木中学校生徒職場体験（2年生2名）

【8月】

1日 『日本歴史』第915号（日本歴史学会）「近現代史の人物史料情報」に「柴田徳次郎」(元室長・

花園大学図書館蔵『凌霜』（1978年8月号）

代史の人物史料情報」に「柴田徳次郎」(元室長・

複写収集

18日～20日 山中湖文学の森徳富蘇峰館調査（熊本好宏・清水邦俊）

25日～11月23日 企画展「学園祭の歴史」開催（於34号館B棟1階展示コーナー）

27日 『東京の文化財』136号（東京都教育庁）発行「国士館大講堂」掲載

30日～10月2日 世田谷区立梅丘中学校生徒職場体験（2年生3名）

【10月】

3日～4日 全国大学史資料協議会参加（於早稲田大学ほか）（鈴木正博）

9日 中高大接統行事「国士館を学ぶ」自校史教育支援（国士館中学校1年生76名）（梶原紗千）

14日～18日 大講堂「秋の開放週間」（学生ガイド、入場者39名）

14日 令和6年度社会教育調査（博物館調査表）回答
15日 『区のおしらせ「せたがや」』（10月15日、世田谷区）「区民のひろば」に「国士館創立記念展」

情報掲載

19日 大講堂「見学ツアー」（学生ガイド解説2回、

参加者計20名）（鈴木正博）

19日 木村政彦生誕100年記念シンポジウム参加（於拓殖大学）（熊本好宏）

24日～11月4日 東京文化財ウィーク2024特別公開事業デジタルマップ公開
世田谷区立桜丘中学校大学図書館職場体験支援

（熊本好宏）

27日 『国士館大学新聞』第538号「資料室だより」55・卒業アルバムにみる商業学校（熊本好宏）

掲載

30日～11月4日 創立記念展「国士館生のよそおい―大正から令和」（来場総計1868名）

【11月】

2日～3日 東京文化財ウィーク特別公開事業参加（国士館大講堂の公開）

11日～15日 大講堂「紅葉の開放週間」（学生解説ガイド、入場者18名）

宏・清水邦俊）

16日 大講堂「見学ツアー」（学生ガイド解説2回、

参加者計14名（鈴木正博）

18日 総務部総務課分室職員による補助業務開始

26日～3月3日 企画展「国士館大講堂」展開催（於

34号館B棟1階展示コーナー）

27日 柴田会館自衛消防隊訓練

【12月】

1日 教育懇談会にて「国士館の歴史」展開催（於大

講堂、入場者345名）（鈴木正博）

5日 興亜専門学校調査（於亜細亜大学、熊本好宏）

10日 亜細亜大学職員学園史料業務視察対応（熊本好

宏）

資料提供のお願い

国士館史資料室では、国士館の歴史に関する資料や情報のご提供をお願いしております。学生時代の日記・手帳・写真・講義ノート・実習用具などをお持ちでしたらお寄せください。資料は事前連絡の上、着払いにて下記にお送りください。

（送付先）

学校法人 国士館 国士館史資料室

〒154 - 0023

東京都世田谷区若林 4-31-10 柴田会館 2階

TEL 03-3418-2691 / FAX 03-3418-2694

E-mail archives@kokushikan.ac.jp



関連規程

国史館資料室規程

(趣旨)

第1条 この規程は、国史館資料室（以下「資料室」という。）の組織及び運営について定める。

(目的)

第2条 資料室は、国史館の歴史に関わる文献、文書及び物品等（以下「資料」という。）を収集・整理・保管し、将来に継承して、建学の精神の高揚と学園及びその教育・研究の進展等に資することを目的とする。

(資料室長)

第3条 資料室長は、理事会の議を経て理事長が委嘱する。
2 資料室長の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

(職員)

第4条 資料室に、必要な職員を置く。

(学術調査員)

第5条 資料室に、学術調査員を置くことができる。

2 学術調査員は、本学園の教職員のうちから資料室長が推薦し、理事長が委嘱する。

3 学術調査員の任期は2年とする。ただし、再任を妨げない。

4 学術調査員は、資料室長の指示を受け、次の調査研究等に従事する。

- (1) 本学の理念及び本学史に関すること
- (2) 資料の収集・整理・保管等に関すること
- (3) 年史・資料集等に関すること

(4) その他資料室に関わる学術的事項

(専門員)

第6条 資料室に、専門員を置くことができる。

2 専門員は、資料室長の指示を受け、次の業務に従事する。

(1) 資料の収集・整理・保管・展示及び情報収集

(2) 年史・資料集等の企画及び編纂

(3) その他資料室に関わる専門的事項

3 専門員の任用期間は、1年とする。ただし、再任を妨げない。

(収集資料)

第7条 資料室は、次の資料を収集する。

(1) 国士館の建学の精神に関する資料

(2) 国士館の発展の経緯に関する資料

(3) 国士館が設置する諸学校に関する資料

(4) 国士館の創立者及び先人に関する資料

(5) その他国士館に関する資料

(所蔵資料の開放)

第8条 資料室は、学園内外の希望者に所蔵資料を開放

し、教育研究に資するとともに学園の歴史の紹介に努めるものとする。

2 資料室の開室及び所蔵資料の閲覧等の細部は、別に定める。

(資料の貸出し)

第9条 資料室の所蔵資料は、貸出しをしないものとする。

ただし、教育研究及び学園の広報に役立つ等、特に必要性が認められた場合は、所定の手続を経て貸出しをすることができる。

(資料の管理)

第10条 資料室の資料及び物品の物品管理責任者は、資料室長とする。

料室長とする。

附 則

この規程は、平成21年4月1日から施行する。

編集後記

『国士館史研究年報 楓原』第16号の刊行を無事に迎えることができました。本号へご寄稿いただきました、昼間良次氏をはじめ、皆様のご尽力に深く御礼申し上げます。

本号では『国士館百年史 通史編』索引について、前号の人名編に引き続き、事項編を掲載しました。編集にあたり、国士館の歴史に関連する機関・組織などの多さに改めて驚くとともに、実り多き学園であることを痛感いたしました。

自校史の授業を担当させていただき、直に大学生や中学生へ本学の理念や歴史を提示して、また文化財である大講堂に赴いて感じてもらうことで、その魅力を伝える大切さを感じました。より一層真摯に取り組んで参りたいと存じます。そして引き続き資料の調査・収集に力を入れていく所存です。今後とも、ご支援を賜りますようお願い申し上げます。

(梶原紗千)

執筆者紹介 (順不同)

昼間 良次 獨協大学職員
熊本 好宏 国士館史資料室事務長
清水 邦俊 国士館史資料室室員

国士館史研究年報 楓原 二〇二四 第16号

令和7年3月10日発行

編集 国士館史資料室

発行 学校法人国士館

〒一五四―八五一五

東京都世田谷区世田谷四―二八―一

TEL 〇三―三四―一八―二六九一

Fax 〇三―三四―一八―二六九四

E-mail archives@kokushikan.ac.jp

印刷 河北印刷株式会社

